

国立公文書館アジア歴史資料センター委託調査

「日本所在の主要アジア歴史資料」
(第2次調査)

WEB公開用

Ver.1.2

平成 21(2009)年 3 月現在

神田外語大学
異文化コミュニケーション研究所

目次

<関東>

栃木県	p.2
茨城県	p.6
千葉県	p.10
東京都	p.14
神奈川県	p.49

<中部>

長野県	p.55
静岡県	p.58
愛知県	p.62

<近畿>

京都府	p.65
奈良県	p.69
大阪府	p.72
兵庫県	p.79

<中国・四国>

岡山県	p.85
広島県	p.90
山口県	p.99

<九州・沖縄>

福岡県	p.101
-----	-------

栃木県

栃木県立文書館

〒320-8501 宇都宮市埜田 1 丁目 1 番 20 号

電話：028-623-3450

<http://www.pref.tochigi.jp/education/bunka/monjyokan/1183680193408.html>

県内各地に残されていた古文書や記録を保存、公開、活用するため、1986年に設置された。約24万点の古文書、約3千冊の行政文書のほか、複製史料などが収蔵公開されている。

公文書は、知事から館長に管理委任されて文書館に引き継がれた「管理委託文書」として収蔵されているが、火災や移転による滅失のため1888（明治21）年以降のものしか存在せず、簿冊にして明治期は約540冊、大正期は約750冊、昭和戦前期約1,400冊である。これらの公文書は館内備え付けの「管理委託文書台帳」（年代別および分野別の簿冊目録、ならびに全文書の件名目録）で検索でき、館内のパソコンでも検索可能である。大半が県行政にかかわるもので、アジア歴史資料と呼びうるものはほとんどない。

私文書は「所蔵文書」「寄贈文書」「寄託文書」に大別されるが、館内備え付けの『所蔵文書解題』で概要を知ることができる。これらの大半は近世文書であるが、次のようなものが含まれる。

「第14師団輜重隊文書」：第14師団輜重隊関係文書11点

「伊澤久治郎家文書」：旧満州国関係写真資料105点

「高塩武一家文書」：日露戦争関連文書を含む648点

「富永慶晤家文書」：日露戦争関連文書を含む1,093点

「須田睦男家文書」：海軍関連文書を含む58点

『文書館だより』『栃木県立文書館研究紀要』が定期刊行されている。

栃木県立図書館

〒320-0027 宇都宮市埜田 1-3-23

電話：028-622-5111

<http://www.lib.pref.tochigi.jp/>

明治43年に開設された二宮文庫を母体に、栃木県教育会図書館を経て、1946年に栃木

県立図書館として開館し、1971年に現在の新館となる。

特別コレクションの一環として、次の文庫がある。

「大山柏文庫」：陸軍元帥大山巖の次男である大山柏(1889-1969)の旧蔵書で、図書 1,658 冊（タイトル数 1,256）・原稿 66 点・雑誌 29 種・パンフレット 55 点などからなる。大山柏は、陸士卒ではあるものの、自宅に大山史学研究所を創設し、史前学会を興して会長に就任するなど考古学者として著名である。しかし同館に収蔵されたのは歴史・軍事関係が中心で、多くの戦史などが含まれている。目録は、同館編・刊『大山文庫目録』（1971年）がある。

宇都宮大学 附属図書館 本館

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350（峰キャンパス）

電話：028-649-5135

<http://www.lib.utsunomiya-u.ac.jp>

宇都宮大学は 1949 年に農学部と学芸学部（現在の教育学部）の 2 学部をもって発足するが、農学部の前身である宇都宮高等農林学校（1922 年創立。1944 年には宇都宮農林専門学校に改称）時代に収集された「旧植民地関係資料」を継承する。

このうち、満州関連のものが整理されて、図書館本館 2 階書庫入口の「旧植民地関係資料室」に配架・公開されている。図書 373 冊、視聴覚資料 8 タイトル、農専図書（旧分類）161 タイトル、パンフレット扱い資料（P 資料 旧分類）573 タイトル、雑誌扱い資料 34 タイトルからなる資料群で、満鉄や関東局の刊行物などが多く含まれる。配架資料の詳細は、1989 年版の冊子体目録を 2005 年に再構築したものがホームページの「旧植民地関係資料室」<http://www.lib.utsunomiya-u.ac.jp/manshu.htm>にある「『満洲』関係資料目録」で公開されており、オンラインで閲覧できる。

満州関連以外のものは未整理であるが、図書館本館書庫 5 層に配架され、次のものが含まれる。

- ・朝鮮関連：総督府農林局などの農林関係調査報告書などのパンフレット約 300 冊および『月刊朝鮮』『朝鮮銀行統計月報』『総督府農事試験場彙報』などの定期刊行物約 200 冊
- ・台湾関連：総督府殖産局や外事部などの調査報告書など約 400 冊
- ・中国関連：興亜院・拓務省・華北交通・華北産業科学研究所などの刊行物約 200 冊
- ・南洋・南方関連：拓務省・外務省などの調査資料など約 60 冊
- ・樺太関連：樺太庁の刊行物など約 30 冊

同大学ではほかに、宇都宮高等農林学校（宇都宮農林専門学校）から継承された「農専図書」が約 18,500 冊継承されており、図書館本館の書庫 1 層（和書：約 12,400 冊）と 5

層（洋書：約 6,100 冊）に配架されて、ホームページの「農専図書分類目録（旧分類図書リスト）」<http://www.lib.utsunomiya-u.ac.jp/nousen.htm> からタイトルをオンラインで閲覧できる。これらのうちの「610 社会学・社会問題」「620 経済学」「640 移殖民」「760 日本地理・地誌」「770 東洋地理・地誌」などにアジア関連のものが見出される。

なお、「大型コレクション」として韓国学文献研究所編『朝鮮総督府官報』（復刻版 147 冊、亜細亜文化社、ソウル、1985 年）も所蔵している。

佐野市郷土博物館

〒327-0003 栃木県佐野市大橋町 2047

電話：0283-22-5111

<http://www.city.sano.tochigi.jp/city-museum/hakubutsukanannai.htm>

佐野市を中心とする地域の考古・歴史・民俗等に関する資料を展示する歴史系博物館として 1983 年に開館。考古学資料約 1,200 点、歴史資料約 28,000 点、民俗資料約 2,800 点、美術工芸資料約 100 点を収蔵する。

その中に、アジア歴史資料として重要な「須永文庫資料」<http://www.city.sano.tochigi.jp/city-museum/sunagahajime.htm> がある。地元の豪農の家に生まれた須永元（1868～1942 年）の旧蔵資料で、慶應義塾に学んだ須永が日本に亡命していた朝鮮独立運動家の金玉均や朴泳孝らと親交を結んだことから、近代日朝関係に関わる多くの資料を含む。須永の死後は財団法人日韓国士顕彰会によって管理されていたが、1962 年の同会解散にともなって佐野市に寄贈され、別項の佐野市立図書館に一括収蔵されていたが、佐野市郷土博物館の設立に伴って多くが移管され、両館に分割収蔵されることになった。和洋書と漢籍・準漢籍の書籍類約 13,000 点、掛軸・扇面・書画帖などの特殊資料約 1,000 点からなる旧蔵資料のうち、郷土博物館には書籍類約 10,000 点と特殊資料の全点が収蔵されている（残りの資料は別項の佐野市立図書館に収蔵）。

郷土博物館が収蔵する書籍類は、佐野市立図書館編・刊『須永文庫目録 漢籍・準漢籍』（1975 年）に収録された漢籍・準漢籍の全点と、同編・刊『須永文庫目録 和洋書の部』（1975 年）に収録された資料（洋装本以外に新聞・雑誌・パンフレット・教科書などを含む）のうちの朝鮮関連のものである。これらの大半は閲覧可能で、須永元の記事についてはコピー本での閲覧も可能である。

ほかに佐野市立図書館編・刊『須永文庫資料展』（1970 年）、佐野市郷土博物館編・刊『須永文庫資料展：須永元と明治の文人たち』（1987 年）が参考となる。

佐野市立図書館

〒327-0012 栃木県佐野市大蔵町 2977

電話：0283-22-1833

<http://www.library.sano.tochigi.jp/>

別項の佐野市郷土博物館で記載したように、朝鮮独立運動家の金玉均や朴泳孝らと親交を結んだ須永元の旧蔵資料が佐野市郷土博物館と佐野市立図書館に分割収蔵されているが、ほとんどの資料は郷土資料館に移管されており、図書館に残されたものは多くない。

図書館に「須永文庫」として収蔵されているものは、佐野市立図書館編・刊『須永文庫目録 和洋書の部』（1975年）に収録された資料（洋装本以外に新聞・雑誌・パンフレット・教科書などを含む）のうちから朝鮮関連のものを除いた残りの部分である。その中には中国、満蒙、台湾関連のものが散見されるが、量的には限られる。

なお、同目録の中心をなす朝鮮関連のものは、同館編・刊『須永文庫目録 漢籍・準漢籍』（1975年）に収録された漢籍・準漢籍の全点、さらに特殊資料全点とともに郷土資料館に移管収蔵されている。

茨城県

茨城県立歴史館

〒310-0034 茨城県水戸市緑町 2-1-15

電話：029-225-4425

<http://www.rekishikan.museum.ibk.ed.jp/index.htm>

茨城県の歴史に係る資料を収集・整理・保存・公開する文書館としての機能と、茨城県の歴史に関する資料を展示・公開する博物館としての機能を併せ持つ施設として、1974年に開館。一橋徳川家から寄贈された美術品や工芸品を所蔵する一橋徳川家記念室のほか、付属施設として県の文化財に指定された建物等が敷地内に並んでいる。

文書館としては、古文書類（約32万点、近代のものを含む）、和書・漢籍（約1万点）、行政文書（約2万点、明治時代から昭和51年度発生文書まで）、行政刊行物（約5万5千点、明治時代から平成19年発行分まで）、議会刊行物（約5千点、明治時代から平成19年度発行分まで）、図書（約61,900冊）を収蔵し、行政文書については文書完結後30年を経過したもの、その他については整理済のものから閲覧室で一般公開されている。

これらの資料については、ホームページの「資料検索」<http://www2.rekishikan.museum.ibk.ed.jp/menu.php> からオンライン検索が可能で、「共通検索」では館内に収蔵されている全資料（美術品・民具・一般図書・古文書・和書・漢籍・行政資料・行政文書など）約40万件の横断検索ができ、資料内容の紹介がオンラインで閲覧できる。また、「史料利用の手引き」http://www2.rekishikan.museum.ibk.ed.jp/mus_search.php では、各資料群の説明を閲覧できる。ほかに、館内では刊行目録、簡易ファイル目録、カード目録が利用できる。なお、資料の概説として『史料利用の手引き』（1995年）が刊行されているが、この手引きの刊行後に整理された資料群があり、また、手引きでは解説されているもののオンライン検索にはデータが未登録のものもあるので、両方を利用することが望ましい。

戦前期の県の行政文書は戦災や敗戦時の破棄などでほとんど残されておらず、現存するものは明治期140点、大正期103点、昭和戦前期407点の計650点（2008年3月現在）である。この中でアジア歴史資料といえるものは極めて限られており、日清日露戦争関連や戦後の引揚げや在日朝鮮人に関わるものが散見される程度である。刊行目録としては『茨城県行政文書目録（1）』（1997年）があり、1873～1946年の文書が収録されている。県の布達については『史料目録』シリーズで財行政、教育、兵事警察衛生、商工労働、農林水産の分野別で目録が編まれ、ほかに『茨城県議会刊行物目録』（1）および（2）に戦前期の議会刊行物が収録されている。

村役場文書では、「旧大池田村」「旧八里村」「旧北山内村」などに召集、戦没、供出、復員などに関わる文書が散見される。

私文書は近世文書が大半を占めるが、日清・日露戦の従軍記録を含む「小林家文書」、キリスト者の黒沢徳治が残した文書で、日清戦争開戦をめぐる日本普連土教会内部の確執を伺わせる「黒沢忠夫家文書」、県視学補として関わった占領軍の教育改革の関連資料（1947～48年）からなる「平井家史料」がある。

他に、常磐炭田を中心とした石炭統制会東部支部に残された資料 358 点からなる「石炭統制会史料」があり、これには朝鮮人・中国人・連合軍俘虜の使役に関わる資料が含まれている。目録は同館編・刊『石炭統制会東部支部資料目録』（史料目録 39、1996年）があり、主要資料が長澤秀編『戦時下朝鮮人中国人連合軍浮虜強制連行資料集（石炭統制会極秘資料）』全4巻（1992年、緑陰書房）に収録されている。

また、茨城教育協会の『茨城教育協会雑誌』や後身の茨城県教育会の『茨城教育』の戦前期分も収蔵されており、「鮮満視察特集」などが含まれている。

なお、同館には「神兵隊事件関係資料」も収蔵されている。

茨城県立図書館

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸 1-5-38

電話：029-221-5569

<http://www.lib.pref.ibaraki.jp/home/index.htm>

1903年に創設された図書館は戦災で一切を焼失したため、戦前期からの継承資料はないが、1956年に再建されて2001年に現在の新館となる。

郷土資料のなかに、1824（文政7）年に「異国人」（英国捕鯨船員）12人が水戸藩大津浜（現・茨城県北茨城市）に上陸した際の様子を一冊の絵図にまとめた「異国伝馬船大津浜へ上陸并諸器図等」が含まれている。解説および絵図の一部はホームページの「所蔵資料紹介」http://www.lib.pref.ibaraki.jp/home/shozou/siryoku1_4.htm で閲覧できる。

日鉱記念館（新日鉱グループ）

〒317-0055 茨城県日立市宮田町 3585

電話 0294-21-8411

<http://www.shinnikko-hd.co.jp/corporate/museum/index.php>

1905年、久原房之助が日立鉱山の開発に着手し、数年にして日本の四大銅山の一つに数えられるまでに発展させた。1911年に久原鉱業株式会社を設立した久原は、国内外の資源

開発を進め、同社を国内トップの産銅会社に成長させると共に、事業の多角化を図って後の日産コンツェルンの基盤をつくる。1928年、久原の義兄の鮎川義介が経営を受け継ぎ、日本産業株式会社（日産）と社名を改称すると共に、鉱業部門の日本鉱業株式会社（新日鉱グループの前身）、電気機械の日立製作所のほか、電力、自動車、化学、水産、不動産などを擁する日産コンツェルンを形成する。日本産業は1937年に満州に移転して満州重工業開発株式会社となるが、日本の敗戦とともに閉鎖され、日産コンツェルンは解体される。海外資産の全てを失った日本鉱業は、戦後、国内の事業を再建発展させ、現在、石油事業のジャパンエナジーと金属事業の日鉱金属を擁する新日鉱グループとなっている。

日鉱記念館は、創業80周年を記念して1985年に日立鉱山跡地に建てられた企業博物館で、日立鉱山の歴史と新日鉱グループの足跡や現況を展示している。展示には戦前期のアジア地域における資源開発の歴史や久原関連資料などが含まれ、ほかに久原に関わる「書簡」約200点、「書籍・雑誌・新聞等」約120点、「一般文書」約470点が収蔵されている。その中には孫文から久原に宛てた書簡などが含まれる（一部は展示されている）。ただし、1928年に政界に転身し、通信大臣や立憲政友会総裁などを務めた政治家としての久原に係わる資料は多くない。

刊行目録はないが、館内の執務用に作成された資料データベースがある。

茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703 茨城県北茨城市 大津町椿 2083

電話：0293-46-5311

<http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

岡倉天心は、東大在学中からフェノロサの通訳を務め、帝国博物館理事・美術部長、東京美術学校校長を歴任するが、内紛で辞職し、1898年に日本美術院を設立する。1901年にインドに渡って、1902年に詩人タゴールと親交を結び、1904年にはアメリカに渡ってボストン美術館中国日本部に入り、1910年からは同部長を務めて1913年に没した。その間、ロンドン、ニューヨークで『東洋の理想』『日本の覚醒』『茶の本』を英文で出版するが、1906年には日本美術院を再生すべく五浦の地に移し、横山大観なども移住した。こうした経緯から、この地に天心の遺跡・遺品が残されることになった。

1997年に開館した茨城県天心記念五浦美術館には岡倉天心記念室が設けられ、天心の歩みや五浦との関わり、書簡などが展示されている。

なお、天心旧邸や六角堂などの遺跡は1942年に岡倉天心遺跡顕彰会に寄贈され、1955年に移管されて茨城大学五浦美術文化研究所（〒319-1703 茨城県北茨城市大津町五浦727-2 電話：029-228-8531 <http://www.ibaraki.ac.jp/izura/>）となっている。同研究所では、横山大観の筆になる「亜細亜は一つ」の碑のほかに、天心記念館を設けて天心の遺品

や関連資料も展示されている。

両施設とも、展示品の一部をホームページで鑑賞することができる。

千葉県

千葉県文書館

〒260-0013 千葉市中央区中央 4-15-7

電話：043-227-7555

<http://www.pref.chiba.jp/bunsyokan/>

千葉県の行政文書や古文書などの資料を収集保存し、その活用を図るとともに、県の行政に関する情報を提供する施設として、1988年6月開館した。千葉県史の編さん・刊行も行っている。

●公文書

県等が作成した公文書を収集・整理し、文書完結後30年を経過したものを公開している。収蔵量は、県の公文書が約74,000冊、このほかに寄託によるもの(旧役場文書等)が約56,000点となっており、県の公文書のうち閲覧対象は、約35,000冊(整理済分)である。一部については、ホームページ上で内容が紹介されている。戦前に「模範村」として知られた旧・源村の公文書については、『旧源村役場文書目録』第1～3集(1998～2001年)がある。

検索は、刊行された目録があるもの以外は、文書館備え付けの冊子目録、カード目録で行う。一部に中国、朝鮮、台湾に関する資料が含まれているが、まとまったものはほとんどない。「旧源村役場文書」の中に日露戦争から太平洋戦争にかけての軍事郵便が含まれている。

●古文書

千葉県関係の古文書、281件、約438,000点を所蔵、これらのうち整理の終了した約215,000点が利用可能である(2008年2月時点)。その概要はホームページ上の収蔵古文書一覧で知ることができ、刊行された目録についても一覧が掲載されている。検索は、刊行された目録があるもの以外は、文書館備え付けの冊子目録、カード目録で行う。

「市原市飯沼 立野家文書」には、大正末から昭和初期にかけて千葉県内で飼養されていた朝鮮牛に関する資料が含まれている。千葉県文書館編『収蔵文書目録第14集 市原市飯沼 立野家文書目録』(2001年)が刊行されている。

「千葉市若葉区西都賀 富樫家文書」には、満洲航空株式会社写真班の調製になる「満洲国」の航空写真23枚が綴じられた写真帖が含まれている。

「市原市養老おとづれ文庫」には、戦後の中国の新聞・雑誌が含まれている。千葉県文書館編『市原市養老おとづれ文庫文書目録』上・中・下(1999年)が刊行されている。

千葉県立中央図書館

〒260-8660 千葉県千葉市中央区市場町 11-1

電話：043-222-0116

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

1892年、千葉県教育会附属書籍館（のち図書館と改称）が開館した。その後1924年、皇太子（のちの昭和天皇）の御成婚記念事業として県立図書館が設置されることとなった。1951年に千葉県立中央図書館と改称して、1968年に現在地に新館舎が落成した。

明治時代に千葉教育会附属書籍館として開館して以来、受け入れてきた図書・雑誌類の中に中国、朝鮮、東南アジアをはじめとするアジア関連の資料が含まれている。官庁や植民地機関が発行したものも含まれているが、公共図書館としての性格上、一般書、研究書、1930年代に軍が宣伝のために発行した印刷物などが多いのが特徴である。これらは図書館ホームページのOPAChttp://www.library.pref.chiba.lg.jp/cgi-bin/Sopcsmin.sh?p_mode=1で検索が可能である。漢籍については、京都大学人文科学研究所の「全国漢籍データベース」<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki/>から検索できる。

刊行された目録は、以下のとおり。戦前に刊行された目録に『千葉県図書館和漢書分類目録』（1925年）、『千葉県図書館和漢図書分類目録 昭和9年3月現在 1 総類』（1937年）、『同 昭和8年3月現在』（1940年）がある。戦前資料を含む目録として、『千葉県立中央図書館蔵書目録』第1～4編（1964～1966年）、『千葉県立中央図書館旧蔵資料書名目録 人文科学篇』（1973年）がある。和装本や漢籍については、『千葉県立中央図書館所蔵和装本索引稿本』国書之部 巻1～2（1971年）、『千葉県立中央図書館所蔵漢籍目録』（1986年）がある。

特殊文庫としては、次のようなものがある。

「市原蒼海文庫」は、千葉県で教育者、新聞人などとして活動した市原蒼海（1883-1972）の蔵書である。977冊、易学関係と漢詩に関わる資料が多い。『千葉県立中央図書館所蔵 市原蒼海文庫目録 付・市原蒼海略伝』（1978年）がある。漢籍は全国漢籍データベース、和書はOPACで検索できる。

「桜井静文庫」は、千葉県の自由民権運動家、衆議院議員（当選2回）、のちに大連に移住、大連居留民会長にもなった桜井静（1857-1905）の蔵書、著書、遺稿、国会開設運動関係文書である。文庫は主題ごとに分けられて整理され、一括してみることができない。OPACや前掲の『和装本索引稿本』などの目録から検索できる。

「日高誠実文庫」は、漢学者で、明治維新後陸軍省に出仕、退官後は梅ヶ瀬溪谷（現・市原市）に住み、私塾を開いていた日高誠実（1836-1915）の蔵書である。漢籍1938冊、国書1405冊、その他196点（山県有朋からの書簡などが含まれる）からなる。『千葉県立中央図書館所蔵 日高誠実文庫』（1982年）がある。

「堀田文庫」は旧佐倉藩主堀田家の蔵書で、和漢書約 4400 冊からなる。漢籍は全国漢籍データベース、和書は OPAC で検索できる。その他前掲の『和装本索引稿本』にも収録されている。

千葉県資料室には千葉県に関連する資料(図書、新聞・雑誌)が所蔵されている。県・市町村が発行した資料、地図、県民の著作、江戸時代後期以降の歴史的資料などを持つ。目録として、千葉県公共図書館協会編『千葉県郷土資料総合目録』第 1 集(1973 年)、第 2 集(1984 年)がある

財団法人 千葉県史料研究財団

本室：〒260-0013 千葉市中央区中央 4-15-7 千葉県文書館 3 階

電話：043-221-5100

新都市ビル分室：〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央 4-13-28 新都市ビル 8 階

電話：043-202-3671

<http://homepage2.nifty.com/zaidankouko/>

千葉県における郷土史に関する史資料の調査研究を行い、その成果を活用すること等により、県民の郷土に対する愛着と理解を深め、ふるさとを愛する心を育み、もって県民が共に次代に誇り得るより豊かな千葉県を築くことに寄与することを目的とし、1991 年に設立された。

千葉県史(全 51 巻)の編さん・刊行事業に当たっている。資料原本等は収集していない。複写・紙焼き等の収集資料については、県史編さん事業が終了するまでは他への利用、閲覧を行わない。県史編さん事業は 2008 年(平成 20)度末で終了し、財団も解散の予定である。以後、財団所蔵の資料は、千葉県文書館で順次公開される予定である。

成田山仏教図書館

〒286-0024 千葉県成田市田町 312

電話：0476(22)0407

<http://naritasanlib.jp/>

1901 年 1 月成田山新勝寺貫首石川照勤が文部大臣に私立成田図書館設置の開申書を提出、1902 年 2 月に開館した。戦後、機構改革により財団法人成田山文化財団が運営する公共図書館となった。1988 年に成田山仏教図書館に改称した。

閉架式図書館で、蔵書はホームページから「SIMPLE-OPAC 蔵書検索システム」で検索

できる。また雑誌・新聞については同じくホームページ上の「成田山仏教図書館逐次刊行物目録」からも検索できる。

刊行された目録には『私立成田図書館和漢書分類目録』第1編（1910年）、第2編（1914年）、『成田図書館蔵書分類目録』第3～7編（1977～1981年）がある。館内にカード目録もある。

蔵書の分野は幅広く、その中に明治～昭和戦前期に発行された中国、朝鮮、台湾、満洲、その他のアジア地域に関する哲学、宗教、文学、語学、歴史、地理、法律、政治、経済、産業、交通、社会、文化、風俗、植民、民族、建築、伝記等の図書が含まれている。

雑誌も明治期から所蔵されており、その中に中国、朝鮮、台湾、満洲、東アジア等に関するものが含まれている。学術研究雑誌、専門雑誌、植民地機関の発行した逐次刊行物、日清戦争・日露戦争・日中戦争等の実記・画報等である。

各種文庫として、次のようなものがある。

「望洋文庫」：成田山新勝寺貫首にして初代図書館長でもあった前出の石川照勤の蔵書で総冊数は13,620冊（うち洋書1249冊）である。叢書、辞書、宗教、哲学、教育、文学、美術、歴史、伝記などが主なもので、洋書には東洋、特に日本に関するものが多い。前掲『成田図書館蔵書分類目録』の中に目録がある。

「白鳥庫吉文庫」：東洋史学者・東大教授であった白鳥庫吉の蔵書の一部365冊である。内容は朝鮮本である。独立した目録はない。

「柏原文太郎文庫」：柏原文太郎は成田出身で、近衛篤磨らと上海に東亜同文書院を設立するなどアジアとの関係が深く、衆議院議員も務めた。その所蔵していた漢籍約4400冊である。独立した目録はない。

これら文庫に含まれる図書も前出の「SIMPLE-OPAC 蔵書検索システム」や『成田図書館蔵書分類目録』で検索できる。

東京都

東京都公文書館

〒105-0022 東京都港区海岸 1-13-17

電話：03-5470-1334（整理閲覧係）

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/>

1902（明治 35）年、東京市会が「東京市史編纂ノ件」を可決、市史編さん事業が始まり、1911年に最初の編纂物である「東京市史稿 皇城篇」第1が刊行された。戦後の1952年、史料の編さん業務を主体として、都政に関する文書の保存業務を統合し、都政史料館が設置された。さらに1968年に、都政史料館と総務局総務部文書課の機能の一部を統合して東京都公文書館が設置された。

東京都の公文書や、東京都の前身である東京府・東京市の公文書、東京都・府・市の発行した行政刊行物（庁内刊行物）、江戸・東京に関する歴史資料・図書、地図等を収集・保存し、これらの効率的な利用を図るとともに、併せて都に関する修史事業（『東京市史稿』『都史資料集成』などの編さん・刊行）を行っている。

●公文書

「東京府文書」＜慶応4年～昭和18年（1868～1943）までの東京府からの引継ぎ文書で約22,400冊＞、「東京市文書」＜明治22年～昭和18年（1889～1943）までの東京市からの引継ぎ文書で約12,100冊＞、および「東京都文書」＜昭和18年（1943）7月都制施行から現在までの東京都からの引継ぎ文書で約785,700冊＞の三つの文書群からなる。検索には館内電子データベースのほか、以下のような方法がある。

- ・東京都公文書館編・発行『東京都公文書館蔵書目録』1～3（2000年）。

同目録は冊子体だけでなく、ホームページの次の各頁でも閲覧可能である。

http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/03011zousho_mokuroku1.pdf

http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/03012zousho_mokuroku2.pdf

http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/03013zousho_mokuroku3.pdf

- ・東京都公文書館編・発行『東京都公文書館所蔵行政文書目録・学事編』明治28～40年（1990～2000年）。

- ・東京都公文書館編『関東大震災と情報－東京都公文書館所蔵・関東大震災関係資料目録－』（東京都政策報道室都民の声情報公開課、1997年）。

明治期の公文書には、外国人の雇用や居留地に関する資料、1884年の朝鮮における甲申事変に関わる資料、日本に亡命した金玉均に関わる資料、清国人への家屋貸渡・引払の届出に関わる資料、日清戦争に関わる資料、府立中学校・染織学校の満州修学旅行に関する

資料、清国人・インド人留学生に関する調査資料などが、昭和戦前期の文書に、満州国皇帝の奉迎に関わる資料、満州移民に関わる資料、東亜大都市聯盟に関わる資料、汪兆銘南京国民政府主席・行政院長の歓迎に関わる資料などが含まれている。

● 庁内刊行物

東京都及びその前身である東京府・東京市が発行した、明治期から現在までの印刷物である。数量は約 79,900 冊。検索方法には、以下のようなものがある。

・ 館内検索データベース

東京都公文書館編・発行『東京都公文書館所蔵庁内刊行資料目録 平成 13 年 3 月末現在』（2002 年）。その内容は、ホームページでも次の通り閲覧できる。

「東京府作成刊行物」

http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/03014fu_kankoubutu.pdf

「東京市作成刊行物」

http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/03015shi_kankoubutu.pdf

「東京都作成刊行物（昭和 18 年—平成 12 年：分類番号順）」

http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/03016to_kankoubutu1.pdf

「東京都作成刊行物（平成 10 年度以降受入分：局別）」

http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/03017to_kankoubutu2.pdf

● 図書類

公文書館の前身である都政史料館開設時に東京都文書課から引き継いだ図書類と、それ以後東京都の史料編さん事業の参考とする目的で収集してきた図書類を所蔵する。明治期から現在までのもので、数量は約 75,000 冊である。検索方法に館内検索データベースなどがある。

● 収集または寄贈・寄託を受けた江戸・東京に関するコレクション

検索方法には、館内検索データベース、館内備え付けの各目録などがある。

- ・ 「内田祥三資料」：建築学者、東京帝国大学総長の内田祥三（1885-1972）の関係資料で約 3,400 点。戦前の中国、「満州国」、朝鮮、台湾の都市計画に関わる資料や、在中国日本領事館建築工事関係資料、上海自然科学研究所の建築工事関係資料、東方文化学院東京研究所建築工事関係資料などが含まれている。目録に東京都公文書館編・発行『東京都公文書館内田祥三資料目録』1・2（1989、1995 年）がある。館内検索データベースでも検索できる。
- ・ 「三好豊太郎資料」：明星大学名誉教授（社会事業・社会福祉）の三好豊太郎（1894-1990）の蔵書のうち逐次刊行物が遺族により寄贈されたもの。華北社会事業協議会『北京特別市社会事業一覧』（1940 年）が含まれている。館内目録として「三好豊太郎資料目録」がある。なお、書籍類は明星大学図書館に寄贈されている。
- ・ 「大木喬任資料」：第 2 代東京府知事を務めた大木喬任に関する資料。家政に関する資料が中心。

東京都立中央図書館

〒106-8575 東京都港区南麻布 5-7-13

電話：03-3442-8451

<http://www.library.metro.tokyo.jp/>

1908年に開館した東京市立日比谷図書館を前身とする都立日比谷図書館の蔵書を引き継いで、1973年に現在地に開館した。蔵書数は国内の公立図書館では最大級の約160万冊（2009年3月末現在）。

中央図書館1階には江戸・東京の資料に関わる資料（約16万冊）および国内外の歳に関する資料を集めた「都市・東京情報コーナー」があり、また5階には、江戸期後期を中心とした刊本、写本、古地図、錦絵、漢籍などの貴重資料を集めた「特別文庫室」をもち、次のような文庫が含まれている。

「市村文庫」：学習院や東京帝国大学の教授として中国政治史・思想史を研究した市村瓚次郎（1864-1947年）旧蔵の漢籍・朝鮮図書・一般図書・逐次刊行物など約30,000冊で、太平洋戦争末期に買い上げられた戦時特別買上図書の一つ。目録として東京都立日比谷図書館編・刊『市村文庫目録』（1963年）がある。

「実藤文庫」：第二早稲田高等学院教授から外務省文化事業部の在支特別研究員として中国に派遣され、1938年から1年を中国で過ごした実藤恵秀（1896-1985年）が、主として当時に中国で収集した清末以来の日中文化交流に関する資料約5,800冊。これも、太平洋戦争末期に買い上げられた戦時特別買上図書の一つである。

内容は「東遊日記」（中国人日本留学生の日記）「中国人留学生用の日本語教科書」「中国語訳された日本人の著作」「清末の新学全書」などが主で、一般図書、中国での創刊雑誌を含む逐次刊行物なども含まれる。目録として東京都立日比谷図書館編・刊『実藤文庫目録』（1966年）、および同『追加仮目録』（1974年に図書館が追加購入したものの目録）がある。主要なものはマイクロフィルム化され、目録がマイクロ台帳をかねている。

「近藤記念海事財団文庫」：日本郵船社長であった近藤廉平（1848-1921年）の業績を記念して1931年に設立された文庫を1932年に寄託、寄贈されたもの。東京都立日比谷図書館編・刊『近藤記念海事財団文庫図書目録』（1934年）には約2,500点、同『増補改訂版』（1937年）には約4,000点が収録されているが、戦災を免れたのは疎開されていた和本・貴重書約1,500点のみである。中に異国船渡来や海軍関係のものが含まれている。目録として東京都立日比谷図書館編・刊『近藤記念海事財団文庫目録』（1966年）がある。

これらの資料の画像や目録の一部は、ホームページの「特別資料室の御案内」<http://www.library.metro.tokyo.jp/12/12350.html>から閲覧することができる。

<国立大学法人>

東京大学史史料室

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-3811-3393（東京大学本部広報グループ）

http://www.u-tokyo.ac.jp/history/index_j.html

東京開成学校（前身は江戸幕府の蕃書調所）と、東京医学校（前身は江戸幕府の種痘所）とを合併して、1877（明治10）年東京大学が成立した。1886年に帝国大学となり、1897年京都帝国大学の設置にともない、東京帝国大学と改称した。戦後の教育改革により、1949年に東京大学となった。

東京大学史史料室は、『東京大学百年史』全10巻を刊行した「東京大学百年史編集室」を引き継ぐ形で1987年に設置された。東京大学に関係した資史料を収集・保存するとともに、閲覧業務を行っている。

下記のような史料に加えて、東京大学を中心とする大学関係沿革史誌も所蔵し、目録に東京大学史史料室編・発行『東京大学史史料室所蔵大学関係沿革史誌目録』（2004年）がある。本目録はホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/history/03_08_j.html から閲覧できる。

- ・「渡邊洪基史料」：帝国大学初代総長を務めた渡邊洪基（1847～1901）の関係史料。目録に東京大学史史料室編・発行『渡邊洪基史料目録』（2005年）がある。外務省勤務時代の文書に、台湾出兵など明治初期の日清関係に関するものが含まれている。
- ・「小池行松氏旧蔵史料」：日中戦争期に文部省教学局に勤務し、のちに新潟大学教育学部教授を務めた小池行松氏の旧蔵史料。文部省教学局勤務中、その職務と関連して集積されたもので、思想統制・取り締まりに関するものである。思想局・教学局、その他省庁の資料も含む。ソ連や中国、アジアに関するものも含まれている。目録に、東京大学百年史編集室編・発行『東京大学史史料目録11 小池行松氏旧蔵史料目録』（1984年）がある。
- ・「坪井九馬三史料」：元東京帝国大学文科大学長・歴史学者の坪井九馬三の関係史料である。坪井航三（海軍中将）が日清戦争中に作った漢詩をまとめた『征清軍中公余』（1897年）、「蒙古音字一覧、蒙古仮字表、蒙古新字附満州文字」、「カムチャッカ之景（写真）」、中国の地図等が含まれている。目録に『東京大学史史料目録12 坪井九馬三史料目録』（1987年）がある。
- ・その他、総長経験者の史料として「古在由直史料」（目録：東京大学史史料室編・発行『古在由直史料目録』2007年）、「加藤弘之史料」（目録：東京大学百年史編集室編・発行『東京大学史史料目録3 加藤弘之史料目録・井上哲次郎史料目録』1977年、『同7 加藤弘

之史料目録（2）』1980年）、「内田祥三史料」（目録：『同4 内田祥三史料目録』1978年）がある。

- ・「井上哲次郎史料」：東京帝国大学名誉教授・哲学者の井上哲次郎の関係史料である。『東京大学史史料目録3 加藤弘之史料目録・井上哲次郎史料目録』（前掲）がある。

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 図書室

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5841-5915

<http://www.lib.iii.u-tokyo.ac.jp/>

1929年東京帝国大学文学部に新聞研究室が開設され、それを母体として1949年新聞研究所が設立された。1992年に新聞研究所は社会情報研究所に改組され、さらに2004年に大学院情報学環・学際情報学府と統合した。

同図書室は、新聞、テレビ、ラジオ、映画、言論出版、マスコミュニケーション、ジャーナリズム、広告宣伝、災害情報、社会情報学、社会心理学などに関する資料を所蔵する。所蔵資料の形態は図書・雑誌が主で、蔵書数は約117,192冊である（2006年3月末現在）。なお、新聞の原紙・縮刷版は、大学院情報学環・学際情報学府附属社会情報研究資料センターに所蔵されている。

貴重資料の中に以下のものがある。多くは、情報学環（旧社会情報研究所、旧新聞研究所）の創設者である小野秀雄のコレクションに由来すると言われているが、全てがそうであるかは不確実である。

「新聞号外コレクション」は明治から昭和戦後期にかけての号外（原紙）825枚である。日清戦争、日露戦争、満州事変、上海事変、日中戦争、第二次世界大戦に関するものが主で、『東京日日新聞』200枚、『東京朝日新聞』188枚、『読売新聞』113枚、『時事新報』73枚、『国民新聞』53枚などからなる。備え付けの目録がある。現在データベース化が進められている。

「日本戦時ポスター」には、昭和戦前期における、満洲国関係の宣伝ポスター、中国大陸地図、東南アジア地図、第二次世界大戦時に日本が東南アジア地域で発行した英語・フランス語・スペイン語・中国語・タイ語のビラ・ポスター等、内閣情報局や大政翼賛会の宣伝ポスター、鉄道省国際観光局の海外向け日本観光ポスター、日本郵船の企業広告ポスター、歌舞伎・狂言・演劇・音楽・映画等のポスターが含まれている。紙焼きされた複製資料が利用できる（約160枚）。一部の画像がWebギャラリー <http://www.lib.isics.u-tokyo.ac.jp/~lib/ono/wg-index.html> に掲載されている。目録等はない。

「戦時宣伝資料」は、旧日本陸軍が中国本土で行った戦時宣伝、および中国側の抗日宣伝に関する各種資料である。宣伝ビラ（伝単）、新聞の切抜き、絵葉書、紙芝居、お菓子の箱に印刷された宣伝文、宣伝歌の聞き書き（？）等々、雑多な資料のコレクションである。目録等はなく、現在整理作業が進められている。

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 社会情報研究資料センター

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5841-5906

<http://www.center.iii.u-tokyo.ac.jp/>

1964年、東京大学新聞研究所は新聞資料専門室である「プレスセンター」を開室、1967年に新聞研究所附属研究施設として「新聞資料センター」を正式に発足させる。その後1992年に新聞研究所が社会情報研究所に改組された際に「情報メディア研究資料センター」と改称され、さらに2004年の大学院情報学環・学際情報学府と社会情報研究所の統合に伴い、「社会情報研究資料センター」と改称された。

新聞資料を中心に、各種メディア情報資料を研究のために収集、整理、公開している。収蔵資料は、製本済原紙約20,000冊、縮刷版約8,000冊、マイクロフィルム約45,000巻に上る。

戦前期に満洲、朝鮮、台湾、関東州、上海などの旧植民地で発行されていた日本語新聞、中国・東南アジア・インドなどで発行されていた現地新聞を、原紙やマイクロフィルムで所蔵する。これらの所蔵は、ホームページの「東京大学情報学環附属社会情報研究資料センター所蔵 新聞目録」<http://center30.isics.u-tokyo.ac.jp/isicsn/mokuroku.html#form> から検索できる。

冊子目録としては、『東京大学社会情報研究所附属情報メディア研究資料センター所蔵新聞目録』（1992年）がある。

東京大学大学院 法学政治学研究科 附属近代日本法政史料センター 明治

新聞雑誌文庫

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5841-43171

<http://www.j.u-tokyo.ac.jp/lib/meiji/>

明治新聞雑誌文庫（通称、明治文庫）は、博報堂創業者瀬木博尚の寄付金と宮武外骨・吉野作造等の尽力によって1927年に東京帝国大学法学部附属施設として設置された。1981年、東京大学法学部附属近代日本法政史料センターへと改組され、2004年4月より大学院法学政治学研究科附属となった。センターは新聞雑誌部（明治新聞雑誌文庫）と原資料部の2部門に分かれており、近代日本法史及び政治史に関する資料文献を収集し、これを広く研究のための利用に供することを目的としている。

明治新聞雑誌文庫収蔵の雑誌・一部図書については、「東京大学 OPAC」
<https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/basic-query?mode=2> で検索できるが、新聞、貴重書その他の検索については冊子体目録を利用する。

新聞については、東京大学法学部明治新聞雑誌文庫編『明治新聞雑誌文庫所蔵新聞目録』（東京大学出版会、1977年）がある。オンライン上では 国立国会図書館作成の全国新聞総合目録の「0003 東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫」http://sinbun.ndl.go.jp/cgi-bin/outeturan/E_S_nws_lst.cgi?ID=0003 で検索できる。戦前に中国、台湾、朝鮮、樺太、「満洲」等で発行されていた日本語新聞、中国語新聞、英字新聞を多数所蔵する。

雑誌については、「東京大学 OPAC」のほか、『明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目録』（1979年）、『東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』全150巻（大空社、1993～1998年）がある。

図書、その他の資料については、『明治新聞雑誌文庫所蔵図書・資料類目録』（1983年）がある。東洋思想、明治期の日朝・日清関係、戦前のアジアの歴史・地理、人名、民族、中国文学の図書や、日清戦争・日露戦争等の新聞号外・新聞附録画などが含まれている。

また、以下のような個人に関わる文庫を持つ。

- ・「吉野文庫」：吉野作造（大正・昭和前期の政治学者）の旧蔵書。館内に冊子体の「吉野文庫書名目録（和書）」、「吉野文庫洋書目録」がある。戦前に出版された朝鮮、中国を中心とするアジアの国際関係についての図書が含まれている。
- ・「岡文庫」：岡義武（昭和期の政治史学者）の旧蔵書。館内に冊子体の「岡文庫目録」がある。戦前に出版されたアジアの政治外交に関する図書が含まれている。
- ・「井手三郎文庫」：井手三郎（東亜同文会上海支部長・上海日報社長・衆議院議員）の旧蔵書。上海で発行された日本語・中国語の新聞、中国で発行された日本語・中国語の雑誌、東亜同文会関係雑誌、日本で発行された中国関連雑誌、その他の東アジア関連雑誌、さらに東洋思想、アジア地理、中国を中心とする政治、外交、国際関係（東亜同文会関係）、経済、教育（東亜同文書院関係）、産業、美術、語学に関する図書・資料、その他漢籍が含まれている。目録に『井手三郎文庫目録』（1986年）がある。
- ・「宮武外骨関係資料」：宮武外骨（ジャーナリスト、明治文庫の創設者）の著述・編集・発行に関わる新聞・雑誌・図書および草稿・切り抜きその他の関係資料である。宮武外骨が台北で発行した『台北新報』1号（1899年10月25日、1号限廃刊）が含まれて

いる。『明治新聞雑誌文庫所蔵図書・資料目録』に「宮武外骨書函目録」が収録されている。

東京大学 農学生命科学図書館

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 工 2 号館 9F91D2

電話：03-5841-5427

<http://www.lib.a.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学農学部図書館は、1965年、それまで各学科、講座に分散していた図書、雑誌を集中し、利便性を向上させることを目的として、ロックフェラー財団の支援を得て建設された。2001年に農学生命科学図書館と改称した。同館では、卒業論文や近世期から戦後に至る農学に関連する資料などを数多く所蔵している。

卒業論文は、東京農林学校時代の1887年以降のものが保存されている。このうち、謝花昇、安藤廣太郎、有馬頼寧、小平権一、那須皓のものは、同館ホームページ内の「展示資料リスト」<http://www.lib.a.u-tokyo.ac.jp/tenji/125/tenjilist.html>で他の資料とともに紹介されている。これらは、別館1階のカード目録から検索することができる。

「旧農経資料」は、東京大学農学部の旧農業経済学科が所蔵していた資料群である。農家や農産物、農業団体、農政など農業と経済に関連する様々な調査資料からなる。中でも、農商務省や、満鉄調査部などの旧植民地の調査機関によって作成された数々の調査資料は、貴重である。これらは、朝鮮、台湾、樺太、満蒙、南洋といった地域ごとに分類されている。この他にも、世界各国の調査資料や『移民調査報告』をはじめとする移民に関する調査資料が含まれる。これらは、別館2階のカード目録から検索できる。

「旧農経資料」を除く多くの資料は、「東京大学 OPAC」<https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/basic-query?mode=2>で検索できる。これらの中には、官公庁資料や『大日本蚕糸会雑誌』、『水産』といった戦前の国内の農学関係の雑誌、『実業公報』（中華民国）などの海外の雑誌などが含まれる。

なお、同館は現在耐震改修工事中であり、本館収蔵資料は利用できない。詳しくは、同館ホームページ内の「耐震改修工事による図書館資料の利用制限について」<http://www.lib.a.u-tokyo.ac.jp/news/index.html#20080314-2>を参照のこと。

東京大学 社会科学研究所 図書室

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5841-4944

<http://library.iss.u-tokyo.ac.jp/>

1946年8月の勅令第349号によって東京帝国大学に社会科学研究所が附置された。南原繁総長のイニシアティブにより、敗戦後最初に行われた東京大学再生のための改革であった。研究体制は、米国、英国、公法、政治、経済の5部門から出発した。その後、拡充と改組が行われ、現在は比較現代法、比較現代政治、比較現代経済、比較現代社会の4部門、および日本社会研究情報センターによって構成されている。

所蔵する図書や雑誌については、「東京大学 OPAC」
<https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/>から検索できる。文書資料等については社会科学研究所図書室ホームページの「コレクションについて」や「プライバシー保護資料、原資料、文庫・コレクション」で、文書名が挙げられている。しかし、それ以外にも所蔵資料がある。

・「島田文書」は、島田俊彦旧蔵の日本海軍軍令部第六課（中国情報担当）の関係資料125点で、主に1932（昭和7）年～1940（昭和15）年、上海事変～日中戦争にかけての中国関係文書の綴りである。これらは島田氏が共同編者を務めた『現代史資料』の「満洲事変」、「続・満洲事変」、「日中戦争」（1～5）にもかなりの部分が収録されている。目録に東京大学社会科学研究所資料・雑誌掛編『東京大学社会科学研究所所蔵島田文書目録—海軍軍令部関係資料—』（東京大学社会科学研究所図書委員会、1978年）、内容を紹介したものに有賀弘・坂野潤治「資料紹介 故島田俊彦氏旧蔵文書について」（『社会科学研究』29-1、1977年）がある。「島田文書」には以上のほか、島田氏が研究のために集めた図書類74タイトルも含まれている。マイクロフィルムがある。

・「支那関係資料」（106冊）は、中国・「満洲」に関する調査資料である。「満洲国」、河北省、北京、上海、無錫、寧波、杭州、営口、奉天等に関する商業や鉱業等の調査が含まれている。タイトル一覧のカードがある。

・「巽氏旧蔵資料」は、通信省の技師だった巽良知氏が戦前戦後に亘り収集した、主に通信省、大東亜省、外務省関係の資料綴りである（116冊）。カード目録がある。戦前期東南アジアの電気事業関係資料や貿易関係資料、中国・「満洲」・台湾の鉱業関係資料や運輸関係資料等が含まれる。

・「阪谷文書」は、元蔵相・男爵の阪谷芳郎旧蔵の資料および図書200点である。目録に東京大学社会科学研究所資料室編『東京大学社会科学研究所所蔵 阪谷文書総目録 昭和45年1月刊』（謄写印刷）がある。資料は、第1篇で「戦時体制および戦時財政調査（主として日清日露戦争を中心に）」、「第1次大戦関係調査報告」、「中国関係調査報告」、「大蔵省預金部資金関係資料」、「日本経済調査会会計記録」、「カーネギー平和財団依頼調査に関する交換書翰」に分類されている。中国関係調査報告には、満蒙および中国に関する和文・英文資料が含まれる。「カーネギー平和財団依頼調査に関する交換書翰」には、満蒙調査その他に関する書翰が含まれている。図書は第2篇に図書目録が収録され、書庫に混配されている。

- ・「安倍文書」は、安倍能成が戦後貴族院議員、文部大臣を務めた時代の資料 30 点である。『安倍文書索引』（仮目録）がある。帝国議会関係、閣議関係、枢密院関係、憲法改正関係、法案関係、教育関係等の資料がある。敗戦後の引揚問題、国内の朝鮮人・中国人・台湾人の地位に関する資料が含まれている。
- ・「極東国際軍事裁判記録」は、極東国際軍事裁判で弁護士を務めた金瀬薫二氏、三文字正平氏の旧蔵資料を核とし、法務省、朝日新聞、早稲田大学図書館からの寄贈により補われた同裁判に関する資料群である。全体は、「目録および索引類」、「公判速記録」、「検察側証拠書類」、「弁護側証拠書類」、「公判関係資料」、「弁護関係資料」の 6 部門に大別されている。目録に、東京大学社会科学研究所編・発行『東京大学社会科学研究所所蔵極東国際軍事裁判記録「検察側証拠書類」目録』（1971 年）、『同「弁護側証拠書類」目録』（1972 年）、『同「総記編」目録』（1973 年）がある。一部マイクロフィルムがある。
- ・「農政資料」は、主に戦前の農林省農務局の資料で、20 巻・補巻 10 巻からなる。カード目録がある。朝鮮、台湾、中国、「満洲」、東南アジア等についての農業関係資料が含まれている。
- ・「細川文庫」は、元参議院議員故細川嘉六氏旧蔵の図書で、和書と洋書合わせて約 2500 点からなる。東京大学社会科学研究所図書室編『細川文庫図書目録』がある。戦前のアジア関係図書が含まれている。
- ・「十河信二氏寄贈書」は、元国鉄総裁十河信二氏から寄贈された図書・資料 1402 点、雑誌 414 点である。旧満鉄を中心とした、「満洲」、中国、朝鮮、台湾、関東州、樺太等に関する資料である。『十河信二氏寄贈書仮目録』（1990 年、1968 年作成の目録を作成し直したもの）がある。資料は書庫に混配されている。
- ・「アジア地域研究図書」は、アジア地域総合研究の研究費助成によって収集された 2350 冊の研究図書・資料である。文部省大学学術局編『アジア地域総合研究文献目録』第 1～第 5 巻（1959～63 年）、『アジア・アフリカ地域特定研究文献目録』第 1～第 3 巻（1965～67 年）に収録されている。
- ・「朝鮮労働党関係雑誌・資料」は、朝鮮戦争当時、米軍が北朝鮮から接收した資料のコピーである（256 点）。カード目録と、それをコピー製本した仮目録がある。1945～1953 年にかけての北朝鮮の法令、予算、プロパガンダ等に関する資料、最高人民会議会議録、人民会議会議録、労働党大会会議録、機関誌などが含まれている。
- ・「加藤寛治関係文書」は、海軍軍令部長を務めた海軍大将加藤寛治の関係文書である。伊藤隆「加藤寛治関係文書—昭和八・九年を中心に—」（『東京都立大学法学会雑誌』10-2、1970 年）、同他編『続・現代史資料 5 海軍 加藤寛治日記』（みすず書房、1994 年）がある。
- ・「上原勇作関係文書」は、陸軍大臣を務めた元帥・陸軍大将の上原勇作の関係文書（複製資料、原資料は首都大学東京図書情報センター所蔵）である。上原勇作関係文書研究会編『上原勇作関係文書』（東京大学出版会、1976 年）がある。
- ・「松本蔵次関係文書」は、宮崎滔天らとともに中国革命を支援した民間人松本蔵次の関係

文書である（マイクロフィルムおよび複製資料）。日中戦争下の日中和平工作に関する電報や書簡を含む。伊藤隆・鳥海靖「日中和平工作に関する一史料—松本蔵次文書から—（一）」（『東京大学教養学部人文科学科紀要 66 歴史学研究報告 16 歴史と文化 12』、1978年）、「同（二）」（『同 70 同 17 同 13』、1980年）がある。

・「岩村通俊関係文書」は、北海道庁長官や農商務大臣を務めた岩村通俊の関係文書である（マイクロフィルムおよび複製資料）。書類の一部と書簡の全部が伊藤隆・坂野潤治「岩村通俊関係文書（一）～（三）」（『史学雑誌』78-11、78-12、79-1、1969～1970年）で翻刻されている。

・「江木千之関係文書」は、知事や文相を務めた江木千之の関係文書である（マイクロフィルムおよび複製資料）。書簡と日誌からなる。伊藤隆「『江木千之・江木翼関係文書』『小泉策太郎関係文書』」（『社会科学研究』26-2、1975年）に目録と一部書簡が紹介されている。

・「江木翼関係文書」は、江木千之の養子で、内閣書記官長、法相、鉄相を務めた江木翼の関係文書である（マイクロフィルムおよび複製資料）。書簡、草稿・メモ類、日記からなる。前掲「『江木千之・江木翼関係文書』『小泉策太郎関係文書』」に目録と一部資料が紹介されている。伊藤隆編・入江貫一著『大正初期山県有朋談話筆記 政変思出草』（近代日本史料選書2、山川出版社、1981年）にも江木翼関係文書の一部が紹介されている。

・「小泉策太郎関係文書」は、政友会の衆議院議員だった小泉策太郎の関係文書である（マイクロフィルム）。著書・草稿、日記・手帳、草稿、書簡・書簡草稿・電報からなる。前掲「『江木千之・江木翼関係文書』『小泉策太郎関係文書』」に概略と一部資料が紹介されている。同図書室に目録がある。

・「坪田仁兵衛・杉田定一家文書」は、自由民権運動家で、のちに衆議院議長を務めた杉田定一の関係文書である（複製資料）。杉田定一家文書の原資料は大阪経済大学図書館に寄託されており、社会科学研究所で所蔵するのは「明治20年代の福井県における選挙を中心とした地方政治の状況」関係の部分のみである。坂野潤治・伊藤隆「杉田定一・坪田仁兵衛関係文書にみる明治二十年代の選挙と地方政治」（『社会科学研究』17-1、1965年）がある。

・「渡辺国武関係文書」は、明治期に蔵相や逓相を務めた渡辺国武の関係文書である（複製資料）。書簡458通と書類7点からなる。目録と一部資料が、渡辺国武関係文書研究会「渡辺国武関係文書（一）（二）」（『社会科学研究』18-4・5、1967年）に紹介されている。

・「安達謙蔵関係文書」は、明治から昭和戦時期にかけての政党政治家で、逓相や内相を務めた安達謙蔵の関係文書である（複製資料、原資料は国立国会図書館憲政資料室所蔵）。書簡。同図書室に目録がある。

・「天岡直嘉関係文書」は、桂太郎首相の女婿で、昭和初期に賞勳局総裁を務めた天岡直嘉の関係文書である（マイクロフィルムおよび複製資料）。書簡、書類、日記からなる。同図書室に目録がある。

・「川崎卓吉関係文書」は、内務省勤務を経て昭和戦前期に文相、商工相を務めた川崎卓吉の関係文書である（複製資料）。同図書室に目録がある。

- ・「入江貫一関係文書」は、山県有朋枢密院議長の秘書官、平田東助内大臣の秘書官長等を務めた入江貫一の関係文書である（マイクロフィルムおよび複製資料）。山県有朋関係書類、書翰、日誌などからなる。同図書室に目録がある。伊藤隆編・入江貫一著『大正初期山県有朋談話筆記 政変思出草』（近代日本史料選書 2、山川出版社、1981年）に、「政変思出草」、入江の日記や山県有朋関係書類の一部が収録されている。
- ・「上野季三郎外交関係文書」は、香港領事、サンフランシスコ領事、シドニー総領事等を務めた上野季三郎の関係文書である（マイクロフィルム）。書類。「馬尼刺反将 Aguinaldoノ態度ニ関スル私見」などが含まれている。同図書室に目録がある。
- ・「大石正巳関係文書」は、自由民権運動家で、のちに衆議院議員を務めた大石正巳の関係文書である（マイクロフィルム）。書類、日誌、雑誌等からなる。大石正編『大石正巳日記』（1993年）がある。同図書室に目録がある。
- ・「外務省関係資料」は、主に昭和戦前期の対外宣伝に関する資料である（マイクロフィルム）。
- ・「加藤家文書」は、首相、外相等を務めた加藤高明の関係文書である（マイクロフィルム）。書簡、書類からなる。同図書室に目録がある。
- ・「何禮之文書」は、長崎の唐通事の家生まれ、のちに英語を修め、元老院議員、貴族院勅選議員などを務めた何禮之の関係文書である（マイクロフィルム）。日記類、書類からなる。同図書室に目録がある。
- ・「菊川忠雄関係文書」は、労働運動家で衆議院議員も務めた菊川忠雄の関係文書である（マイクロフィルム、原資料は川村学園女子大学図書館所蔵）。労働運動関係資料。同図書室に目録がある。
- ・「小橋一太関係文書」は、内務省出身で、のちに衆議院議員、文相を務めた小橋一太の関係文書である（マイクロフィルム、原資料は国会図書館憲政資料室所蔵）。書類（選挙法関係、政治団体、地方制度改正問題、行政整理関係等）、書簡、日記からなる。このうち警保局が内部に配布した特高警察・出版警察関係資料が、日本近代史料研究会編・発行『大正後期警保局刊行社会運動史料』（日本近代史料叢書A-1、1968年）に復刻されている。同図書室に目録がある。
- ・「松本学関係文書」は、内務省出身で、のちに貴族院勅選議員、日本文化中央連盟常務理事などを務めた松本学の関係文書である（マイクロフィルム、原資料は国立国会図書館憲政資料室および関西学園関西高等学校所蔵）。書類、雑誌、パンフレットなどからなる。中国に対する文化工作関係の資料が含まれている。伊藤隆・広瀬順皓編『松本学日記』（近代日本史料選書 11、山川出版社、1995年）がある。同図書室に目録がある。
- ・「橘孝三郎関係文書」は、農本主義者で、愛郷塾塾長の橘孝三郎の関係文書である（マイクロフィルム）。「感想録」等を含む。同図書室に目録がある。
- ・「愛郷塾関係文書」は、橘孝三郎（前出）が塾長を務めた愛郷塾の関係文書である（マイクロフィルム）。手記、雑誌等からなる。同図書室に目録がある。

- ・「山川端夫関係文書」は、国際法学者で法制局長官等も務めた山川端夫の関係文書である（マイクロフィルム）。書簡、手帳、草稿などからなる。同図書室に目録がある。
- ・「木戸幸一関係文書」は、文相、厚相、内相、内大臣等を務めた木戸幸一の関係文書である（マイクロフィルム、原資料は国立歴史民俗博物館所蔵）。同図書室に目録がある。
- ・「井上角五郎関係文書」は、1880年代に韓国で新聞を創刊し、のちに衆議院議員、実業家として活躍した井上角五郎の関係文書である（マイクロフィルム）。

東京大学大学院 経済学研究科・経済学部 図書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5841-5562

<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学大学院経済学研究科・経済学部図書館は、1919年にかつての法科大学から分離し、経済統計研究室の蔵書を主として発足した。関東大震災、思想統制、さらに戦時中の疎開を経て、現在では90年近い歴史を背景に約75万冊の蔵書を有している。経済学関係を中心に国内でも有数の図書館で、学内外の数多くの利用者が訪れている。

同館は数多くの「アジア歴史資料」を所蔵している。旧植民地の朝鮮・台湾・樺太及び戦時下日本の勢力圏であった満蒙、タイ、ベトナム、マライ、ビルマ、インドネシアなどの地域の貿易、鉱工業、商業、農林水産業、金融、財政、統計、交通などの経済関係資料である。また、満鉄調査部、東亜研究所の各種報告書、拓務省の『殖民地便覧』、『拓務要覧』、『拓務統計』などもある。

同館には資料室が設置されており、多くの資料の収集・整理や目録の刊行を行っている。その中、アジア歴史資料に該当するものの一つに「戦時海運関係資料」がある。

「戦時海運関係資料」は1937年頃から終戦までの海運統制関係資料で、戦時下の旧植民地（台湾、朝鮮）、中国、南方地域などにおける石炭、重油、塩などの物資輸送関係資料が含まれている。同資料はマイクロフィルム版で利用が可能である。

同資料については、同館ホームページの「戦時海運関係資料目録：東京大学経済学部所蔵特別資料」<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/kaiun/index.htm>と冊子体目録『特別資料「戦時海運関係資料」目録：東京大学経済学部所蔵』で検索が可能である。

また、昭和恐慌期から日中戦争期にかけて、税制改正に携わった大蔵官僚濱田徳海の関係資料である『濱田徳海資料』には、日中戦争下の税制に関わる資料のほか、満州国や中国の税制に関わる資料も含まれている。同資料については、同館ホームページの「濱田徳海資料目録：東京大学経済学部所蔵特別資料」<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/shiryo/hamatop.html>と冊子体目録『特別資料「濱田徳海資料」目録：東京大学経済学部所蔵』で検索が可能である。

同館の所蔵する一般図書や雑誌については、「OPAC(東京大学オンライン蔵書目録)」
<https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/basic-query?mode=2> でオンライン検索が可能である。
 この他、特別資料については、冊子体目録及び Web 版目録が作成されているものが多数あり、サブジェクト（経済学分野）・ゲートウェイ・サービス「Engel」
<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/engel/index.html> で全文検索可能なものも多い。

同館の利用法については、同館ホームページの「利用案内」<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/> に記されている。

一橋大学 附属図書館

〒186-8602 東京都国立市中 2-1

電話：042-580-8235（利用者サービス担当）

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/>

一橋大学は、1875年（明治8年）8月に森有礼が私設した「商法講習所」を起源とし、東京商業学校と改称されて1885年に文部省に移管され、1887年の高等商業学校への改組（1902年からは東京高等商業学校）を経て、1920年に大学令によって東京商科大学となった。1944年には東京産業大学に改称されるが、戦後の1947年に東京商科大学に戻され、1949年の学制改革で一橋大学となる。社会科学の総合大学としては国内有数の長い歴史を有し、実学教育を重視する校風の下、現在も研究・教育活動が活発に続けられている。

附属図書館は、1885年に図書室として設けられて以来、学内の図書を集中して所蔵して一元的に管理する中央図書館制度の下で規模を拡大し、現在は、社会科学関係の文献を中心に総数175万冊、雑誌タイトル1万6千あまりの蔵書を有する。また、大部分の蔵書が開架式となっている点も大きな特色である。

所蔵資料は「一橋大学附属図書館オンライン目録 HERMES」
<http://opac.lib.hit-u.ac.jp/opac/expart-query?mode=2> で検索が可能である（古い資料の一部は、オンライン目録に未入力）。

満鉄調査部、興亜院、朝鮮総督府など植民地行政機関が発行した調査資料や、朝鮮銀行、台湾銀行などの金融機関、日満実業協会、日本商工会議所、東亜同文会など民間団体関係の資料など、アジア近現代史に関係する文献も多い。その他、アジア近現代史に関する主なコレクションは以下の通りである。

「戦前期アジア諸国写真コレクション」

昭和初期から第二次世界大戦期にかけてのアジア・太平洋諸地域の写真コレクションで、一橋大学附属図書館によれば陸軍経理学校がその研究のために収集したものという。以前は軍配組合資料とともに図書館の倉庫で眠っていたが、現在はマイクロフィルムにより複

製化され、紙焼き・製本化・電子化されたものを閲覧することができる。撮影された地域は中国、モンゴル、インド、東南アジア諸国などから、マーシャル諸島・ナウルなど南方の島々まで広範囲にわたる。内容も農林水産業、鉱工業、商業、交通、生物・地形など多岐にわたる。一橋大学機関レポジトリHERMES-IRの「戦前期アジア諸国写真コレクション」<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/da/handle/123456789/18>で全点の画像データを検索、閲覧できる。

「精密機械統制会資料」

1941年施行の重要産業団体令に伴い、当時の政府は戦時体制を確立するために、重要産業の事業統制を目的とする業界別の統制会を設立した。生産、配給から資金、労務などの需給統制、指導統制、調査研究などが、統制会の下で実施された。そのうち、精密機械統制会は、1942年1月に設立され、一橋大学附属図書館には同統制会の事業計画書や労務実績報告書、工場調査票などが保存されている。一部がマイクロフィルム化されており、カウンターで申請の上、館内で閲覧することができる(MF:83~87)。なお、精密機械統制会については、龍谷大学社会科学研究所編『戦時期日本の企業経営』文真堂、2005年、などの研究書を参照のこと。

「旧陸軍経理学校旧蔵図書」

終戦当時、旧陸軍経理学校図書館内に散乱、放置されていた図書の散逸を防止するために、1945年10月31日付で陸軍経理学校長より東京産業大学(一橋大学の前身)長宛に寄贈されたものである。経済学、経済史、歴史、戦争経済、戦争史等関係の書籍約17,100冊が保存されている。一般図書として収蔵されているが、カウンター備え付けの「(若松会)旧陸軍経理学校図書整理目録」を参照することもできる。

「軍配組合資料」

1937年の日中戦争の勃発に伴い、日本軍は中国の華中占領地で軍票を使用した。軍票の価値を維持するとともに、物資の流通を統制すべく設立された機関が中支那軍票交換用物資配給組合(通称軍配組合)である。戦争の長期化にともなって大量の物資の調達・補給が急務となっていったが、1938年の設立から44年の解散にいたるまで、主に華中での大量の物資動員に同組合は重要な役割を果たした。この史料は軍配組合の議事録・業務日誌・各種帳簿・各種調査資料などで、ダンボール約100箱に収蔵されている。内容のあらましは、『軍配金資料目録』(本館分類和書 Aa:1190)によって知ることができる(未整理)。これら史料を分析・検証した研究成果が、中村政則・高村直助・小林英夫編著『戦時華中の物資動員と軍票』多賀出版、1994年、として刊行されている。

一橋大学 経済研究所 資料室

〒186-8603 東京都国立市中2-1

電話：042-580-8320

<http://www.ier.hit-u.ac.jp/library/Japanese/index.html>

一橋大学経済研究所の前身は、東亜諸国（東アジア地域）の研究を推進すべく 1940 年に設立された東亜経済研究所である。戦時中という時局の要請もあって、東アジア地域研究の理論的、実証的研究のために文献の収集が精力的に進められ、その蔵書は後身の一橋大学経済研究所に引き継がれて今日に至っている。

これらの戦前から戦時中にかけての文献には、特に中国・東南アジア地域の経済関係の文献が多い。

中国図書・雑誌の検索は「OPAC システム」で検索が可能であるが、戦前の資料は未入力のあるものがあるので、資料室のカード目録や、専門別に編纂された各種所蔵目録を併用することが望ましい。また、一橋大学附属図書館とは OPAC が独立した系統になっている点にも注意が必要である。

たとえば、南満洲鉄道株式会社調査部（満鉄調査部）、興亜院（＝中国占領地行政の統括機関）、東亜研究所（＝企画院の外郭団体、現在の政治経済研究所の前身）などの機関が編集した調査資料が数多く所蔵されており、本資料室にしかないものも多い。所蔵状況は、上記 OPAC の他に、満鉄調査部関係資料については、アジア経済研究所図書資料部編『旧植民地関係機関刊行物総合目録』で、興亜院関係資料については、本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『興亜院と戦時中国調査』（岩波書店、2002 年）所収の巻末目録でも調べることができる。

その他、1909 年に、当時のロシア皇帝ニコライ二世の命を受け、鉄道の敷設調査のためにバイカル湖東岸とアムール州に派遣されたアムール調査隊の資料（請求記号 VRc.42-5）、や、ロシア海軍士官ワシーリイ・ミハイロヴィッチ・ゴロヴニン(1776-1831)の航海誌『1807、1808、1809 年ロシア帝室ディアナ号によるクロンシュタットからカムチャッカまでの旅』（請求記号 VRc.00-9）、『勅命を受け、1817、1818、1819 年カムチャッカ号による世界一周旅行』（請求記号 VRc.00-10）など、帝政ロシアのシベリア・極東政策に関する資料も貴重な所蔵として挙げることができる。

一橋大学 経済研究所 附属社会科学統計情報研究センター

〒186-8603 東京都国立市中 2-1

電話：042-580-8391

<http://rcisss.ier.hit-u.ac.jp/>

社会科学統計情報研究センターは、明治維新以降現在までの日本経済に関する各種統計・調査資料、統計データ情報を収集、整理するとともに、広く内外の研究者の利用に供することを目的としている。

蔵書数は 17 万点を超え、そのうちの約 16 万冊が「一橋大学経済研究所・社会科学統計

情報研究センター蔵書目録」<http://opac.ier.hit-u.ac.jp> で検索が可能である（2008年3月現在）。

アジアの歴史と関連するものでは、朝鮮・台湾・満州・樺太など、旧植民地の官庁統計や満鉄を中心とする民間機関の統計資料が豊富である。これらの統計資料については、解題と主題別の所蔵目録が刊行されている。たとえば、旧植民地に関する統計資料の全国的な所在目録として、『日本帝国領有台湾関係統計資料目録』（統計資料シリーズNo30、1985年）、『日本帝国外地関係統計資料目録—関東州・樺太・南洋群島編』（統計資料シリーズNo45、1994年）、『日本帝国外地関係統計資料目録—朝鮮編』（統計資料シリーズNo46、1994年）があり、同センター所蔵のものについては、上記電子目録の他に『旧日本植民地および「満洲」関係統計資料目録：一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター所蔵』（統計資料シリーズNo53、2001年）にまとめられている。

また、満州関係資料として、1920年～1941年にかけて鞍山製鉄所とその後身である昭和製鋼所で満洲経済建設に携わり、戦後は日本鉄鋼経営者連盟の理事などを歴任した水津利輔氏の旧蔵文書や、満州国の少壮商工官僚として1933-36年に赴任した美濃部洋次の旧蔵文書を所蔵している。これらの資料については、『日本・旧満州鉄鋼業資料解題目録：水津利輔氏旧蔵書資料 上・下』（統計資料シリーズNo12・13、1979-80年）と『美濃部洋次満州関係文書目録：一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター所蔵』（統計資料シリーズNo52、2000年）に目録と解題が収録されている。

東京学芸大学 附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

電話：042-329-7223 / 7225（サービスカウンター）

<https://library.u-gakugei.ac.jp/top.html>

1949年、東京府立の東京第一師範学校、東京第二師範学校、東京第三師範学校及び東京青年師範学校が統合されて新制東京学芸大学が設置されると同時に、附属図書館も設置された。

各種教科書・指導書が多く収蔵されている点に特徴がある。満洲帝国民生部発行『日語国民読本』『日満語唱歌』『満語国民読本』『満洲歴史教科書』、布哇教育会編纂の『日本語読本』等、植民地・外地教科書のコレクションは貴重である。

蔵 書 は 「 OPAC 」

<https://library.u-gakugei.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do?mode=comp&nqid=1>

にて検索できる。請求記号欄先頭に「T1.9」を入力すると植民地教科書の一覧を見ることができる。植民地教科書は、書庫教科書コーナーのほか、望月文庫、「日本近代教育史資料」コーナーに分置されている。

・「望月文庫」(東京府青山師範学校創立 50 年記念文庫)は、往来物や明治初年以来の初等教育の教科書、教育書を含むコレクションである。刊行目録は『望月文庫目録』(1967 年)『同 補遺』(1976 年)、『東京学芸大学附属図書館望月文庫蔵「往来物」目録』(1995 年)がある。

・「松浦文庫」は、松浦鎮次郎を中心とする教育史編纂会が寄贈した資料である。松浦自身の自筆草稿、教育法規、小学校教科書、教育史関係資料等が含まれる。刊行目録は『松浦文庫目録』(1965 年)がある。

・「竹早文庫」は、戦時中の文部省外郭団体であった日本文化中央聯盟の蔵書である。哲学、史学、文学及び社会科学の図書、全集及び学術雑誌。刊行目録は『竹早文庫目録』(1968 年)がある。

・「瀬川文庫」は、元学芸大学教授瀬川三郎の蔵書である。ギリシア文化・思想をはじめ、学芸大で教授された教育原理、教育哲学関係の図書等。刊行目録は『東京学芸大学所蔵瀬川文庫目録』(1976 年)がある。

・「教育課程文庫」は、1947 年初頭、米国から日本に寄贈された代表的教科書・教育専門書等の資料である。日本の国定及び民間編集の教科書、学習指導要領なども含む。

これらのうち、「望月文庫」、「松浦文庫」および「日本近代教育史資料」は貴重書であるため、閲覧には土日祭日を除く 2~3 日前からの事前申請が必要となる。「教育課程文庫」は平日昼間のみ利用となる。利用にあたっては、所属大学等の図書館を通じて事前に FAX で問い合わせが必要である

東京外国語大学 附属図書館

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話 : 042-330-5195

<http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>

1873 年に東京外国語学校として発足後、1887 年に東京商業学校に併合された。その後 1897 年に高等商業学校附属外国語学校として再設置され、1899 年に東京外国語学校として分離独立した。1903 年には図書館の前身となる図書閲覧所が設置された。1944 年、校名を東京外事専門学校に改称し、戦後の 1949 年の学制改革で東京外国語大学となった。

附属図書館には約 60 万冊の蔵書があり、内訳は日本語図書・英語図書が合わせて 40%、英語以外のヨーロッパ系言語図書、日本語以外のアジア系言語図書がそれぞれ約 30% という特徴のある蔵書構成になっている。これらの蔵書の大半は「OPAC」
<http://www-lib.tufs.ac.jp/opac/>で検索可能である。

附属図書館蔵書には、明治維新前後に日本で出版された外国事情、外国語研究書を中心とした 1,262 冊の貴重書コレクションと、大学関係者の蔵書の寄贈を受けた 6 種類、計

17,940 冊の個人文庫、および大型コレクションが含まれている。

「諸岡文庫」は、東京外国語学校講師（漢文および中国文学）であった諸岡三郎の個人蔵書コレクションである。1903 年～1925 年の間に天津で収集された中国語書籍が中心で、日本で出版された中国語学関係の貴重書も少なくない。刊行目録『諸岡文庫目録』（1978 年）およびカード目録で検索可能である。

「朝鮮近代民族・文化運動コレクション」は、近代朝鮮を代表する三人の民族運動家（李光洙、安昌浩、崔南善）に関する資料であり、そのなかには親筆原稿などの貴重な資料が含まれている。刊行目録はなく、OPAC 詳細画面の請求番号に「共同利用 7*」と入力すればコレクション一覧が表示され、検索可能である。尚、私的な書簡や個人記録など一部は閲覧できないものもあるので注意されたい。

ほかに朝鮮の新聞資料（マイクロ資料）として「朝鮮日報」（1920 年 3 月－1979 年 12 月）を所蔵する。

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話：042-330-5600

<http://www.aa.tufs.ac.jp/index.html>

1964 年、日本で最初の人文科学・社会科学系の共同利用研究所として東京外国語大学に附置された。アジア・アフリカ諸地域の言語文化に関する研究に必要な基礎資料を中心とした蔵書は、図書 11 万冊、雑誌約 1500 タイトル、マイクロフィルム 1 万余リール、マイクロフィッシュ 4 万枚余りに達する。他にも、古文書や地図、写真、ビデオなどが収蔵されている。

これら蔵書のうち、一般図書、個人文庫類は附属図書館内に設置された「AA 研コーナー」に配架され、「OPAC」<http://www-lib.tufs.ac.jp/opac/index.html> で検索可能である。貴重書、辞書・辞典・目録を中心とした参考図書、大型本、叢書、マイクロフィルム類、雑誌は研究所棟 1 階の文献資料室で閲覧が可能である。マイクロフィルムや貴重書についてはカード目録での検索が必要であり、特に貴重書については閲覧にあたって事前の問い合わせが必要である。

「浅井文庫」は、オーストロアジア言語学者であった浅井恵倫（1895-1969）の旧蔵資料である。台湾先住民である高砂族関係の貴重な言語資料、ニューギニアの民族写真その他（アルバム、ノート、原稿、書簡、直筆辞書、単語カード、未発表の高砂族伝説集索引カード等）を含んでおり、特に原本の公開が困難な貴重資料については「小川尚義・浅井恵倫台湾資料」<http://joao-roiz.jp/ASAI/>としてホームページ上でも公開されている。

「山本文庫」は、満州語学者であった山本謙吾の個人蔵書で、満州語・ツングース語関係の諸文献を中心に言語学・音声学・アルタイ語学などに関する諸文献が含まれている（和・洋書計 598 冊）。

「小林文庫」は、モンゴル史研究者であった小林高四郎の個人蔵書で、モンゴル民族の生活と習俗に関する文献（和・洋書 1671 冊）が含まれている。

「王文庫」は、台湾言語学者である王育徳（1924-1985）の個人蔵書で、台湾の言語学、文学、歴史、政治関係の諸文献を中心にしたコレクションである。歌仔戯（台湾の伝統芸能）、1950年代から1980年代にかけて日本で展開された台湾独立運動に関わる雑誌やパンフレット、台湾で発行された党外雑誌や王博士の手稿など貴重なものを多数含む（和・中・洋書等計 3,163 点）。

こうした個人文庫のほか、満州国タイ公使館文書や、日本の植民地官僚で京城帝国大学総長であった篠田治策の文書も所蔵している。

お茶の水女子大学 附属図書館

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

電話：03-5978-5838・5840（閲覧）・03-5978-5839（レファレンス）

<http://www.lib.ocha.ac.jp>

お茶の水女子大学の前身である東京女子師範学校が現在のお茶の水の地に開校したのは、1875年のことである。その後、同校は東京師範学校女子部、高等師範学校女子部、女子高等師範学校と名称変更を経て、1908年に東京女子高等師範学校となる。関東大震災後、現在の大塚の地に移転し、1949年にお茶の水女子大学が発足、1952年に東京女子高等師範学校が廃止される。2004年には国立大学法人お茶の水女子大学となり、現在に至る。

附属図書館には、初代校長である中村正直の訳本『西国立志編』『自由之理』や著作・書跡などが所蔵されている。また、1876年に開設された日本で最初の幼稚園である附属幼稚園の園長を長く務めた教育者倉橋惣三を記念して「倉橋文庫」が1960年に設置され、幼児教育関係の図書が集められている。そのほかの幼児教育関係資料として、開園当時の主任保母であったドイツ人の松野クララによって導入されたフレーベル式の教育玩具である恩物のコレクションも所蔵されている。さらに、第1回の卒業生から残る卒業写真や、歴代の卒業アルバム、各種行事関係の記念写真、学生生活を収めたアルバムなど、大学の歴史を物語る写真類も多く保管されている。

大学が所蔵してきた資料としては、明治から昭和にかけての皇室からの下賜品や文書のほか、絵画や絵巻物の美術品などが存在し、また、1908年から4年間受け入れたシャム国からの女子留学生の作品も、図画、課題、作文など貴重な資料が残されている。

学内各所で所蔵されている大学の歴史に関する資料については、大学資料委員会のもとで1997年から悉皆調査が始められ、2001年には、それまでに調査が済んだ約880件について『お茶の水女子大学大学資料目録1』（大学資料委員会）が刊行され、調査は現在も継続中である。奥田環・矢越葉子「女高師と皇室：大学資料調査の成果と課題」（『お茶の水女子大学人文科学研究』4 2008年3月）<http://hdl.handle.net/10083/1873>が参考になる。

また、2007年から大学資料のデータベース化も進められ、「お茶の水女子大学デジタルアーカイブス」<http://archives.cf.ocha.ac.jp/index.html>で順次公開が始まっている。

お茶の水女子大学 文教育学部 地理学コース

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

電話：03-5978-5186（お茶の水女子大学文教育学部人文科学科地理学コース助手室）

<http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/chiri.htm>

明治以降、第二次世界大戦終戦までの間に旧日本陸軍参謀本部・陸地測量部が作成・複製した中国、満洲、東南アジア、太平洋諸島など日本以外の地域を対象とした地図「外邦図」の一部を所蔵している。

外邦図については終戦直後に資料的価値の高い多くの地図が市ヶ谷の参謀本部から複数の大学及び文部省資源科学研究所に移された。そして特に大量の地図が運び込まれた資源科学研究所と東北大学から各機関へと再配布された。お茶の水女子大学所蔵の外邦図の大部分も資源科学研究所の廃止に伴い購入されたものである。所蔵数は1970年に購入したものが約16000枚、これに東京女子高等師範学校時代に収集された地図と、関係者から寄贈された地図をあわせたものが「外邦図コレクション」となっている。

現在のところ学外者に対する閲覧サービスは準備されていない。目録として『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』（お茶の水女子大学文教育学部地理学教室、2007年）が発行されている。オンラインでの検索・閲覧は検討中（2008年現在）。目録編纂の過程及び資料紹介が『お茶の水地理』第47号（お茶の水地理学会、2007年）に掲載されている。

<公立大学>

首都大学東京 図書情報センター 本館

〒192-0364 東京都八王子市南大沢 1-1

電話：042-677-2404

<http://www.lib.metro-u.ac.jp/index.htm>

1949年の学制改革に伴い、旧制の都立高等学校、都立工業専門学校、都立理工専門学校、都立機械工業専門学校、都立化学工業専門学校及び都立女子専門学校の6校を母体として、東京都立大学が設立された。その後、2005年に東京都立大学、東京都立科学技術大学、東京都立保健科学大学、東京都立短期大学が統合されて首都大学東京となる。

首都大学東京図書情報センター本館は、東京都立大学の開学と同時に開設された目黒キャンパスの東京都立大学付属図書館、および鮫洲キャンパスの工学部図書室を母体として、1991年に南大沢キャンパス（八王子市）に東京都立大学付属図書館として移転し、首都大学東京の設置と共に首都大学東京図書情報センター本館となった。

以下の資料が貴重資料およびコレクションとして所蔵されている。

「花房義質関係文書」：約1,500点。外交官であった花房義質（1842～1917）宛の書簡が多くを占める。そのほかに朝鮮に公使として駐在し、開港交渉に当たった明治中期の外交記録が含まれている。目録に『花房義質関係文書目録』（1979年）がある。

「上原勇作関係文書」：約2,700点。陸軍軍人上原勇作（1856～1933）宛の書簡が大部分で、明治末年の陸軍大臣就任時から没年にわたるもの。別に雑多な記録類がある。目録の「上原勇作関係文書目録」（事務用）はセンター本館のカウンターにて申請した後、閲覧できる。同文書のうち政治史上重要と思われるものが、上原勇作関係文書研究会編『上原勇作関係文書』（東京大学出版会、1976年）に翻刻されている。

「土方久元関係文書」：約500点。政治家土方久元（1833～1918）の幕末志士時代の日記ほか、辞令・財産証書類・書画などを所蔵する。仮目録であるが「土方久元文書仮目録」（1995年）<http://www.lib.metro-u.ac.jp/collection/hijikata.xls>から検索できる。

「高橋是清関係文書」：約300点。財政家高橋是清（1854～1936）宛書簡と辞令が主で、ほぼ明治20年代までのものが所蔵されている。また暗殺された2・26事件当日の辞令やペルー銀山採掘関係の史料がまとまっていて特色がある。オンラインからの検索は、「高橋是清関係文書仮目録」<http://www.lib.metro-u.ac.jp/collection/korekiyo.xls>から行える。

「松本文庫」：政治家、松本忠雄（1887～1947）収集の中国近代史に関する図書・雑誌4,084冊と文書類約1,500点。図書・雑誌についてはOPACで検索できる。また別に目録として『松本文庫目録図書の部』（1981年）がある。文書類については、目録として『松本[忠雄]文庫目録文書の部』（近代日本史料研究会、2008年）がある。

「穂積文庫」：法学者、穂積陳重（1856～1926）・重遠（1883～1951）父子旧蔵の洋書2,257冊。民法学・法哲学を主に、深い学殖を窺わせる幅の広い集書である。これらの史料はOPACで検索できる。また別に目録として『穂積文庫目録 東京都立大学図書館報別冊』（1964年）がある。

「明治文学雑誌」：112種からなり、旧制高校時代の付属図書館長・山宮允が収集を始めた「しがらみ草紙」・「文学界」・「明星」・「白樺」など明治時代の代表的雑誌の集書である。目録に『明治文学雑誌目録』がある。

そのほか、明治以降の東京の歴史、地理、行政、統計、産業、文学など多方面にわたる

資料を含んだ「東京関係資料」などを所蔵する。現在も継続収集中であり、これら史料についてはOPACで検索できる。

<私立大学>

慶應義塾大学 三田メディアセンター(慶應義塾図書館)

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

電話 03-5427-1654

<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/>

慶應義塾は、1858（安政 5）年、福澤諭吉によって築地鉄砲洲に設けられた蘭学塾を起源とし、芝新銭座を経て 1871（明治 4）年に現在の三田キャンパスの地に移転。1890（明治 23）年に大学部が発足、1920（大正 9）年旧制大学として認可を受け、1949（昭和 24）年に新制大学となり現在に至る。

大学図書館は、大学部設置の際設けられた「書館」を起源とし、1905（明治 38）年に「慶應義塾図書館」が正式名称となって、現在は三田メディアセンターと呼ばれている。

三田メディアセンターが所蔵する主な特殊文庫については、ホームページの「各種文庫一覧」<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/find-search/collections/index> で概観できる。東南アジア研究の先駆者として著名な松本信廣（1897-1981）の旧蔵書（和書 1601 冊、洋書 1908 冊）で、1933 年のベトナム調査時に収集された漢南本（安南本：準貴重書）などの稀覯本 60 タイトルを含む「松本文庫」、実業家の望月軍四郎(1879-1940)の寄付で 1926 年に創設された「望月支那研究基金」により収集された中国関連書（和書・中国書 1806 部 5431 冊、洋書 508 部 647 冊、和雑誌 71 部 605 冊、洋雑誌 15 部 98 冊）で、中ソ研究に必須な戦前の資料を含む「望月文庫」などがあるほか、原史料を含む文庫には以下のようなものがある。

「福澤文庫・福澤諭吉関係資料」

慶應義塾創立者である福澤諭吉(1835-1901)の自筆原稿、墨蹟、書簡などの資料（約 1200 点）と、福澤諭吉および門下生の著訳書や関連文献等の一般書（約 1000 冊）からなる。これらは福澤の門下生が後に寄贈したものが多い。原史料の主なものは全てマイクロフィルム『福澤関係文書』（240 リール、雄松堂、1989-1998 年）に収録されており、福澤関連のものは『福澤諭吉全集』（岩波書店、1958-1971 年）、『福澤諭吉書簡集』（岩波書店、2001-2003 年）に収録されているので、それらの利用を原則とする。なお、福澤の資料は、義塾内では福澤研究センター（後述）と分散して所蔵されている。

「花井卓蔵文書（文庫）」

刑事弁護士、立案・立法者として活躍した花井卓蔵(1868-1931)旧蔵資料。明治後期から昭和戦前期にかけての法律取調委員会、臨時法制審議会、法制審議会における各種法案、会議録、参考資料の文書 240 点からなり、内務省警保委員会や宗教法案審議資料などに、外地に関する資料を含む。マイクロフィルム『花井卓蔵文書』(40 リール)とその目録『花井卓蔵文書目録』(雄松堂、1997 年)があり、閲覧はマイクロフィルムの利用を原則とする。

「村上義一文書」

昭和初期の政治家・実業家で、南満州鉄道理事であった村上義一(1885-1974)による満州事変後の満鉄関係の記録(約 1000 点)。鉄道部所管の政策立案書類、調査報告書、意見書などが含まれる。マイクロフィルム『慶應義塾図書館所蔵村上義一文書』(18 リール)とその目録『慶應義塾大学所蔵村上義一文書収録文書目録』(雄松堂、2003 年)があり、閲覧は原則としてマイクロフィルムの利用による。

「日本石炭産業関連資料コレクション」

北海道の大手炭鉱(三菱鉱業、三井鉱山、住友石炭鉱業、北海道炭礦汽船、太平洋炭鉱など)を中心に昭和前期から平成に至る石炭産業関連の資料群で、外地関連の資料も若干含む。目録としてインターネットから「日本石炭産業関連資料コレクションデータベース」<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/coal/db/>が利用できる。閲覧は許可制で、一部は非公開。詳細は「利用案内」<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/coal/>を参照のこと。

「対馬宗家文書」

鎖国下の朝鮮との外交貿易を独占的に担った旧対馬藩(長崎県)の藩政日記など、260 年に及ぶ資料である対馬宗家文書のうち、江戸藩邸に保存されていた記録類を所蔵し、なかでも朝鮮通信使記録が最もよくまとまっている。全体の点数は約 1,000 点で、そのうち 895 点が「対馬宗家関係資料」の名称で国の重要文化財に指定されている。同文書は、ほかに長崎県立対馬歴史民俗資料館、九州国立博物館、東京大学史料編纂所、国立国会図書館、韓国国史編纂委員会などが分散して所蔵しており、それらを集成したものとしてマイクロフィルム『対馬宗家文書』(353 リール)があり、目録として『対馬宗家文書』9 冊(ゆまに書房、1998-2006 年)がある。閲覧は原則としてマイクロフィルムによる。

ほかに「慶應義塾写真データベース」<http://photodb.mita.lib.keio.ac.jp/>で福澤諭吉の留学時代から現在のキャンパス風景に至るまでの慶應義塾に関する写真約 1500 件が公開されており、朝鮮留学生の画像等が若干含まれている。

慶應義塾大学 信濃町メディアセンター(北里記念医学図書館)

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

電話 : 03-5363-3725

<http://www.med.lib.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学医学部及び大学病院などが所在する信濃町キャンパスの図書館として 1937 年に開設された同センターには、アジア歴史関係の原史料を含む資料として、陸軍軍医総監だった石黒忠憲の旧蔵書を中心とする「石黒文庫」（約 150 点）がある（保管は白楽サテライトライブラリー）。この中には戦時や軍組織内での衛生行政、外地視察・報告などの原史料も含まれる。目録として『古医書目録（改訂版）』（慶應義塾大学北里記念医学図書館、1994 年）がある。

慶應義塾福沢研究センター

〒108 - 8345 東京都港区三田 2-15 - 45

電話：03-5427-1603

<http://www.fmc.keio.ac.jp/>

慶應義塾創立 125 年記念事業の一つとして、1983 年に開設。前身は、1951 年より『慶應義塾百年史』を編纂した塾史編纂所、その後継組織である塾史資料室。慶應義塾の創業者である福澤諭吉や義塾に関する史料の収集・保管を行うと共に、福澤や義塾を視野に置きつつ、広く近代日本を研究することを目的とする。

同センターは、福澤諭吉及びその門下生、慶應義塾史に関する史料を所蔵し、継続収集している。所蔵品数はおよそ 15,000 点。ただし、閲覧施設などが未整備のため、利用は大学院生以上の学術研究を対象とし、事前申込みを必要とする。

「福澤諭吉関係資料」

福澤諭吉に関する資料は義塾図書館と分かれて所蔵されているが、福澤宗家や福澤の子孫の家からまとまって寄贈された資料は、福澤研究センターの所蔵となっている。それらには、朝鮮問題に関連する福澤の書簡・来簡、福澤が発刊した『時事新報』の社説や著作の自筆草稿など、アジア歴史に関連する資料も含まれるが、いずれも上述のマイクロフィルム『福澤関係文書』及び『福澤諭吉全集』、『福澤諭吉書簡集』に収録されており、それらの刊行以後の発見資料は、福澤研究センター紀要『近代日本研究』（年刊）、福澤諭吉協会（福澤諭吉著作編纂会を前身とする福澤研究者のための学外の会員組織）の機関誌『福澤手帖』（季刊）、『福澤諭吉年鑑』（年刊）に翻刻されている。

「慶應義塾関係資料」

安政 5 年の慶應義塾開塾以来の塾史に関連する資料及び福澤門下生、慶應義塾卒業生、塾内の諸学校の関連資料も収集・保管されている。1907 年、慶應義塾創立 50 年頃までの関連資料については、マイクロフィルム『福澤関係文書』に収録されている。アジア歴史関連としては北京・上海にあった事務所や、一時設置された慶應義塾亜細亜研究所に関する資料が若干存在するが、まとまったものではない。また、太平洋戦争下での義塾の行政

文書、戦後の GHQ との交渉資料等も所蔵する。

日本女子大学 図書館

〒112-8681 東京都文京区目白 2-8-1

電話 03-5981-3195

<http://www.lib.jwu.ac.jp/>

1901（明治 34）年、成瀬仁蔵により日本女子大学校が創設され、戦後の 1948 年に新制大学として日本女子大学となった。図書館の創設は 1906 年で、1964 年に現在の図書館が建設された。

蔵書のほとんどは「OPAC」<http://www.lib.jwu.ac.jp/csp/ponw/cal950.csp> で検索可能だが、一部の古い資料などはカード検索が必要である。同図書館は個別文庫の別置方式という方針を採らず、寄贈された図書はすべて中央図書館蔵書として一点一点を扱う。しかし、そのなかでも数少ない文庫としては以下のものがある。

「森戸辰男文庫」：1963 年、教育学者である森戸辰男（1888－1984）の蔵書のうち、婦人問題関係文献約 300 冊の寄贈を受けたもの。特にドイツ留学中に収集した文献が含まれており、貴重である。「日本女子大学図書館蔵 森戸文庫目録（稿）」がある。

「上代タノ平和文庫」：元学長であった英文学者の上代タノの蔵書。「女性が、国際平和の問題についての意義を明確に持ち、平和への推進力となることを念願」して、1971 年に寄贈され、継続収集されている。2007 年度末時点で 6,512 点（和書 5,715 冊、洋書 797 冊）。日本女子大学図書館友の会編『日本女子大学上代タノ平和文庫目録』（1992 年）がある。

立教大学 図書館

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

電話 03-3985-2628

<http://opac.rikkyo.ac.jp>

1874（明治 7）年アメリカ出身のウィリアムズ主教が築地に聖書と英学を教える私塾を開き、間もなく立教学校と称したことに始まる。その後 1907 年に専門学校令により立教大学となり、1918 年に現在地の池袋に移転した。1922 年には大学令による大学として認可され、戦後の 1949 年に新制大学として認可された。

図書館は大学が池袋に移転した 1918 年に開館した。関東大震災で損害をうけ、1925 年に本館改修、および書庫を増築した。池袋本館、新座保存書庫、人文科学系図書館、社会科学系図書館、自然科学系図書館、新座図書館、学校・社会教育講座、総合研究センターのすべてを合わせた蔵書数は約 170 万冊で、「wwwOPAC」<http://opac.rikkyo.ac.jp/opac/>

で検索可能である。

「大久保利謙文庫」：元同大学教授、歴史学者の大久保利謙（1900-1995年）の旧蔵資料、和図書 11,318、洋図書 942、和雑誌 20、洋雑誌 1。明治維新より大正に至る日本近代史資料を中心とする。伝記や明治期の思想家の著作も多数ある。父にあたる大久保利武のコレクション（洋書）も含まれる。刊行目録に立教大学図書館編『大久保利謙文庫目録 附大久保利武コレクション』（1990年）、『大久保利謙文庫目録 第2集』（1996年）がある。

「宮澤俊義文庫」：元同大学教授、憲法学者の宮澤俊義（1899-1976年）の旧蔵資料、和図書 5,687、洋図書 2,820、和雑誌 321、洋雑誌 142。和・洋の憲法学、行政法の資料、特に戦後の日本国憲法成立時のメモ、論文、冊子等貴重な資料から成る。そこには1920年代～40年代に刊行された中国、朝鮮、その他アジアの政治・行政・法律に関する和書や、1900年代以降に刊行された政治学・法学・歴史に関する中国書も含まれている。刊行目録に立教大学図書館編『宮澤俊義文庫目録』（1988年）がある。

「故神島二郎教授旧蔵書」：元同大学教授、政治学者の神島二郎（1918-1998年）の旧蔵資料、1731冊。コレクションとしてのまとまりでは保管していない。一般図書は他の蔵書と一緒に配架されており、「wwwOPAC」<http://opac.rikkyo.ac.jp/opac/>で検索可能である。そのリストは、図書館閲覧課で確認できる。

「江戸川乱歩旧蔵資料」：小説家・推理作家である江戸川乱歩（1894-1965年）の旧蔵資料。江戸川乱歩の住宅と土蔵（書庫兼書斎）が、立教大学の隣接地にあったことから、2002年に立教大学が住宅・土蔵とそこに所蔵されていた蔵書・資料を購入した。近現代資料は5,178冊（土蔵分）、5,910冊（母屋分）で、「江戸川乱歩記念大衆文化研究センター」にある。「wwwOPAC」<http://opac.rikkyo.ac.jp/opac/>で検索できる。同センターへの事前申請により、毎週金曜日に研究目的の閲覧が可能である。「旧江戸川乱歩邸」<http://www.rikkyo.ne.jp/web/koho/ranpo/index.html>を参照。このほかに寄託資料もあり、草稿類・書簡類が含まれるが、現在整理中である。

立教大学 アジア地域研究所

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学ミッチェル館

電話：03-3985-2581

<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/ajiken/>

1958年に旧・文部省科学研究費の特別枠交付を受けて発足した「アジア地域総合研究施設」として文学部に設置された。科学研究費の終了後は新設された大学院地理学専攻に引き継がれ、1998年にアジア地域研究所となる。

蔵書は18世紀以降のアジアの自然環境、生活誌、土地利用、工業化の地理学的基礎に関わる図書を中心に、約3,500冊を所蔵し、総合研究センター内の図書閲覧室で利用できる。

蔵書検索は「wwwOPAC」 <http://opac.rikkyo.ac.jp/opac/>で行える。

「別枝コレクション」：同大教員であった別枝篤彦（インドネシア地理学）の名を冠した地図コレクション。内容は、旧日本軍陸軍参謀本部陸地測量部が作成した外邦図のうち、「蘭印」「英領マレー」「仏領印度支那」「印度」「比律賓」「泰」など主として東南アジア地域分と海軍作成の水路図で、整理中のため一般公開されていない。

早稲田大学 中央図書館

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

電話 03-3203-5581

<http://www.wul.waseda.ac.jp/index-j.html>

1882年、東京専門学校（現早稲田大学）の創立と同時に図書室が設置された。1900年には東京専門学校図書館となり、つづいて1902年東京専門学校が早稲田大学と改称したことにより、早稲田大学図書館となった。1991年には、安部球場跡地である現在地に、国際会議場と中央図書館からなる総合学術情報センターが建設された。

早稲田大学図書館の蔵書数は図書5,269,532冊、雑誌51,573種（うち中央図書館の蔵書数は図書2,496,372冊、雑誌16,427種。いずれも2007年度）で、オンライン蔵書検索「WINE」<http://wine.wul.waseda.ac.jp/>で検索できる。ただし、貴重書・古書資料や特殊コレクションなどについては、冊子目録やカード目録での検索が必要なものもある。

早稲田大学図書館ではインターネット上での資料の公開に努めている。現在、早稲田大学図書館が所蔵する古典籍約30万冊の書誌情報と関連研究資料、全文のカラー画像の公開を目指し、「古典籍総合データベース」<http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html>の構築作業が進められている。以下で述べる資料にも、これらで公開・紹介されているものが少なくない。

早稲田大学中央図書館が所蔵する多数資料のうち、「アジア歴史資料」には次のようなものがある。

・「大隈文書」

創立者の大隈重信（1838～1922）の関係文書。1922年及び1950年の2回にわたり大隈家より寄贈され、総数は約12,000点である。内容は、官庁関係文書、和文書簡、欧文書簡の3つに分けられる。政治外交関係文書のなかに「台湾事件」に関する資料があり、書簡のなかには「孫文書簡」も含まれている。目録に早稲田大学大隈研究室編『大隈文書目録』（早稲田大学図書館、1952年）、『大隈文書目録補遺』（同、1975年）があり、早稲田大学編『図録大隈重信 近代日本の設計者』（早稲田大学出版部、1988年）が参考となる。雄松堂書店によりマイクロフィルム化がなされている。「古典籍総合データベース」の「大隈重

信関係資料」http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/ga_okuma/index.html で、全資料を公開することとなっており、作業が進められている。

・「大河内文書」

もと高崎藩主、大河内輝声（1848-1882）が遺した中国人との筆談集。輝声は幕末に洋式兵学を学び、幕府陸軍奉行となったが、維新後は公務を離れて漢詩文の制作に励み、在朝の中国文化人と交わった。この文書は、漢文による筆談を輝声自身が説明を付して保存したものである。もとは100巻あったといわれ、大河内家の菩提寺・平林寺が管理していたが、現在その主なものが大東文化大学と早稲田大学に所蔵されている。早稲田大学中央図書館所蔵のものは1875年から1881年までの16巻である。明治初年における日中友好のありようを探る好個の資料である。カード目録がある。『早稲田大学図書館 館蔵資料図録』（早稲田大学図書館、1990年）、さねとうけいしゅう編訳『大河内文書 明治日中文化人の交遊』（平凡社〈東洋文庫18〉、1964年）が参考となる。

・「津田左右吉伝記資料」

歴史学者・早稲田大学名誉教授・文学博士である津田左右吉（1873～1961）の遺した草稿・メモ類。日記38種、稿本類22種、雑稿9種、満鮮地理歴史資料抜書類28種、手写本18種、演劇音楽会パンフレット67種および遺愛品などが含まれている。カード目録がある。

・「宇垣一成宛諸家書簡」

軍人・政治家、宇垣一成（1868～1959）宛の書簡のコレクション。1,793通。遺族より寄贈されたもので、国立国会図書館憲政資料室の宇垣文書と対をなす。宇垣は陸軍の要職を経て陸軍大臣となり軍縮を断行、のち朝鮮総督、外務大臣などを歴任した。朝鮮における重工業の育成に努めるとともに、日中和平工作に奔走した。目録に『宇垣一成諸家書簡目録』（早稲田大学図書館、1989年）がある。これら書簡のうち重要な意味を持つと思われるものは、宇垣一成文書研究会編『宇垣一成関係文書』（芙蓉書房出版、1995年）に翻刻されている。

・「岡松参太郎文書」

法学者・岡松参太郎（1871-1921）は、台湾総督民政長官であった後藤新平のブレーンとして、台湾統治と法整備のため旧慣調査を実施し、後に満鉄理事にも就任した。法律学者との書簡、法案の起草原稿、メモ類など貴重文書のほか、台湾・満鉄関係の資料が含まれている。資料の状態が悪いものが多く原本は非公開となっているが、2008年、その全容が『早稲田大学図書館所蔵 岡松参太郎文書』（マイクロフィルム、122リール）として刊行された。

・「西垣文庫」

早稲田大学出身者であり、元日本新聞資料協会会長の西垣武一（1901～1967）所蔵資料。西垣氏は、戦前戦後を通じて広告界の第一線で活躍し、広くマスコミ界に貢献した人物である。本文庫は戦後20年にわたって氏が収集した約12,000点の新聞関係資料で、錦絵やポスター、瓦版、各種広告ビラなどビジュアル資料を多く含んでいる点特徴的である。

幕末・明治期の資料が中心だが、特派員記、従軍記、地誌・案内などの刊行物のほか、旧満州や台湾で使用されたポスターや看板、瓦版、ビラなどの「アジア歴史資料」も含まれている。検索は冊子目録と WINE（研究書庫配架分のみ）で行う。早稲田大学図書館編・発行『早稲田大学図書館文庫目録第 11 輯 西垣文庫目録』（1986 年）があり、早稲田大学図書館編『幕末・明治のメディア展—新聞・錦絵・引札—』（早稲田大学出版部発行、1987 年）が参考となる。WEB 展覧会「幕末・明治のメディア展—新聞・錦絵・引札—」<http://www.wul.waseda.ac.jp/TENJI/virtual/bakumei/>には、「西垣文庫」を中心とする資料が紹介されている。

・「原田繊維文庫」「和田繊維文庫」

早稲田大学出身者である原田忠雄氏（1885-1953）が大日本紡績株式会社に在職中、職務上の参考資料として収集した資料である。和漢書 1,135 部 1,438 冊、洋書 404 部 491 冊、和雑誌 51 部 186 冊、洋雑誌 6 部 16 冊からなる。戦前の繊維関係資料を内外の図書・雑誌・パンフレットに至るまで網羅的に集めている点に特色があり、中国などに関わる資料も含まれている。刊行目録に早稲田大学図書館編・発行『早稲田大学図書館文庫目録第 6 輯 原田繊維文庫目録』（1975 年）がある。また、この「原田繊維文庫」を継承する内容の繊維関係資料のコレクションとして「和田繊維文庫」（約 5,500 冊）があり、故和田憲夫氏（元日本化学繊維協会常任理事）の遺族より 1989 年 3 月寄贈されたものである。

・「鴻跡帖」

清国政府が近代化政策の一環として進めた対日留学政策を受けて、1905 年に早稲田大学内に清国留学生部が設立された。本資料は同部の留学生が予科を修了するにあたって、大学の要請で記念として残した詩文や書画を集めたものである。計 7 冊。辛亥革命前夜の清国留学生の思潮がうかがわれる。前掲の「古典籍総合データベース」で全文を見ることができる。

・「中国文化大革命期間報刊・中共中央通知」

1994 年以後 3 回にわけて購入された、中国文化大革命当時の新聞・雑誌資料。323 種 1187 枚（「報紙」260 種 1123 枚、「通知・公報」8 種 8 枚、「学習資料・謄写版」10 種 11 枚、「学習資料・活字版」32 種 32 枚、「布告・闘争資料」13 種 13 枚）。目録に『中国文化大革命期間報刊・中共中央通知所蔵目録』（早稲田大学図書館、2005 年）がある。

●社会科学研究所旧蔵資料

早稲田大学では、1938 年に「東亜経済資料室」が設立され、1940 年に「興亜経済研究所」に発展した。1944 年には「興亜経済研究所」と「世界政治研究所」（1940 年設立）、法学部に置かれていた「東亜法制研究所」の 3 つが発展的に解消し、「興亜人文科学研究所」に統合された。これが敗戦を経て、1946 年に「人文科学研究所」となった。1955 年には「大隈研究室」（1950 年に「大隈重信文書」の調査・整理目的で設立）と統合されて「大隈記念社会科学研究所」となり、さらに 1963 年に改組・再編されて「社会科学研究所」となった。

そして 1997 年早稲田大学社会科学研究所は、「早稲田大学アジア太平洋研究センター」

へと改組された。その際、社会科学研究所旧蔵資料の一部が早稲田大学中央図書館に移管された。

以上の経緯から、社会科学研究所旧蔵資料には、日本近代政治史関係文書や旧植民地関係資料が多く含まれている

【日本近代政治史関係文書】

刊行目録に『早稲田大学社会科学研究所所蔵 明治維新関係文書目録』（1974年）、『早稲田大学社会科学研究所所蔵 日本近代政治史関係文書目録』（1997年）がある。しかし利用の際は、中央図書館作成の最新版『早稲田大学社会科学研究所旧蔵 日本近代政治史関係文書目録』（2003年）で確認する必要がある。

・「稿本伊藤家文書」：帝室編修官として『明治天皇紀』の編修に従事し、戦後は早稲田大学大隈研究室、大隈記念社会科学研究所嘱託として、大隈文書の整理研究に携わった渡辺幾治郎（1878-1960）が旧蔵していた史料であり、1942年に刊行された平塚篤編『伊藤家文書』（91冊）である。他の伊藤博文関係文書と合わせ、伊藤博文関係文書研究会により『伊藤博文関係文書』全9巻（塙書房、1973-81年）として公刊されている。

・「稿本岩倉家文書」：同じく渡辺幾治郎旧蔵の岩倉具視関係史料である。一部タイプ版であるが、大半はペン書による筆写史料であり、和綴装丁された簿冊が85冊ある。前掲『早稲田大学社会科学研究所所蔵 日本近代政治史関係文書目録』（1997年）に各簿冊のタイトルが紹介されている。

・「伊東巳代治関係文書」：伊東巳代治（1857-1934）は、伊藤博文の下で明治憲法をはじめとする近代日本の国家制度制定事業に参画し、農商務大臣や枢密顧問官を歴任した。本文書は1950年代に古書店から数回にわたって購入されたものである。その大半は、伊藤博文の書翰である。すでに『伊藤博文伝』などで紹介されている文書もある。

【旧植民地関係資料】

刊行目録に『早稲田大学社会科学研究所蔵書目録—東南アジア関係の部』（1973年）、『早稲田大学社会科学研究所蔵書目録—中国・朝鮮の部』（1975年）がある。また、『日本統治下の旧植民地・占領地社会経済文化の変容』（平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書概要 基盤研究(A)(2)、小林英夫研究代表、2001年）も参考になるが、利用に際しては必ずWINEでの検索が必要である。資料のうち刊行物約2,000点は、主に中央図書館地下1階に「リ07」（東洋史）分類で配架されており、請求記号はWINEで検索可能である。

社会科学研究所旧蔵資料のうちアジア太平洋研究センターへ移管された資料で、「アジア歴史資料」に該当する次のコレクションについては、中央図書館を通じてアジア太平洋研究センター図書室にて利用可能である。

・「西嶋コレクション」：戦前にバンドンのトコチヨダの支配人から海軍嘱託となり、戦後のインドネシア独立運動にも深く関わった西嶋重忠のコレクションで、インドネシアにおける日本軍政関係の一次資料、文献、マイクロフィルムなど約600点。ドキュメントについてはマイクロフィルムで中央図書館所蔵。冊子目録として *The Nishijima collection*・

materials on the Japanese military administration in Indonesia, 1973 がある。

・「増田コレクション」：増田与（元早稲田大学社会科学研究所教授、インドネシア現代史）寄贈資料。スカルノ時代におけるインドネシアのナショナリズム関係の一次資料（インドネシア語、英語、オランダ語）および、著書執筆のために集められた資料など約 1,200 点。冊子目録として *The Masuda collection: A catalogue of materials pertaining to past-Independence Indonesia*, 1997 がある。

●マイクロ資料

早稲田大学中央図書館では、マイクロフィルムやマイクロフィッシュによる資料の収集も積極的に進めている。それらの所蔵は「早稲田大学中央図書館所蔵 主要マイクロ資料所蔵目録」<http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/MICRO/title.htm> で確認できる。

「アジア歴史資料」としては、清国・中華民国留学生担当機関の関係資料である「中国留日学生監督処文獻」（原資料は所在不明）、「斎藤実関係文書」（国立国会図書館所蔵。国立国会図書館と早稲田大学の協力によりマイクロフィルム化がなされた）、「寺内正毅文書」（国立国会図書館所蔵）、「田中義一関係文書」（山口県文書館所蔵）、「近衛文麿公関係文書」（陽明文庫所蔵）、「陸奥宗光関係文書」（国立国会図書館所蔵）等の政治家・軍人関係資料、「通信全覧」、「外務省文書」、「外務省外交記録」（外務省外交史料館所蔵）等の日本の外交資料、「満鉄調査部資料」（米国議会図書館所蔵分）、「[満鉄] 立案調査書類」（東京大学社会科学研究所所蔵）、「南満州鉄道社内刊行物集成」（中国科学院図書館大連資料室蔵）等満鉄関係資料ほかがある。

早稲田大学 大学史資料センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1（2008 年 9 月に移転予定）

電話：03-5286-1814（2008 年 9 月に移転予定）

<http://www.waseda.jp/archives/>

1961 年に校史資料係が設置され、1963 年の大隈記念社会科学研究所の改組により、同研究所の事業目的であった「大隈重信の事蹟の研究」を継承し、校史資料室となる。1970 年、早稲田大学大学史編集所に改組された。『早稲田大学百年史』編纂（1970- 1997 年）を完了した 1998 年、早稲田大学大学史資料センターとなる。

大学の歴史と創設者大隈重信の資料を収集・整理するほか、大隈重信関係文書の翻刻、企画展示などを行なっている。大学関係の移管文書および個人からの寄贈文書資料を所蔵しており、ホームページ上の「大学からの移管資料」<http://www.waseda.jp/archives/materials/public.html>、「個人からの寄贈資料」<http://www.waseda.jp/archives/materials/private.html> に資料情報と資料目録が掲載されている。また、『早稲田大学百年史』

http://www.waseda.jp/archives/database/cent_index.html および「写真データベース」
<http://database.littera.waseda.ac.jp/shashin/> も作成されている。

<大学からの移管資料>

- ・「国際交流関係資料」：主として戦後の留学生に関する資料。「沖縄学生」「インドネシア賠償留学生」の項目が見られる。
- ・「3号館旧蔵資料」：主に西早稲田キャンパス3号館の屋根裏に保管されてあった資料。日露戦後の清国留学生に関わるものや、1938、39年の特設東亜専攻科の資料が含まれている。
- ・「旧社会党関係資料」：旧社会科学研究所から移管された、1950年代半ばまでの旧社会党に関連する資料群。アジア社会党会議に関する資料が含まれている。現在は現代政治経済研究所にて整理中で公開していない。

<個人からの寄贈資料>

- ・「堤康次郎関係文書」：拓務政務次官時代（1932-34年）の資料を含む、拓務省・満鉄関係の資料が含まれている。
- ・「姜箕錫早稲田大学関係資料」：1936年同大学を卒業し、韓国政府企劃処および復興部局長を歴任した姜箕錫(1908-2000)の大学関係資料である。
- ・「浮田和民文庫」：同大学で政治学・西洋史を講義し、雑誌『太陽』主幹であった浮田和民(1856-1946)の著作・自筆原稿・蔵書および関係資料。WEB目録はなく、センター内にある冊子目録でタイトルを確認することができる。
- ・「安部磯雄文庫」：同大学教員で社会主義者の安部磯雄(1865-1949)の日記・原稿・講義ノート・研究ノート・書簡など、536点の関係資料。
- ・「石橋湛山早稲田大学関係資料」：同大卒業でジャーナリスト、政治家であった石橋湛山(1884-1973)の、大学関係資料5点。

早稲田大学 現代政治経済研究所 図書室

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

電話：03-3204-8960

<http://www.waseda.jp/seikei/ircpea/>

1978年、現代日本の政治、経済、ならびにマス・コミュニケーション関係資料の収集整理を行うことを目的として設置。同年にEC資料センター指定を受け、2006年にEU情報センターと改称した。

1994年の高田早苗記念研究図書館開館以降、所蔵図書の大部分は高田早苗記念研究図書館に配架されることになったが、参考図書・雑誌・新聞・マイクロ資料およびEU出版物は図書室で所蔵している。3万5千点。「WINE」<http://wine.wul.waseda.ac.jp/>で検索可能である。

「八田嘉明文書」：八田嘉明（1879-1964）旧蔵の文書 1,894 点。満鉄副総裁就任（1932 年 4 月）から東条内閣の運輸大臣を辞任する（1944 年 2 月）までの時期の文書で、満鉄副総裁時代の資料が全体の約 3 分の 1 を占める。冊子目録でタイトルと請求番号を検索できる。マイクロフィルム化され、『八田嘉明文書目録』（雄松堂出版、1996 年）として刊行されている。

ほかにマイクロ資料として、多くの政治家の私文書資料を収集し、さらに『京城日報』（タブロイド版）、『京城新報』（タブロイド版・復刻版）、『満州日日新聞』、『樺太日日新聞』、『朝鮮総督府官報』、『大韓民国「官報」』（1948 年 9 月-1953 年 12 月 CD-ROM 版）なども収集している。

<公益法人>

財団法人 東京市政調査会 市政専門図書館

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-3 市政会館 1F

電話：03-3591-1264

<http://www.timr.or.jp/>

東京市政調査会は、1922 年 2 月、当時の東京市長後藤新平によって設立された。モデルはニューヨーク市政調査会（New York Bureau of Municipal Research、現在の行政研究所 =Institute of Public Administration: IPA）である。設立の目的は、東京その他内外諸都市の都市政策に関する諸般の調査研究を行うとともに、公私の機関と協力してその実現を期し、もって都市自治の発展と市民生活の向上ならびに都市問題の解決に資することである。

同会は、創設当初から資料の収集・整理を特に重視し、図書室を設けてその整備・充実に努めてきたが、1926 年、図書室を都市問題・市政の研究者のため無料で公開することとした。その後、図書室のいっそうの充実が図られ、1941 年に市政専門図書館となった。

蔵書数は、2008 年 3 月末現在で、13 万 3,002 冊（和書 11 万 0,514 冊、洋書 2 万 1,488 冊〈製本雑誌を含む〉）、受入雑誌数は 204 誌（和雑誌 173 誌、洋雑誌 31 誌）である。

その蔵書構成に関しては、都市問題、都市政策、都市計画、地方財政、地域経済、地方自治といった分野を主にし、特に各都市・都道府県から刊行される歴史書、統計書、総合計画書、調査報告書などを収集・所蔵している。

「中山文書」は中山寛六郎氏（1855-1934、内務大臣秘書官、内閣総理大臣秘書官）旧蔵の明治期地方制度関係資料である。オンラインで「中山文書目録」http://www.timr.or.jp/lib_nakayama.html が公開されている。

「大森文書」は、大森鐘一氏（1856-1927、内務官僚）旧蔵の明治自治制制定関係資料である。オンラインで「大森文書目録」http://www.timr.or.jp/lib_oomori.html が公開されて

いる。

所蔵図書のうち、和書約 9 万冊・洋書約 1 万 8 千冊、および同会機関誌『都市問題』(1925-)の全ての論文と 1999 年 1 月以降に受け入れた雑誌から採録した論文が「蔵書検索 OPAC」<http://www.timr.or.jp/lib.opac.html> で検索できる。また、和洋雑誌タイトル一覧もホームページ上に掲載されている。

戦前のアジア諸都市に関する資料として、日中戦争期に東アジアの大都市の連携を目指した「東亜大都市懇談会」「東亜大都市聯盟」などに関する資料がある。

神奈川県

神奈川県立公文書館

〒241-0815 横浜市旭区中尾 1-6-1

電話：045-364-4454（閲覧室）

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0219/>

1993年に開館した。歴史資料として重要な公文書、古文書等の記録類を継続的に収集・保存し、県民共有の記録遺産として長く後世に伝えるとともに、その収蔵資料を広く公開することにより開かれた県政の一翼を担うことを設立目的とする。

1972年、『神奈川県史』編集過程で収集された資料を、県史編集事業終了後においても保存し、県民にも利用できるようにするための施設として、県立文化資料館が県立図書館に併置された。1993年の公文書館開館に際して、県立文化資料館で収蔵されていた歴史的公文書、古文書、私文書などの文書資料、行政刊行物及び神奈川の歴史に関する図書、神奈川県史編集事業で収集された資料等が公文書館に移管された。

神奈川県では、戦前期の公文書は明治期の県庁舎の火災、関東大震災、太平洋戦争での米軍上陸を前にした焼却などで多くが失われている。

公文書館では、歴史的公文書 193,825 点、古文書等 130,718 点、行政刊行物・図書 146,952 点、県史編集資料 141,428 点、フィルム類 29,572 点、合計 642,495 点（2008年3月31日現在）を所蔵する。「収蔵資料のご案内」<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0219/publication/shuzo-guide/shuzo-guide.html>で資料の紹介がなされている。

「収蔵資料の検索」<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0219/search/search.html>から、「歴史的公文書」、「古文書・県史写真製本（『神奈川県史』編纂の際に収集した資料の紙焼を製本したもの）」、「行政刊行物・図書」ごとに検索が可能である。また、館内用の電子検索システムもある。

同館では、収蔵資料の検索を館内電子検索システムとインターネット検索に特化しているため、公文書に関わる印刷目録を刊行していないが、過去に刊行された目録に、神奈川県立文化資料館編・発行『神奈川県立文化資料館 戦前期公文書目録』（1989年）、『同県庁各課文書件名目録』1～3（1991～1992年）、『同 郡役所文書件名目録』（1990年）、『同 県会・参事会文書件名目録』（1993年）がある。

古文書については、『神奈川県古文書資料所在目録』第1～26集（1979～2007年、第16集まで神奈川県立文化資料館編、第17集から神奈川県立公文書館編）があり、各文書の概要を述べた部分に関しては「神奈川県古文書資料所在目録」<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0219/publication/syozai-mokuroku/syozai-moku>

[roku.html](#) でみることができる。そのほか『神奈川県立公文書館資料所蔵目録』第1集(小塩家文書)(1997年)、『神奈川県立公文書館寄託資料目録』第1、2集(武尾家文書 1、2)(1999、2001年)がある。

1872(明治5)年清国人苦力を奴隷売買から解放したマリア・ルス号事件に際し、神奈川県権令大江卓と外務卿副島種臣に在日華僑から感謝の意を込めて贈られた大旆を所蔵する。

県庁各課文書の中に、永代借地権に関する資料、1935(昭和10)年4月の満州国皇帝の来日に関わる「昭和11年 満州国皇帝陛下関係書類」などが、県会文書中に大東亜共栄圏、南方、中国等との貿易に関する資料(1943年)などが含まれている。

行政刊行物・図書の中に、昭和戦前期に横浜市や神奈川県によって派遣された教育関係者の手になる中国、満州、朝鮮、台湾、香港、南洋に関する視察報告などが含まれている。

県史写真製本の中の「横浜市水谷邦太郎氏所蔵資料」には、戦前の日本共産党の出版物が含まれている。

古文書の中の「相模国足柄上郡武尾家文書」に1895年に発行された台湾の地図が含まれている。

「神奈川県特高関係史料」に、1932年の上海新公園における上海爆弾事件などの資料が含まれている。

神奈川県立図書館

〒220-8585 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘 9-2

電話：045-263-5900

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/index.htm>

神奈川県立図書館は、1954年設立の神奈川県立図書館(横浜市所在)と1958年設立の神奈川県立川崎図書館の2館体制をとっており、神奈川県立図書館は社会・人文科学系図書館、県立川崎図書館は科学・産業技術系図書館としての機能を担いながら、相互に連携している。神奈川県立図書館は神奈川に関する資料も収集・提供している。

蔵書に戦前に刊行された中国、朝鮮などアジアに関わる資料が含まれている。県立2館の蔵書は、「神奈川県立図書館 OPAC」<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/opac/index.jsp>で検索できる。

坂田諸遠(幕末外交文書集「続通信全覧」の編者)の蔵書「坂田文庫」の一部(5冊)を所蔵する。「清国鴉片輸入厳禁始末」、「朝鮮仏巫戦争記事」(外務省用紙が使用されている)など、幕末から明治初期のアジア情勢が記された資料が含まれている。

「戦時文庫」は、第二次世界大戦下に発行された図書のコレクションで、1570冊(うち児童書276冊)。戦記・戦史・軍事情報・伝記・海外事情・軍事読物・小説・紙芝居など

で構成され、戦時下の国民思潮や生活をよく伝えている。アジア各地の事情を紹介した著作も多い。神奈川県立図書館資料部図書課編『戦時文庫目録（神奈川県立図書館所蔵）』（神奈川県立図書館、2002年）がある。同目録の電子版はhttp://www.klnet.pref.kanagawa.jp/denshi/index_senzi.htmで見ることができる。目録には「戦時文庫」に関わる詳しい解説が付され、一部については表紙の画像も紹介されている。

「ベストセラーズ文庫」は明治以降約 130 年間のベストセラー・コレクション。1,500 冊以上。神奈川県立図書館資料部図書課編『ベストセラーズ文庫目録（神奈川県立図書館所蔵）』（神奈川県立図書館、2001年）がある。

・「雑誌創刊号コレクション」：明治から現在に至る雑誌の創刊号のコレクション。「雑誌創刊号コレクション」
http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/collection/kpl_collection08.htmから pdf ファイルにより「創刊号コレクション一覧」を見ることができる。

「かながわ資料室」では、神奈川県内の歴史、文化、行政、自然、産業などに関する資料（図書・行政刊行物・雑誌・新聞・地図など）が利用できる。全国紙の神奈川県版、神奈川の地方紙を所蔵し、「神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」
http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/zassi_mokuroku/kpl_soumoku_hyousi.htmで検索できる。

横浜開港資料館

〒231-0021 横浜市中区日本大通 3

電話：045-201-2100

<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

横浜開港資料館は、横浜の歴史に関する資料を収集し、閲覧・展示・出版などにより、一般に公開する横浜市の施設である。横浜開港百年を記念して編さんされた『横浜市史』の収集資料を基礎に、1981年に開館した。幕末から昭和初期までの、横浜に関する歴史資料約 25 万点を収蔵している。

館内の「横浜開港資料館 蔵書検索システム」では、和図書・洋図書・アジア諸言語の図書（いずれも NDC 分類でデータを入力した図書）が検索できる。その他の図書やコレクションについては、カードや冊子の目録で検索する。

ホームページ上の「閲覧室でご覧になれる資料」
<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/document/index.html> に収蔵資料の概要が紹介されている。同館編・発行『横浜開港資料館 資料総覧』（2006年）に詳しい解説がある。

収蔵資料は、「文書記録類」「行政資料」「新聞・雑誌」「文献資料」「画像資料」「地図・図面類」「個人コレクション」の大きく7つの資料群に分けられ、整理されている。

・「文書記録類」の「諸家文書」中に、「台湾貿易株式会社関係資料」（79点、1894～1901年）がある。同社横浜支社の資料で、茶輸出、ガラス・紙輸入の文書・書簡・送り状などからなる。館内目録がある。

・「海外資料」中に「中華民国外交档案」・「横浜大震災中之華僑状況」（関東大震災時における華僑虐殺に関する資料。カード目録あり）、「〔1872～1873年の日本・中国旅行記〕」（1872～1873年にかけて日本と中国を旅行した外国人の旅行記。カード目録あり）がある。

・「個人コレクション」中に、「稲生典太郎文庫」がある。「稲生典太郎文庫」は、近代日本外交史の研究者であった稲生典太郎博士が、その半生をかけて蒐集した外交史文献を中心とするコレクションである。総点数は1万点あまりで、収集範囲は幕末の和親条約・通商条約から明治期の条約改正に関わる文献、昭和戦前期までを中心とする外交・政治文献、さらに当時の社会・風俗を伝える資料、暦・双六・地図・未来戦記など多岐にわたる。なかでも、明治年間を通じて国家的課題であった条約改正・内地雑居問題に関する文献が柱となっている。

目録に横浜開港資料館編・発行『横浜開港資料館所蔵 稲生典太郎文庫目録』第1集（2006年）がある。和図書・文書類・地図の合計 7,133 件が収録され、次のようなアジア関連資料が含まれている。

【和図書】日清戦争・義和団事件・日露戦争・満州事変～第二次世界大戦に関わる同時代の図書、戦前に刊行されたアジアの歴史に関わる図書、アジアの政治家・軍人の伝記、アジアの地理・地誌・紀行・政治・経済・社会事情に関わる図書、アジアをめぐる日本の対外政策・外交・政治・経済・軍事に関わる図書が含まれている。

【稲生典太郎の収集した個人文書など】

- ・「荒木貞夫文書」：陸軍大将・荒木貞夫の関係文書。日露戦後の参謀本部勤務時代のもの。仏領印度支那、韓国、清国の行政や軍事に関わる史料。
- ・「小牧昌業文書」：黒田内閣の内閣書記官長、奈良・愛媛県知事、枢密院書記官長等を務めた小牧昌業の関係文書。明治～大正初期の政治・外交に関わる史料。
- ・「島田滋文書」：モスクワ総領事を務めた島田滋の関係文書。日ソ関係の史料。
- ・「内藤湖南関係文書」：東洋史学者で、京大教授の内藤湖南（本名：虎次郎）の関係文書。内藤湖南編著関係資料。
- ・「陸奥宗光関係文書」：日清戦争前後に外相を務めた陸奥宗光の関係文書。12種類 13冊の『蹇蹇録』、伊達千広（陸奥宗光の父）の著作物。
- ・幕末期の海外情報（海外新話、清英近世談など）。

【地図】戦前のアジアの地図。

横浜国立大学 経済学部 附属貿易文献資料センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-3

電話：045-339-3519

<http://www.econ.ynu.ac.jp/CITShomepage/>

1923年12月に11番目の高等商業学校として設置された横浜高等商業学校は、1944年4月の横浜経済専門学校への改称を経て、1949年5月に新制横浜国立大学経済学部へ改組された。高等商業学校の開学以来、戦前期に蓄積されてきた資料は、1978年4月に設置された経済学部附属貿易文献資料センターに引き継がれている。

主な内容は、国内官公庁・企業・民間団体等刊行物（約3,400点）、営業報告書（約3,700点）、年報・年鑑（約400点）、旧植民地関係資料（約600点）、和雑誌（約500点）、新聞記事切り抜き資料（約220点）などである。

これら旧横浜高商収集資料については、かつて『エコノミア』第75号～第92号に「貿易文献資料センター所蔵目録（1）～（16）」が掲載されたが、これに調査・補充を加えて横浜国立大学経済学部附属貿易文献資料センター編『旧制横浜高等商業学校収集資料目録』（同所、2001年）が編纂されている。同目録は、資料センター・ホームページの「高商資料」<http://www.econ.ynu.ac.jp/CITShomepage/kosho.html>から閲覧・ダウンロードすることができる。

また、貿易文献資料センター所蔵資料の大半は、横浜国立大学附属図書館の「OPAC」<http://www.lib.ynu.ac.jp:8080/op/>でオンライン検索が可能である。

旧横浜高商収集資料の構成や特徴などの詳細は、飯島渉「旧制横浜高等商業学校収集資料について」（『旧制横浜高等商業学校収集資料目録』）を参照されたい。

なお、本資料センターには、『旧制横浜高等商業学校収集資料目録』に掲載された資料以外にも、同窓会や旧横浜高商の刊行物などが所蔵されており、順次整理が進められている。

横浜国立大学 附属図書館 中央図書館

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-3

電話：045-339-3219

<http://www.lib.ynu.ac.jp/>

別項の「横浜国立大学経済学部附属貿易文献資料センター」で述べたように、戦前に横浜高等商業学校が収集した資料は、基本的には同センターに引き継がれたが、「太平洋貿易研究所文庫」、旧教員寄贈資料などは、同大学附属図書館中央図書館に所蔵されている。

太平洋貿易研究所は、1941年1月、戦時下の南方進出を背景とする太平洋沿岸地域の調査研究のため、横浜高等商業学校に設置された。同研究所が収集した資料からなる「太平洋貿易研究所文庫」は、戦前のアジア産業貿易および地誌関係書を中心に、和書・洋書合わせて約1,400点で構成されている。また、横浜高等商業学校編『南方共栄圏資料』（第1輯～第5輯、1941年～1943年）が編纂された。

「太平洋貿易研究所文庫」の内容については、横浜国立大学経済学部附属貿易文献資料センター編『旧制横浜高等商業学校収集資料目録』（同所、2001年）に収録され、貿易文献資料センター・ホームページの「高商資料」に含まれる「太平洋文庫」<http://www.econ.ynu.ac.jp/CITShomepage/taiheiyou.pdf> から閲覧・ダウンロードが可能である。

このほか、横浜高等商業学校の教員寄贈図書として、「浅井文庫」（浅井秀次：1905～？年、中国経済の調査報告類など313冊）、「徳増文庫」（徳増栄太郎：1894～1963年、西洋経済史の洋書など812冊）が所蔵されている。

なお、中央図書館所蔵資料のほとんどは、横浜国立大学附属図書館の「OPAC」<http://www.lib.ynu.ac.jp:8080/opac/>でオンライン検索することができる。

長野県

長野県立歴史館

〒387-0007 長野県千曲市大字屋代字清水 260-6 科野の里歴史公園内

電話 026-274-2000

<http://www.npmh.net/index.html>

郷土の歴史資料の収集、保存、調査研究、情報提供および展示等を行う施設として 1994 年に開館。通常の常設展示のほか、文書館の機能を併せ持っていて、長野県に関係する古文書、県などの行政文書、信濃史料・県史・県政史・県教育史などの修史事業による収集資料、戦後の現代史料などを収集して閲覧に供している。これらの概要はホームページの「文献史料案内」<http://www.npmh.net/bunken/frame.html>で見ることができる。

明治時代以降に県が作成した行政文書は、県庁、県立長野図書館を経て同館に收藏され、簿冊にして明治期が約 4,900 冊、大正期が約 3,300 冊、昭和戦前期が約 1,700 冊と残存量としてかなり多い方だといえる。なお同文書群は、2008 年 1 月に「長野県行政文書」として県指定文化財（県宝）となっている。目録は同館編・刊『行政文書目録 行政簿冊 1(明治・大正編)』（1994 年）、同『行政文書目録 行政簿冊 2(1926~1946 年)』（1997 年）、『行政文書目録 行政簿冊 3(1947~1965 年)』（1996 年）、『行政文書目録 行政簿冊 4(1947~1970 年)』（2001 年）が編まれている。各簿冊の収録文書は件名での検索はできないので、詳細は簿冊を実見することになるが、兵事、兵務・東亜同文会といった簿冊が散見される。

また県立長野図書館に收藏されていた古文書の一部も移管され、独自の収集資料と併せて同館編・刊『長野県立歴史館收藏文書目録 1~7』（1997~2008 年）が編まれている。収録文書の大半は近世文書であるが、『同目録 6』に収録された「清水家文書」にはまとまった数の陸軍関係文書が含まれている。一つは近衛騎兵連隊に所属し、日露戦争に従軍した清水鎮雄のもので、帰郷後の長野連隊将校会、在郷軍人会などの関連のものである。もう一つは鎮雄の従兄弟の清水克己が 1917 年に陸軍士官学校に入学し、1934 年に陸軍大学校を卒業するまでの時期の文書 1,782 件（1,978 点）で、特に陸軍大学校の講義録・想定問題・答解・戦術書などがまとまって残されており、参謀教育の実態を知る上で重要である。

長野県は満蒙開拓団の最大の送り出し県であったことから、長野県開拓自興会を中心に記録の収集整理が続けられてきたが、長野県開拓自興会からの寄贈資料約 400 点、第一八洲会からの寄贈資料約 36 点、長野県社会部厚生課から 1998 年に移管された資料約 200 点が整理されて、簡易目録の『旧満蒙開拓団関係資料目録』が編まれ、館内で利用できる。地域・開拓団別の開拓史や手記・日記などの刊本が中心であるが、自興会からはその後も寄贈が継続されている。

また、信濃海外協会の資料 104 冊、信濃海外移住組合の資料 203 冊が整理され、簿冊の簡易目録『海外移民史料目録』も編まれ、館内で利用できる。これらには非公開のものもあるが（非公開分の目録あり）、ブラジル、満州、朝鮮関連の文書などが含まれる。なお、戦後の移民関連として、同じ目録に長野県交際交流推進協会寄贈の図書・文書も収録されている。

なお同館では、『研究紀要』に加えて、『戦時下の子どもたち—信州の 15 年戦争』（2006 年）といった企画展の図録なども刊行している。

松本市文書館

〒390-1242 長野県松本市大字和田 1058-2

電話：0263-47-0040

<http://www.city.matsumoto.nagano.jp/tiiki/sisetu/kyoiku/bunsyokan/index.html>

『松本市史』の編さん事業の中で収集された資料や、各支所・出張所に保管されていた旧役場文書、旧公図などの文書資料などの収集、保存、利用のために 1998 年に設置された。市町村レベルの文書館として国内には数少ないものの一つで、旧役場文書約 74,000 点、寄贈・寄託文書約 45,000 点、市域の旧公図、写真、資料（70,000 点）等を収蔵する。

1953 年の市町村合併（「昭和の大合併」）以前の各町村役場の文書は、簿冊名を地域別、時期別のカード目録で検索できる。この中には兵事、移殖民、在郷軍人会、引揚などの簿冊が含まれるほか、満蒙開拓団から出身村へ宛てた来信の綴りなどが含まれている。また、終戦時に文書の廃棄・焼却を指示した文書も残されており、詳細は小松芳郎「終戦時の文書廃棄」（『信濃』643 号、2003 年 8 月）が参考となる。

寄贈・寄託文書については同館編・刊『文書館史料目録 1～4 集』（1999～2003 年）が編まれている。

同館では『松本市史研究』を継続刊行している。

飯田市歴史研究所

〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼 3145（飯田市役所上郷自治振興センター2/3 階）

電話：0265-53-4670

<http://www.city.iida.nagano.jp/iibr/index.htm>

地域の歴史・文化の研究のために飯田市が 2003 年に設置した。

飯田下伊那に関わる近世・近現代の資料、図書を所蔵するが、全国最多（約 14%）の満

州移民を送り出したのが長野県で、その内の約 4 分の 1 が飯田・下伊那出身者であったことから、同研究所には満州移民関係の資料も収集されている。旧役場の残存文書、下伊那教育会の義勇軍関係文書、村の新聞である「時報」「村報」、地元新聞・視察旅行記・雑誌・図書、日記、手紙、写真、オーラルヒストリーなどである。

「満蒙開拓を語りつぐ会」による帰国者からの聞き書きを集積した同会編『聞き書き報告集 下伊那のなかの満洲』1～5集（2003～2007年）、旧村ごとに発行されていた新聞である『時報』『村報』に掲載された満州移民関連記事を収集した同研究所編『時報・村報にみる「満洲」移民』（2006年）、1920年代から戦後に至るまでの流れの中で満州移民を通して地域の歴史を見直した同研究所編『満州移民－飯田下伊那からのメッセージ』（2007年、現代史料出版）が編まれている。ほかに『飯田市歴史研究所年報』が継続刊行されている。

静岡県

歴史文化情報センター

〒420-0853 静岡市葵区追手町 9-18 静岡中央ビル 7 階

電話 054-221-8228

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/history.html>

『静岡県史』の編さんに際して収集された資料を広く利用に供している施設で、市中心部の県庁横のビルに所在し、現在は静岡県立中央図書館の一組織となっている。

収蔵資料は、古文書・新聞・民俗写真などの紙焼き 16 万点 (240 万枚)、近世文書 3 家 (5,000 点)、県内発行新聞の紙焼き (重新静岡新聞/明治 9 年～明治 17 年、函右日報/明治 12 年～明治 18 年、東海暁鐘新報/明治 14 年～明治 20 年、静岡大務新聞/明治 17 年～明治 25 年、静岡民友新聞/明治 30 年～昭和 16 年、静岡新報/明治 28 年～昭和 16 年、東京日々新聞静岡版/昭和 2 年～昭和 17 年) など、ほかに県内各市町村史、他府県史、研究紀要など約 7,000 点の図書・雑誌資料も閲覧できる。

古文書という分類には近現代の文書資料も含まれており、その中には静岡県海外協会に関わる文書や、特に龍山村、中川根役場、御殿場村、印野村、下河津村の文書などには満蒙開拓に関わる文書が含まれている。ほかに朝鮮通信使などに関わる江戸期の文書もある。

なお、同センターでは、静岡県の公文書の検索・閲覧はともに対象外である。

収蔵資料は、センター内の『資料目録』(近現代は 2 分冊) で所蔵機関・市町村別で検索できるほか、センター内のパソコンから「県史編さん資料管理システム」を利用することで横断的な詳細検索が可能である。この検索では、簿冊名だけでなく個別文書の件名や簡単な資料内容まで含めて検索することができ、また、刊行物や新聞記事は目次や見出しまでたどることができる。このシステムの一部はホームページでも公開されている。

静岡県立中央図書館

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田 53-1

電話 : 054-262-1242

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

1925 年に静岡県立葵文庫として開館し、1970 年に現在地に移転して静岡県立中央図書館となる。蔵書は約 60 万冊で、郷土資料に加えて下記のような文庫を持つ。

「葵文庫 (江戸幕府旧蔵書)」: 幕末の公的機関であった蕃書調所、洋書調所、開成所、昌

平坂学問所、箱館奉行所関係などの旧蔵書の一部で、1868（慶應 4）年の徳川氏の駿府移封とともに静岡に移されたもの。府中学問所（駿府学校）、静岡学問所（静岡学校）、静岡師範学校へと継承された後、1925 年の静岡県立葵文庫の開館にともなって移管された。3,586 冊の中には、押し寄せる近代化・開国の荒波の中で幕府が西洋を研究し、科学技術や学問を吸収しようとした足跡ともいえる洋書 2,325 冊や地図などが含まれている。

「久能文庫」：初代静岡県知事であった関口隆吉が公開図書館の開設を目指して収集した図書、資料。国家の近代化と発展を目指そうとした心意気が伺われる。

これら二つの文庫については、同館ホームページに「デジタルライブラリー」<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/library/> が設けられ、資料の解説とともに検索が可能となっている。

また、「貴重書画像データベース」にある「デジタル葵文庫」<http://digital.tosyokan.pref.shizuoka.jp/aoi/> では、文庫の由来、蔵書の構成と内容、年表などとともに資料の一部をオンラインで閲覧することができる。同データベースでは、ほかに「浮世絵」「古地図」「幕末の参考書」といったテーマでも資料が紹介されており、資料の一部をオンラインで見ることができる。

なお、上記の二つの文庫、外国語の貴重本、古文書は静岡県総合教育センター（〒436-0294 静岡県掛川市富部 456）に収蔵されており、月 1 回設定される閲覧日に原本の閲覧が可能であるが、あらかじめ図書館の調査課一般調査係（電話：054-262-1245）に申し込みが必要である。

静岡大学 附属図書館 静岡本館

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4479

<http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校 の 5 校を統合して、1949 年に発足。附属図書館静岡本館では、1979 年に購入した次の資料を所蔵する。

「国際連盟刊行物資料」：1920 年に設立され 1933 年に日本の脱退で物議を醸した国際連盟の原文書 3,571 点。公式記録、経済、金融、社会、法、委任統治、奴隷取締、政治、運輸交通、軍縮、財政、麻薬取締、文化協力、連盟事務局、一般、レファレンスの 16 部門に分類され、総会の公式記録はほぼ揃っている。館内で簡易目録が利用できる。国立国会図書館が所蔵する国際連盟資料とは相互補完関係にあると言われるが、市販のマイクロフィルム資料も含めた資料全体の中での位置づけは未詳である。

沼津市明治史料館(江原素六記念館)

〒410-0051 静岡県沼津市西熊堂 372-1

電話 055-923-3335

<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/meiji/index.htm>

郷土の偉人である江原素六や静岡徳川藩の藩校沼津兵学校を中心に郷土の近代化の歩みを紹介し、市の歴史に関する史料を収集・保存・調査・研究・展示・公開する施設として、1984年に設立された。

西浦村役場文書などの公文書約 10,000 点、区有文書 17 区分、諸家文書約 40 家分、江原素六関係史料約 8,000 点、沼津兵学校関係人物文書 40 家分、沼津藩士諸家文書 6 家分などを含む文書計約 10 万点に加えて、書籍約 3,500 点、物品約 1,000 点、図書約 30,000 冊、マイクロフィルム約 550 巻、写真約 1 万コマ、映像約 50 巻などを収蔵・保管する（2008年5月現在）。このうち、次のような資料にアジア関連のものが散見される。

「区有文書」：区有文書はかなりの量が収集されているが、残された文書は明治・大正期が中心で時代的なバラツキが大きい。その中で「上石田区」（目録は同館編・刊『沼津市明治史料館史料目録 3 上石田区有文書目録』1990年参照）、「中沢田区」（目録は同館編・刊『沼津市明治史料館史料目録 16 中沢田区有文書目録』1995年参照）、「久連区」（目録は同館編・刊『沼津市明治史料館史料目録 29 久連区有文書目録』2002年参照）の三つには昭和期の文書が多く含まれている。「上石田区」は昭和 11~19 年、「中沢田区」は昭和 6~21 年(特に昭和 19~21 年が多い)、「久連区」は昭和 11~17 年の各種通知などを含み、徴兵、動員、供出、戦時下の生活などを知る上で参考となる。

「岡宮持田家文書」：20 点ほどではあるが、朝鮮警察にかかわる資料が含まれている。目録は同館編・刊『沼津市明治史料館史料目録 7 岡宮持田家・西沢田芹沢家文書目録』（1990年）。

「江原素六関係史料」：徳川家とともに沼津に移住し、沼津兵学校・沼津中学校・麻布中学校の創設などに尽力した後、国会議員、東京基督教青年会(YMCA)理事長として活躍したキリスト者の江原素六(1842~1922)の文書で、同人が YMCA 軍隊慰問使として朝鮮や満州を巡回したり、三一独立運動直後の朝鮮総督府臨時教育調査委員を務めたことから、数は少ないが、三一運動調査記録や判決、書簡などが含まれている。目録は同館編・刊『沼津市明治史料館史料目録 1 江原素六関係史料目録』（1987年）。

「沼津兵学校関係人物文書」：沼津兵学校は静岡に移封された徳川藩が開設した陸軍士官養成学校で、1871(明治 5)年に廃止されたが、卒業生は陸軍教導団・陸軍士官学校に進んで士官となったものが多い。そうした人脈をたどる上で参考となるもので、同館企画展図録『沼津兵学校の群像』（1994年）、同館編・刊『沼津市明治史料館史料目録 18 沼津兵学校関係人物資料目録』（1996年）などが編まれている。

ちなみに同館 3 階には「江原素六コーナー」、4 階には「沼津兵学校コーナー」が設けられて関連の物品などが常設展示されている。なお、「沼津の歴史コーナー」の最後の部分に、南方進出に向けた人材育成のために 1940 年に沼津に開設された「拓南訓練所（のち拓南錬成所）」の簡単な展示があるが、同訓練所に関わる資料はない。

ほかに同館では、企画展の図録として『沼津市域にみる日清・日露戦争』（1990 年）、『昭和の戦争と沼津』（1995 年）、『写真・資料にみる占領期の沼津』（1995 年）、『1931-1945 沼津と戦争』（2005 年）などを刊行している。

愛知県

愛知県公文書館

〒460 - 0001 愛知県名古屋市中区三の丸 2 - 3 - 2 愛知県自治センター7・8階

電話：052 - 954-6025

<http://www.pref.aichi.jp/kobunshokan/>

1979年9月に歴史学者、郷土史研究家等を中心とする人々から「公文書保存体制の確立について」の請願が県議会へ提出され、全会一致で採決された。これを受けて検討が重ねられた結果、1986年7月に愛知県公文書館が開館した。歴史的価値のある公文書等を収集し、整理し、保存するとともに、その活用を図り、学術文化の発展に寄与することを目的とする。

所蔵資料は、「愛知県公文書館所蔵資料検索システム」
<http://asp01.dbcenter.ne.jp/koubunsho/login.asp> から検索が可能である。

●戦前の愛知県庁文書は、愛知県公文書館にはわずかしかなかった。県庁文書は、1938年の県庁舎移転時および戦時中に大量廃棄されている。県庁移転時に廃棄されたものについては、徳川黎明会から下附願いが出され、その多くが下附された。それらが現在、財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所、国文学研究資料館、水産総合研究センター中央水産研究所に受け継がれている。愛知県公文書館では、これら他機関に所蔵されている県庁文書を、マイクロフィルムで撮影し、複製本を作成して利用に供している。いっぽうで戦時中に廃棄された県庁文書は完全に失われた（加藤聖文「愛知県民の喪われた歴史」、『愛知県史のしおり』、愛知県史編さん委員会編『愛知県史 資料編 27 近代4 政治行政4』愛知県、2006年、付属）。昭和期の県庁文書に満州移民関係の資料が含まれている。

●藩庁文書は、明治初期において名古屋藩が作成した文書で、旧尾張藩時代から引き継いだものや廃藩置県以後の記録も含まれている。

●郡役所文書は、1878～1926年まで存在していた郡役所の文書である。郡役所が廃止された後に、県庁に引き継がれた文書と、県事務所に引き継がれた文書がある。

●古文書・私文書は、個人等から寄贈や寄託のあった愛知県に関係のある資料である。

・「名古屋市 加藤家文書」は、元県職員の関係文書である。「愛知県海外協会第一回満州移民事業視察関係資料」（1939年）が含まれている。

・「加藤鐮五郎関係資料」は、愛知県出身の医師で、衆議院議員、のちに衆議院議長も務めた加藤鐮五郎の関係文書である。日記、新聞スクラップ帳、書簡などからなる。戦前・戦後の資料を含む。昭和戦前期の日記の一部が、愛知県史編さん委員会編『愛知県史 資料編 27 近代4 政治行政4』（愛知県、2006年）に翻刻されている。戦前、加藤は中国、満

州、樺太、インドネシアなどを訪問している。

- その他、官報や愛知県公報、新聞類がある。

愛知芸術文化センター 愛知県図書館

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸 1-9-3

電話:052-212-2323 (代表)

<http://www.aichi-pref-library.jp/>

愛知県図書館の前身である愛知図書館は、1959年に愛知県文化会館の一部門として名古屋市栄地区に開館した。その後、蔵書数増加への対応、サービスの向上を目的として新図書館の建設が構想され、1991年4月愛知芸術文化センターを構成する施設のひとつとして愛知県図書館が現在地に開館した。

愛知県図書館は、「県民に開かれた図書館」「資料情報センターとしての図書館」「県内の市町村立図書館へのバックアップを行う図書館」「愛知芸術文化センターの一翼を担う図書館」という4つの基本的性格をもつ。

所蔵資料は、「蔵書検索」<http://www.aichi-pref-library.jp/cgi-bin/Sopcsmin.sh>で検索可能である。

- ・図書の中に、地元の第三師団や愛知県商品陳列館が編集したアジア関連資料が含まれている。

- ・戦前期の新聞については、全国紙の『朝日新聞』（愛知県地方版を含む）『東京日日新聞』『毎日新聞』『読売新聞』、地元紙の『新愛知』『名古屋新聞』『中部日本新聞』（『新愛知』と『名古屋新聞』が1942年に統合。現・『中日新聞』）ほかを、主にマイクロフィルムで所蔵している（「主要新聞所蔵一覧表」<http://www.aichi-pref-library.jp/list/sz/ichiran.pdf>）。

- ・『愛知県公報』（明治20年まで『愛知県布達類聚』）、『愛知県統計書』をマイクロフィルムで所蔵する（「愛知県図書館所蔵マイクロ資料リスト」<http://www.aichi-pref-library.jp/list/sz/micro.pdf>）。

- ・「プランゲ文庫・雑誌コレクション 愛知県の部」をマイクロフィッシュで所蔵する（「プランゲ雑誌コレクション愛知県の部」<http://www.aichi-pref-library.jp/colle/prange.pdf>）。

なお、愛知県下の公共図書館・大学・高等学校・中学校・小学校において所蔵する郷土資料については、刊行目録として、愛知図書館協会編・発行『愛知県郷土資料総合目録』1～4（1964、1973、1987、1997年）がある。

安城市文化センター(安城市中央公民館) 農業資料室(山崎記念室)

〒446-0041 愛知県安城市桜町 17-11

電話：0566-76-1515

http://www.city.anjo.aichi.jp/kakuka/gakushu/bunka_center/sisetu/bunka-center.html

農民教育家・農政家の山崎延吉(1973-1954)に関わる「山崎文庫」を所蔵する。山崎は1901年愛知県立農林学校(のちの愛知県立安城農林高等学校)の初代校長として安城に赴任した。以後安城を拠点に農民・農村教育に尽力した。1929年に三重県鈴鹿に農民道場「神風義塾」を開き、自己の蔵書を中心に「有高恩文庫」を設けた。戦時中に「神風義塾」は閉鎖される。その後「有高恩文庫」は、1955年に安城に建てられた「山崎頌徳館」に収められ、「山崎文庫」となった。それが1981年に安城市文化センターに引き継がれた。

和書1748種2354冊、パンフレット697種915冊、洋書70種106冊、雑誌304種からなる。産業(農業)、社会科学関係図書が多い。1932年に山崎は朝鮮総督府嘱託となったため、朝鮮関係を中心とする東アジア関連資料も含まれている。

刊行目録に安城市教育委員会編・発行『山崎文庫図書目録』(1994年)がある。2006年に安城市歴史博物館で開催された企画展の展示図録『企画展 山崎文庫—日本のデンマークをきずいた山崎延吉の遺品—』も参照。

閲覧は通常、事前に閲覧希望資料を安城市歴史博物館(〒446-0026 愛知県安城市安城市城堀 30 電話：0566-77-6655 <http://www.katch.ne.jp/~anjomuse/>)に申し込み、同博物館で行う。

京都府

京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町 9

電話 075-762-4655

<http://www.library.pref.kyoto.jp/>

1873年に京都府が三条高倉西に開設した集書院が前身といわれる。一般開放をした図書館としては、文部省が1872年に開設した東京の書籍館に次ぎ、公立の公開図書閲覧施設としては最初のものである。その後1898年に京都御苑内博覧会協会東館を借り受け、京都府立図書館が開設された。日露戦後、戦勝を記念して図書館を建設することとなり、1909年現在の岡崎の地に京都府立京都図書館が開館した。2001年建て替え整備により、現在の新府立図書館が開館した。

古い歴史を持つ公共図書館であることから、明治期からのアジア関連の幅広い分野の図書を多数所蔵している。また、明治期から昭和戦後期にかけて出版された小冊子類を合冊した「小冊子合綴集」があり、その中にアジア関連のものも含まれている。

所蔵する図書や雑誌は、京都府立総合資料館の蔵書と合わせて「府立図書館・総合資料館の蔵書検索」<https://www.library.pref.kyoto.jp/Sopcsmin.html>で検索できる。

戦前の京都の地方紙である『京都日出新聞』（その前身である『京都新報』、『京都滋賀新報』、『日出新聞』）、『京都日日新聞』、そして両紙が合併して1942年に誕生した『京都新聞』をマイクロフィルムで所蔵する。また、一部全国紙についても戦前の京都地方版をマイクロフィルムで所蔵する。「主要新聞所蔵一覧 (PDF)」は、ホームページで見られる。その他郷土史関連図書も収蔵している。

国際日本文化研究センター 図書館

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町 3-2

電話：075-335-2066

<http://www.nichibun.ac.jp/lib/index.html>

国際日本文化研究センターは、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究並びに世界の日本研究者に対する研究協力を目的として、1987年に文部省大学共同利用機関として設置された。

図書館では、外国語で書かれた日本関係図書（これを日文研では「外書」と呼んでいる）および日本研究に必要な資料を重点的に収集している。蔵書の内訳は、図書（日本語：約 288,777 冊、外国語：約 131,715 冊）（うち、外書：約 54,769 冊）、雑誌（日本語：約 5,533 タイトル 外国語：約 1,173 タイトル）、映像・音響資料（ビデオ・CD・地図・写真等）である（2008 年 3 月現在）。これらはセンターの「OPAC」<http://tokiwa2.nichibun.ac.jp/index.html> で検索できる。

アジア歴史資料としては、以下のようなものがある。

- ・2005 年に閉鎖された「日中歴史研究センター」の旧蔵図書約 4 万件が寄贈されている。日中戦争関係資料をはじめ、中国に関するさまざまな領域にわたるもので、とくに近現代の地誌・歴史および統計・年鑑が充実している。同センターの OPAC で検索できるものについては利用可能である（コレクション名に「日中旧蔵」と表示される）。これらとは別に日中歴史研究センターから受贈を受けたリストとして「日中歴史研究センター旧蔵書目録」<http://www.nichibun.ac.jp/graphicversion/dbase/nichu.html> も公開されている。
- ・朝鮮総督府・陸地測量部の作成になる植民地時代の朝鮮地図や、「満州国」の地図を所蔵する。
- ・戦前期の中国、「満州」、朝鮮、台湾、樺太、南洋等の「絵葉書（帳）」、「旅行案内」（パンフレット）、「写真帳」・「写真アルバム」等を所蔵する。
- ・「間文庫」は、間宏早稲田大学名誉教授の収集になる、労働関係の図書・文献である。戦前の労働関係資料に満州、中国、朝鮮関係のものも含まれている。刊行目録に国際日本文化研究センター編・発行『間文庫目録』（2006 年）がある。
- ・「海野一隆文庫」は、海野一隆大阪大学名誉教授（中国歴史地理学専攻）の蔵書である。現在、整理作業が進められている。
- ・その他、戦前期の中国、満州、朝鮮、台湾、樺太、東南アジア等に関する図書を所蔵するほか、中国語、ハンガルの資料も所蔵する。

立命館大学 図書館(衣笠図書館・修学館リサーチライブラリー)

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1

電話：075-465-8217

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/index.html>

立命館大学は、1900 年に中川小十郎が「私立京都法政学校」を創立したことに始まる。立命館の校名は、西園寺公望の私塾「立命館」に由来する。現在の衣笠キャンパスは、1965 年から 1981 年にかけて行われた旧広小路キャンパスからの学部移転によって形づくられ、

衣笠図書館は、それに伴い1967年に設置された。蔵書数は、2,686,222冊（2008年3月現在。和漢洋書・各種コレクションを含み、全キャンパス図書館の蔵書数を合わせた冊数）であり、同図書館のHPの「蔵書検索」http://runners.ritsumei.ac.jp/opac/basic_queryからオンライン検索ができる。

衣笠図書館では、「西園寺文庫」や「パリ講和会議資料」などの特別コレクションを所有し、「西園寺家預史料」（非公開）を保管している。

「西園寺文庫」は、1925年に西園寺公望が英・仏書180冊を寄贈したことで創設され、現在、和漢書12,525冊、洋書534冊の他、西園寺自筆書簡、西園寺宛書簡などが所蔵されている。目録として、『立命館大学図書館蔵西園寺文庫目録』がある。また資料の一部はマイクロ化され、「西園寺関係文書」として、衣笠キャンパス内の修学館リサーチライブラリーに収蔵されている。

「パリ講和会議資料」は、第一次大戦後に開催されたパリ講和会議の議事録である。衣笠図書館に原資料93,000枚が所蔵されているが、これらは全てデータベース化されているため、ホームページの「パリ講和会議資料データベース」<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/lib/j/collection/gid-j.html>からの検索および閲覧が可能となっている。

立命館大学 国際平和ミュージアム

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1

電話：075-465-8151

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/>

立命館大学国際平和ミュージアムは、同大学の教学理念である「平和と民主主義」を発展させ、具体化する教育・研究機関として、1992年に設置された。

同ミュージアムでは、物資料や文書資料などの収蔵・展示のみならず、2005年には国際平和メディア資料室を設置し、約30,000冊の図書資料、約800本の映像資料を収蔵し、公開している。このうち、図書資料については、立命館大学の「蔵書検索」http://runners.ritsumei.ac.jp/opac/basic_queryから検索でき、直接、同メディア資料室へ行くことで閲覧できる。

物資料、文書資料については、個人寄贈・寄託のものが多く、「アジア歴史資料」としては、15年戦争期の植民地で発行された軍票や切手、または生活用品など、植民地の軍事・政治・文化にかかわる資料がひろく収蔵されている。資料目録として、『資料目録／立命館大学国際平和ミュージアム編』（立命館大学国際平和ミュージアム 1998-2004）があるが、同書の内容については、ホームページの「Peace Archives 資料目録 DataBase」

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/bunka/db/index.html> および「Peace Archives 資料目録第2集 DataBase」<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/bunka/db2/index.html> から閲覧できる。図書資料以外の物資料、文書資料の閲覧については、一週間前までに同ミュージアムへ問い合わせる必要がある。

なお、ホームページでは「戦時下日本の報道写真 梅本忠男写真集」<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/bunka/umemoto/index.html> で1938年から1946年に至る写真も閲覧できる。

立命館百年史編纂室

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1

電話：075-465-8209

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hyakunen/index-j.html>

立命館百年史編纂室は、『立命館百年史』（通史編1巻・2巻、資料編1巻・2巻を刊行。通史編3巻を編纂準備中）の編纂事業のために設置された機関である。同編纂室では、『立命館百年史』の刊行事業のみならず、立命館に関する公的文書・記録、その他の史資料および写真などを収集・保管している。

特に「アジア歴史資料」としては、「督学報告綴 立命館」や「学徒出陣・学徒動員体験手記」、「昭和14年7月興亜青年勤労報告隊満州派遣学生隊隊員名簿」などの学徒動員・学徒勤労働員に関する資料があり、個人の日記として、「岡本恵夫日記 昭和16年1月1日～24年2月17日」などが保管されている。その他、同戦争期に立命館が設置していた立命館大学東亜研究所に関する資料もあり、『研究所時報』（1号・2号）が保管されている。

同編纂室の収蔵資料の目録類は刊行されていないが、これらの資料は公開されており、同編纂室へ事前に連絡をとることで閲覧できる。

奈良県

奈良県立図書館情報館

〒630-8135 奈良市大安寺西 1-1000

電話：0742-34-2111

<http://www.library.pref.nara.jp/index.html>

1905（明治 38）年 12 月、奈良県会が日露戦争戦捷記念事業として県立図書館建設案を議決、1909 年に奈良県立戦捷記念図書館が奈良公園興福寺境内に開設された。その後、1923 年に奈良県立奈良図書館と改称した。また、1940 年に紀元 2600 年記念事業のひとつとして橿原道場が設置され、その一角に橿原文庫が置かれた。その後、1970 年に橿原文庫は奈良県立橿原図書館として独立した。そして、2005 年 3 月に奈良図書館・橿原図書館は閉館し、11 月に奈良県立図書館情報館が開館した。

奈良県立図書館情報館は、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。図書のほか、奈良県に関する歴史資料として重要な公文書や古文書等も所蔵しており、「蔵書検索」<http://opacsvr01.library.pref.nara.jp/mylimedio/search/search-input.do> および「公文書・古文書・絵図検索」<http://opacsvr02.library.pref.nara.jp/mylimedio/search/search-input.do> で各該当資料が検索できる。公文書については、3階レファレンスカウンターに印刷された目録（年度別）もあり、申し出れば利用することが出来る。

- 「戦争体験文庫」：特色ある資料として「戦争体験文庫」<http://www.library.pref.nara.jp/sentai/gallery.html> がある。「戦争体験文庫」は、満州事変（1931 年）からサンフランシスコ講和条約（1952 年）までの時期の体験に関するもので、「戦争に関わる体験及び当時の社会や生活の様子を記録した図書、雑誌」「当時の教科書など教育関係資料」「当時の日記、葉書、証明書などの実物資料」に分けられる。

全国から寄贈を受けた資料は 5 万点以上に及び、そのうち図書・雑誌約 4 万点が「戦争体験文庫」コーナーで公開されている。定期的にテーマを決めて企画展示も行われている。非図書資料の一部は電子画像化されてホームページ上の「ギャラリー」<http://www.library.pref.nara.jp/sentai/gallery.html> で公開されている。

- 公文書：公文書の受け入れは、1963 年の県庁建て替え時に、明治以来の県庁文書（郡役所文書を含む）の一部が県立奈良図書館に移管されたことに始まる。時期的には奈良県再置以後の明治 20 年代から昭和初期までのものが多い。内容的には、社寺関係が多く、ほかに令達類・往復文書、旧幕関係、町村関係、郡制関係、選挙関係、農会・産業組合関係、銀行関係、鉄道関係、同業組合関係、国宝修理関係、御陵・古墳関係、名所旧跡関係、教

会関係、宗教法人関係などが比較的まとまっている。アジア歴史資料としては、アジア各地からの貴賓や留学生、観光団の来県関係、満州事変・日中戦争関係、満州移民関係のものがある。

- 新聞資料：奈良県の地方新聞を所蔵する。「新聞等所蔵一覧」
<http://www.library.pref.nara.jp/search/shinbun.html>、「奈良県地方新聞所在目録」
<http://www.library.pref.nara.jp/publication/lnewscat/index.html>がある。後者には奈良県における新聞の歴史に関する解説が付されている。

奈良教育大学 学術情報研究センター 教育資料館

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町

電話：0742-27-9297（学術情報研究センター教育資料館事務室）

0742-27-9135（学術情報課）

<http://www.nara-edu.ac.jp/LIB/siryokan.htm>

1888（明治 21）年に奈良県尋常師範学校が創設され、1898 年に奈良県師範学校と改称した。1905 年には奈良県女子師範学校が創設され（奈良県師範学校女子部は廃止）、1943 年に奈良県師範学校及び奈良県女子師範学校が官立に移管されて、合併により奈良師範学校となった。1944 年には奈良県青年師範学校教員養成所及び青年学校教員養成所臨時養成科が官立に移管され、合併により奈良青年師範学校となった。1949 年の国立学校設置法の公布により、奈良師範学校及び奈良青年師範学校を包括して奈良学芸大学が設置され、1966 年に奈良教育大学と改称した。

教育資料館は、学制発足以降における奈良県下の初等中等教育に関する資料を中心として、教育関係資料を収集、整理し、これを展示並びに保管する、また、これらと関連した調査研究を行い、広く教育研究に資することを目的として 1992 年に設置された。

所蔵資料は「教育資料館 資料リスト インデックス」
<http://www.nara-edu.ac.jp/ARCHIVE/DB/arch0.htm> から検索できる。戦前の中国書道に関する教科書、アジアの地図などが含まれている。

奈良女子大学 附属図書館

〒630-8506 奈良市北魚屋西町

電話：0742-20-3303

<http://www.lib.nara-wu.ac.jp/>

1908（明治 41）年に奈良女子高等師範学校が設置され、1949 年国立学校設置法の公布により、同校を母体として奈良女子大学が発足した。

附属図書館の持つ特色あるコレクションに次のようなものがある。

- 「校史関係史料」：奈良女子高等師範学校及び奈良女子大学の歴史に関する一次資料である。「奈良女子大学所蔵校史関係史料目録」<http://www.lib.nara-wu.ac.jp/kousi/mokuroku.html>がある。利用については、利用希望日の1週間以上前に申し込む必要があり、定められた様式がある。詳しくは、「校史関係史料の利用について」<http://www.lib.nara-wu.ac.jp/kousi/userule.html>を参照のこと。刊行目録に『奈良女子大学所蔵校史関係史料目録』（1991年）がある。一部資料は画像化・活字化され、ホームページ上で公開されている。

中国・朝鮮への修学旅行関係資料（文書や、生徒による旅行記）、中国人留学生のための予備教育機関として特設した特別予科に関わる資料、中国・「満州国」・朝鮮・台湾からの外国人留学生関係資料（調査・報告書など）、台湾の中等学校の教員を養成するために台湾総督府が設けた委託生制度に関する資料などが含まれている。

- 「明治教育文庫」：同附属図書館が、第二次大戦の直後、文献が散逸するのを防ぐために蒐集した明治時代の教育に関する資料である。「奈良女子大学附属図書館 明治教育文庫目録」<http://www.lib.nara-wu.ac.jp/mk/>がある。利用については、利用希望日の1週間以上前に申し込む必要があり、定められた様式がある。詳しくは、「貴重図書室の利用について」http://www.lib.nara-wu.ac.jp/kityou/kityou_rule.htmlを参照のこと。

戦前の在満邦人用の教科書、朝鮮や「満州国」、中華民国の教科書が含まれている。

大阪府

大阪府公文書館

〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東 2-1-44

電話：06-6675-5551

<http://www.pref.osaka.jp/archives/>

大阪府が作成・入手した公文書や資料類のうち歴史的・文化的な価値があるものを保存し、広く府民の利用に供する施設である。1985年11月開設。

明治期からの大阪府の公文書・行政刊行物、大阪府会議事録（明治12年～）、大阪府公報（明治21年～）、大阪府統計書（明治7年、明治14年～）、米国戦略爆撃調査団資料（大阪関係。マイクロフィルムによる複製資料）、大蔵省造幣局所蔵資料（マイクロフィルムによる複製資料）、古文書（川中家文書ほか）等を所蔵する。

主な所蔵資料については、ホームページで簡単な紹介がなされている。資料の検索は「大阪府公文書館 所蔵資料検索システム」<http://www.doc.pref.osaka.jp/hx/index.jsp>で行える。

刊行目録に、大阪府公文書館編・発行『大阪府公文書館所蔵 公文書・刊行物目録—明治～昭和22年4月—』（1988年）、『川中家文書目録 近代の部』（1992年）等がある。

戦前期の公文書中の「満州国皇帝陛下奉迎一件（其の一）」（昭和10年）に満州国皇帝の来阪に関わる資料が、また昭和戦前期の「貴賓来往一件」に満州国や中国親日政権、朝鮮、シヤム、フィリピン、マレーほかからの要人、官吏、学生、視察団等の来阪に関わる資料が含まれている。また、戦時期の公文書には、大阪からの満州移民に関わる資料も含まれている。

大阪府立中央図書館

〒577-0011 東大阪市荒本北 57-3

電話 06-6745-0170

<http://www.library.pref.osaka.jp/central/index3.htm>

1904年に大阪図書館が開館し、1906年に大阪府立図書館と改称した。1950年には天王寺分館が開館した。その後1974年に大阪府立図書館の改組がなされ、旧本館は大阪府立中之島図書館に改称、天王寺分館は廃止されて大阪府立夕陽丘図書館が置かれた。1996年に

大阪府立中央図書館が設置され、大阪府立中之島図書館はビジネス支援、大阪資料・古典籍中心の図書館となり、大阪府立夕陽丘図書館は廃止となった（ビジネス支援は2004年より開始）。

蔵書は「大阪府立図書館蔵書検索」http://p-opac.library.pref.osaka.jp/osp_search.htmlで検索できる。刊行目録に『大阪府立図書館蔵書目録』和漢書1～16（1972年）、洋書1～3（1970年）があり、また、館内に冊子体の『大阪府立図書館蔵書 書名目録』『同 著者名目録』『同 分類目録』『同 雑誌目録』が備えられている。

戦前期の中国・満州・朝鮮・台湾・東南アジア等に関わるさまざまな分野の図書や、台湾・満州・朝鮮・中国等に関わる雑誌が所蔵されている。

文庫と特別集書については、「文庫・特別集書一覧」<http://www.library.pref.osaka.jp/lib/collection1.html>に概要と解説が掲載されている。

「大原文庫」は、大原社会問題研究所（現・法政大学大原社会問題研究所）が収集した図書資料である。大原社会問題研究所は、1919年に大原孫三郎によって大阪市天王寺区に創設された。その後、研究所が東京へ移転することとなり、1937年に土地、建物とともにその蔵書が大阪府に譲渡された。戦災により、旧研究所の本館は焼失したが、書庫に収蔵されていたこれら蔵書は災禍を免れた。1950年に大阪府立図書館天王寺分館（後の夕陽丘図書館）が設立され、蔵書を引き継いだ。1996年に中央図書館が新設されると「大原文庫」は中央図書館に移転した。蔵書の内容は、政治、経済、労働、福祉、教育など社会科学に関するものが中心で、その他哲学、歴史、自然科学等も含めて、和漢書約30,000点、洋書約40,000点、計70,000点から成る。戦前期の中国、満州、朝鮮、台湾、東南アジア等に関わる図書や、植民地機関が作成した資料が含まれている。刊行された目録に、『大阪府立図書館天王寺分館古書分類目録（洋書）』第1冊（改訂版）（1958年）、第2冊（A）（1961年）、第2冊（B）（1962年）、『大阪府立図書館天王寺分館蔵大原文庫洋書分類目録』第1～4冊（1967～8年）、『大阪府立図書館天王寺分館蔵大原文庫和漢書分類目録』（1969年）がある。

「塚本文庫」は、塚本勲氏（元大阪外国語大学教授）の寄贈になる朝鮮語関係等の資料コレクション10,680冊である。塚本氏が「朝鮮語大辞典」編纂の過程で収集した、朝鮮語の百科事典から文学まで多岐に渡る図書、逐次刊行物を中心に、日本語、中国語、ロシア語、その他欧米諸語の資料を含む。朝鮮半島ばかりでなく中国や日本で発行された朝鮮語の資料が多く、また1940年代、50年代に朝鮮半島で発行された貴重な資料が多い。内容は歴史、言語、文学関係のほか、思想、社会運動、武道、児童、教科書、韓国・北朝鮮両国および在日朝鮮人関係の雑誌等、幅広い分野に及んでいる。「塚本文庫」の資料は大阪府立図書館蔵書検索、館内OPACで検索できる。ただし館内OPACではハンゲル入力はできない。刊行された目録に、『大阪府立図書館所蔵 塚本文庫目録』1（図書編 著者名の部）、2（図書編 書名の部）、3（図書編 分類の部）、4（逐次刊行物編 書名の部）、5（逐次刊行物編 分類の部）（2002年）がある。

大阪大学 附属図書館 箕面分館（旧大阪外国語大学附属図書館）

〒562-8558 大阪府箕面市栗生間谷東 8-1-1

電話：072-730-5126

<http://minoh.library.osaka-u.ac.jp>

2007年10月に大阪外国語大学と大阪大学が統合した。それにともない、大阪外国語大学外国語学部は大阪大学外国語学部となり、大阪外国語大学附属図書館は大阪大学附属図書館箕面分館となった。

大阪外国語大学の前身は、1921年に大阪の実業家・林蝶子からの寄付金を基に設立された官立の大阪外国語学校である。支那、蒙古、馬來、印度、英、仏、独、露、西の9語部から出発、その後1940年に亜刺比亜語部が新設された。1944年に大阪外事専門学校と改称され、「語部」も「科」に組織替えされた。1945年にはビルマ科が新設された。

戦後、1949年の国立学校設置法の施行により大阪外国語大学となった。キャンパスは、一時期を除いて大阪市天王寺区上本町にあったが、1979年に現在の箕面市栗生間谷に移転した。

アジア諸言語に関わる資料を所蔵する。蔵書は、大阪大学の「OPAC」
<http://opac.library.osaka-u.ac.jp/opac/basic-query?mode=2>で検索できる。

大阪外国語学校・大阪外事専門学校時代の蔵書は「旧分類図書」とされ、戦前期のアジア諸地域の地理、情勢・事情、移民・植民等に関わる資料が含まれている。OPACに未入力の資料もあるが、同図書館にカード目録がある。

個人文庫はホームページの「個人文庫」
<http://minoh.library.osaka-u.ac.jp/catalogue/private/index.html>で概要が紹介されているが、次のものが含まれている。

「石濱文庫」(東洋諸語)：石濱純太郎博士旧蔵の約39,000点に及ぶ東洋学コレクション。モンゴル語・満州語・西夏語・ウイグル語・チベット語等に関する資料が数多く納められ、さらに漢書・殷墟書契関係文献・敦煌学関係文献、洋書では歴史学・言語学を中心とする東洋学文献が威容を誇る。『大阪外国語大学所蔵 石濱文庫目録』(1979年)がある。

「武藤文庫」(インド・パキスタン関係図書)：同大の卒業生の武藤友治(インド学科第一回生)の寄贈によるインド関係図書約1,200冊。『大阪外語大学所蔵 武藤文庫目録』(2000年)がある。

「澤文庫」(インド関係図書)：故・澤英三教授の旧蔵書で、ウルドゥー語・ヒンディー語を中心にペルシア語・ペルシア文学約1,300点。『沢文庫目録』(1984年)がある。

「杉本文庫」(ビルマ語関係図書)：元ビルマ日本人学校長杉本良巳が、1980年から3年間の在職中に蒐集し、後に同大に寄贈したビルマ語・パーリ語及び英文の刊本830冊、貝

葉・手書きの折本 9 点。『杉本文庫目録』（1983 年）がある。

「原田文庫」（ビルマ語関係図書）：原田正春教授の遺族から寄せられた浄財をもとに現地で購入されたビルマ語文献並びに教授の旧蔵書のあわせて 900 冊。『原田文庫目録』（1986 年）がある。

「南十字星文庫」（インドネシア語関係図書）は同校の卒業生である石崎次雄（馬來語部）ほかの同窓会・南十字星会寄贈によるインドネシア関係図書 2,077 冊、雑誌 199 冊。

「相浦文庫」（中国語・中国文学関係図書）：相浦晃教授の旧蔵書で、中国文学関係の図書約 3,500 冊。『大阪外国語大学所蔵 相浦晃文庫目録』（1996 年）がある。

「伊地智文庫」（中国語関係図書）：伊地智善継元学長の旧蔵書で、中国関係の図書約 5,900 冊。『大阪外国語大学所蔵 伊地智善継文庫目録』（2005 年）がある。

また、「大型コレクション」
<http://minoh.library.osaka-u.ac.jp/catalogue/collection/index.html> として、チュルク系諸言語、オスマン帝国期の言語・歴史、中央アジア・西アジアの諸言語・文化に関する文献からなる「チュルク系諸言語コレクション」（2,750 冊）、1940～1970 年代に出版されたインドネシア政治資料を主体とする「インドネシア現代史政治資料集成」（1,757 冊）などがある。そのほか「ヤンゴン大学中央図書館寄贈資料」ももつ。

大阪市立大学 学術情報総合センター

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

電話：06-6605-3240（図書部門）

<http://www.media.osaka-cu.ac.jp/>

1880 年に五代友厚をはじめとする大阪財界有力者によって創設された大阪商業講習所が、1889 年に市立大阪商業学校、1901 年に市立大阪高等商業学校、1928 年に大阪商科大学へと発展を遂げた。そして戦後の 1949 年、大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校が統合して大阪市立大学が発足した。1996 年に附属図書館と計算センターを統合した学術情報総合センターが設立された。

戦前に満鉄・満州国・台湾総督府・朝鮮総督府などの植民地機関、外務省・拓務省・陸軍・海軍などの中央機関、大阪府・大阪市・大阪商工会議所などの地元機関、大連商工会議所・上海日本商工会議所・京城商工会議所などの海外経済団体等が作成した中国・満州・台湾・朝鮮・東南アジア等に関わる資料を所蔵する。

また以下のようなコレクションを持ち、その中にアジア関連の資料も含まれている。

「福田文庫」（44,841 冊）：元東京商科大学教授の福田徳三博士の全蔵書。各国の経済学、商業学に関する図書が体系的に整備されている。その他あらゆる社会科学の分野にわた

る図書を多数含んでいる。

「新村文庫」（7,579冊）：元京都大学教授で『広辞苑』編者の新村出博士の蔵書の一部。言語学、国語、国文学関係の文献が中心。歴史、言語、文学関係図書の中に中国、満州、朝鮮、東南アジア関連のものが含まれている。『大阪市立大学附属図書館所蔵 新村文庫目録』（1978年）がある。

「森文庫（12,266冊）」：大阪の実業家・森繁夫氏の蔵書の大部分。日本近世人の伝記に関する文献を中心に、国文、地誌、歴史関係の図書を多数含む。歴史・伝記・地誌・文学書の中に中国関係の図書が含まれている。『大阪市立大学附属図書館所蔵 森文庫目録』上巻（1979年）・下巻（1981年）がある。

「内藤文庫（5,892冊）」：元京都大学教授の内藤湖南博士の蔵書の一部。中国古代史、史学、仏教に関する漢籍が大部分である。

「関文庫（3,363冊）」：元大阪市長の関一氏の蔵書。都市行政、都市問題、都市政策に関する資料を含む。戦前の中国、「満州」、朝鮮・朝鮮人関係の資料が含まれている。『関文庫目録』（大阪商科大学、1935年）がある。

「小島文庫（9,918冊）」：国文学者小島憲之博士（同学名誉教授）の全蔵書。上代日本文学を中心に広く国文学、中国文学全般に及んでいる。

「大阪市史編纂資料（大阪市役所寄贈）」：『明治大正大阪市史』編纂事業が1935年に完了したときに、編さんに使用した史料が大阪商科大学経済研究所に移管されたもの。日清貿易株式会社設立関係書綴（明治26～29年）や、大阪港の貿易に関わる資料が含まれている。

これらの文庫やコレクションは「OPAC」
<https://opac.media.osaka-cu.ac.jp/webopac/catsrd.do?system=1211937732212>から検索できる。

大阪市立大学 大学史資料室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 学術情報総合センター6階

電話：06-6605-3371

<http://www.osaka-cu.ac.jp/faculties/archives/auh/index.htm>

1980年に大阪商業講習所の設立から100周年を記念する事業がおこなわれ、その一環として『大阪市立大学百年史』全2巻4冊（部局編1983年、全学編1987年）の編纂が行われた。その過程で収集された史料の散逸を防ぎ、その利用をはかるとともに、将来の大学史編集に備え恒常的に資料の収集・整理・保管をおこなうため、1988年に大阪市立大学史料室が設置され、1991年に大阪市立大学大学史資料室に改組された。2007年3月には大

阪市立大学 125 年史編纂委員会編『大阪市立大学 101~125 年—第 2 世紀への出発：1981~2005 年』、同編『大阪市立大学の 125 年—1880~2005 年』の 2 冊の 125 年周年記念史が刊行されている。

大阪市立大学関係のほか、その前身である大阪商科大学関係、大阪市立都島工業専門学校関係、大阪市立女子専門学校関係、大阪市立医科大学関係の資料を持つ。ほかに卒業生から提供された写真・絵葉書、戦時中の日の丸の寄せ書きなども含まれる。

また、大阪商科大学教授、のち立命館総長の末川博（民法学者）の関係資料を持つ。日記、書簡、書類からなる。戦前の資料に満州やフィリピン関係のものも含まれ、全体として末川の思想的研究上で重要な資料である。戦後の資料には中国関係、北朝鮮関係、ベトナム戦争関係のものが含まれている。大学史資料室編『大阪市立大学大学史資料室蔵 末川博関係資料目録』（2001 年）がある。

所蔵資料の閲覧等には、大学史資料室長の許可が必要である。

大阪市立大学 恒藤記念室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 学術情報総合センター6 階
電話：06-6605-3371

恒藤記念室は、大阪商科大学学長、大阪市立大学初代学長の恒藤恭（1888-1967）の功績を顕彰するため、1971 年に旧附属図書館に設置された。その後 1996 年に学術情報総合センターに移設され、現在は大学史資料室と共用されている。

恒藤は日本の法哲学の確立に大きく貢献し、また、京大滝川事件では学問の自由のために戦った法学者である。収蔵資料は著作、日記、講義ノート、スケッチブックなどからなり、スクラップブックには戦中の日本人の対アジア政策・アジア観に関する新聞記事などが含まれている。それらの資料を整理して『大阪市立大学恒藤記念室所蔵資料目録』（学術情報総合センター、2002 年）が編まれ、一高時代の日記がが大学史資料室編『向陵記—恒藤恭一高時代の日記』（2003 年）として翻刻されている。

所蔵資料の閲覧等には、学術情報総合センター所長の許可が必要である。

大阪市立大学 都市研究プラザ

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
電話：06-6605-2071

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/index.html>

1928年に市立大阪高等商業学校が大阪商科大学に昇格した際、卒業生で野村證券創設者の野村徳七の寄付によって経済研究所が設置された。その後身である大阪市立大学経済研究所は2003年に廃止され、その図書資料は「経済研究所文庫」として、都市研究プラザに引き継がれている。

戦前の経済関係資料を所蔵する。大阪商科大学経済研究所時代に『経済学文献大鑑』第1～4巻（1934～1939年）、『経済資料総覧 自昭和3年1月至昭和12年12月』（1940年）が編纂されている（いずれも1977年に文生書院から復刻されている,）。

「経済研究所文庫」の資料は、大阪市立大学学術情報総合センターの「OPAC」
<https://opac.media.osaka-cu.ac.jp/webopac/topmnu.do?system=1213876549522>

で検索すると、「所蔵館：経研、配置場所：経研(書庫)」と表示される。学外からの利用は原則として、学術情報総合センターを通じて行う。

兵庫県

<神戸市>

神戸市文書館

〒651-0056 神戸市中央区熊内町 1-8-21

電話：078-232-3437

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/06/014/top.html>

『新修神戸市史』編さんのために収集された資料を中心に、神戸市域に関する歴史的・文化的な価値のある文書や資料などを保存し、公開している。

「古文書」「神戸市行政資料」「新聞」「図書・文献類」といった資料群を収蔵しており、ホームページの「収蔵資料のあらまし」
<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/06/014/shiryou/shiryou.html> から全体の概要と各文書の詳細説明を閲覧できる。

●古文書

「水渡英二家文書」：約 1,000 点の文書の中に、明治以降に同家が所有した小蒸気船の鷹丸と飛鶴丸に関する文書約 90 点が含まれる。日露戦争期の明治 36～39 年における陸軍運輸部からの通知・出頭命令、乗組員からの釜山・仁川着港の通知などで、当時の軍事輸送との関わりが伺える。簡易目録がある。

「柴田剛中文書」：幕末の兵庫開港にあたった外国奉行兼兵庫奉行・大坂町奉行の柴田剛中に関する資料 188 点。『公私日載』と題する日記のほか、海防や外交に関する諸記録、古地図、肖像写真などが含まれる。

「畠山一郎文書」：イギリスの貿易商社サミュエル・サミュエル商会に勤めていた畠山一郎旧蔵の文書 68 点。明治後年から昭和初年にかけてのもので、兵庫県から同商会へ交付された肥料輸入営業許可証・同商会通信状などが含まれる。

「日本燐寸工業会所蔵文書」：明治から昭和にかけて主要な輸出品となり、国内最大の生産を誇った神戸のマッチ産業の歴史に関わる資料で、別項の社団法人日本燐寸工業会が所蔵する文書の複写。(1) 1870～1935 年間の神戸のマッチ産業の歴史を編年体で綴った『燐寸年史』(謄写版草稿)、(2) GHQ へ提出された『日本燐寸工業の過去及現在』(1948 年、和英両文)、(3) 神戸のマッチ産業界之有力者であった直木政之介の経営関係資料、(4) 日本燐寸工業組合員の連盟による抗議書『燐寸工業統制に関する大資本(日本産業、久原、鮎川系)の横暴を摘発す』(1936 年) などの刊行物、(5) 加藤通文による『朝鮮市場視察報告書』(1937 年)、『朝鮮燐寸同業組合創立総会ノ総括的報告』(1938 年) などが含まれる。

ほかに、米国立公文書館の資料を複写した「神戸空襲関係文書」、神戸市立中央図書館の資料を複写した「神戸開港（居留地）関係資料」「兵庫裁判所文書」も閲覧できる。

●神戸市行政資料

神戸市事務報告書、神戸市公報（1941～45年は神戸市民時報）、統計、神戸市会議事録などがある。

●新聞・雑誌

神戸に関わる新聞（神戸新報・神戸又新日報・神戸日報など）、英字新聞（The Hiogo and Osaka Herald、The Hiogo News、The Hiogo Shipping List、The Kobe Chronicle、など）、神戸に関わる明治～昭和初期の雑誌などが原本や複写で集積されている。

神戸市立博物館

〒650-0034 神戸市中央区京町 24

電話：078-391-0035

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/museum/main.html>

神戸市立南蛮美術館と考古館を統合して 1982 年に開館。1935 年に竣工した旧横浜正金銀行神戸支店のビルを増改修して使用している。「国際文化交流、東西文化の接触と変容」を基本テーマとして、東アジアとの交流を中心にした原始・古代・中世と、欧米との交流に重点をおいた近世・近代の諸相（特に神戸開港と居留地関連）を常設展示し、企画展や特別展も開催している。

収蔵品は、国宝 1 件 21 点、重要文化財 7 件 76 点を含む約 40,000 点で、国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈群をはじめとする「考古・歴史資料」、神戸の資産家であった池長孟が収集した南蛮紅毛美術や開化錦絵などを中心とする「美術資料（約 7,500 点）」、南波松太郎・秋岡武次郎が収集したコレクションを中心とする全国一の質と量を誇る「古地図資料（約 8,500 点）」の 3 分野に大別される。このうちの特に重要な約 100 件はホームページの「名品撰」<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/museum/meihin/index.html> で画像をオンラインで鑑賞できる。

●池長孟コレクション

南蛮美術などの近世の東西交渉史に関わる美術コレクションとして著名で、その主要なものは、『南蛮美術コレクション』（1998 年）、『南蛮堂コレクションと池長孟』（2003 年）などに収録されている。「長崎版画」には中国、オランダ、ロシア、朝鮮の人々の姿が描かれたものがあり、目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部 2』（1985 年）がある。

池長孟コレクションには、こうした美術品以外に、次のような文書も含まれている。

「川村家文書」：御庭番から勘定吟味役、新潟奉行などを歴任した川村修就（1795～1878

年))が作成収集した文書や絵図で、下田・浦賀御固関連 58 件、大坂御固関連 43 件、長崎御固関連 68 件からなる。目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部 9』(1992 年)。

「村上家文書」：オランダ商館長が江戸参府の際に京都の定宿とした「阿蘭陀宿」の日記など 14 件。目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部 9』(1992 年)。

「川島家文書」：オランダ人に日用品を売り込む「諸色売込人(コンプラ)」関係資料 34 件。目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部 9』(1992 年)。

「村上家文書」：長崎で貿易・両替・銀貸を営んだ村上家の長崎貿易関係を中心とする資料 231 件。目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部 11』(1994 年)。

「林子平関係資料」：12 件。目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部 12』(1996 年)。

「本木家文書」：長崎でオランダとの通訳兼商務官の役割を担った「阿蘭陀通詞」であった本木家の邦文資料文書 67 件および欧文資料 131 件。目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部 13』(1997 年)。

●古地図資料

南波松太郎のコレクション約 4,000 点のなかに、世界図、中国地図、朝鮮地図、蝦夷樺太地図、都市図などが約 500 点含まれる。目録は『神戸市立博物館館蔵品目録 地図の部 1』(1984 年) および『同 地図の部 5』(1988 年)がある。また、秋岡武次郎のコレクションにも世界図などが含まれる。『同 地図の部 8』(1991 年)参照。

●その他

神戸に関わる写真・絵葉書を所蔵し、目録として『神戸市立博物館館蔵品目録 考古・歴史の部 6』(1989 年)、『同 考古・歴史の部 8』(1991 年)、『同 考古・歴史の部 13』(1997 年)、『同 考古・歴史の部 15』(1999 年)が編まれている。

孫文記念館(移情閣)

〒655-0047 神戸市垂水区東舞子町 2051

電話：078-783-7172

<http://www.sonbun.or.jp/>

中国の革命家・思想家である孫文(号は中山、又は逸仙、1866～1925 年)を顕彰する日本で唯一の施設。

建物は神戸で活躍した中国人実業家・呉錦堂(1855～1926 年)の別荘「松海別荘」を前身とし、1915 年、八角三層の楼閣「移情閣」が隣接して建てられた。「松海別荘」は、孫文が 1913 年に来神した際の歓迎昼食会場になったが現存していない。「移情閣」は 1983 年、神戸華僑総会から兵庫県が寄贈を受け、改修後の 1984 年に「孫中山記念館」として開館した。管理は財団法人孫中山記念会。2001 年、国の重要文化財指定を受け、2005

年には「孫文記念館」と改称された。

日本と孫文、神戸と孫文の関わりを中心に、呉錦堂の生涯や移情閣の変遷などについての展示が行われている。所蔵資料・文献については、ホームページの「資料室」http://www.sonbun.or.jp/japanese/i_syupan.htm に置かれた検索システムからオンライン検索が可能である（ただし文献・資料の閲覧には事前連絡が必要）。

社団法人日本燐寸工業会・協同組合日本マッチラテラル

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 5-5-12

電話：078-341-4841

<http://www.match.or.jp/jmma/index.html>

現在の国内マッチ生産の約8割が姫路地域に集中して兵庫県の地場産業となっているが、かつて神戸は国内最大のマッチ生産地であり、明治期後半から大正期にかけて最盛期には8割近くを輸出するほどであった。神戸港を拠点に華商などが仲介し、中国、東南アジア、インド、欧州、豪州、アメリカなどに向けてマッチは日本の代表的な輸出品の一つとなっていたのである。また、朝鮮や満州などでもマッチ製造と販売に深く関与していた。

そうした生産・輸出業者を束ねて、1898年には兵庫県燐寸同業組合が発足し、1905年に日本燐寸同業組合、1911年に日本燐寸同業組合联合会、1926年に日本燐寸工業組合、1942年に日本燐寸統制株式会社となっていくが、敗戦を経た1947年に分割されて日本燐寸会議所となり、これを改組して1949年に社団法人日本燐寸工業会が設立される。この経緯から、同工業会には戦前期の燐寸工業に関わる資料が継承されている。

一つの資料群は文書資料である。(1) 1870～1935年の神戸のマッチ産業の歴史を編年体で綴った『燐寸年史』（謄写版草稿、1997年に全文翻刻版が同工業会より刊行されている）、(2)『燐寸組合史』（謄写版草稿）、(3)GHQへ提出された『日本燐寸工業の過去と現在』（1948年、和英両文）、(4)神戸のマッチ産業界の有力者であった直木政之介の経営関係資料、(5)日本燐寸工業組合員の連名による抗議書『燐寸工業統制に関する大資本(日本産業、久原、鮎川系)の横暴を摘発す』（1936年）などの刊行物、(6)後に保証責任朝鮮燐寸工業組合を設立して専務理事となった加藤通文の『朝鮮市場視察報告書』（1937年）、『朝鮮燐寸同業組合創立総会ノ総括的報告』（1938年）、(7)保証責任朝鮮燐寸工業組合の1939～1941年の文書原本綴り「朝鮮の燐寸」2巻などが保管されており、閲覧が可能である。このうち(1)(3)(4)(5)(6)については別項の神戸市文書館でコピー本を閲覧することも可能である。

もう一つの資料群はマッチラベル（燐票）のコレクションで、輸出先にあわせた意匠の中に当時の「世界認識」や「国際感覚」、「外地のイメージ」や「日本の対外イメージ」が伺えて興味深い。同工業会では、その代表的なコレクションといわれる「蘭溪文庫」をも

つ。日本燐枝錦集会の重鎮会員であった古屋蘭溪が蒐集したもので、明治から昭和初期を中心とする数万点の燐票に加えて、貼込帳（明治 10～30 年代の燐票を図象別に分類整理した「蘭溪集」が有名）や文献などからなる。このコレクションの一部は、同工業会と協同組合日本マッチラテラル（旧日本燐寸協同組合）が運営するバーチャルミュージアム「マッチの世界」<http://www.match.or.jp/>で常設展示されており、オンラインで鑑賞することができる。

なお、マッチラベルの収集では、ギネスブックに登録された故古澤貞一のコレクション（約 70 万点）が有名であるが、このバーチャルミュージアムを監修したコレクターの加藤豊が運営する「古燐票博覧会」<http://www.tenkey.co.jp/zoom/MatchLabels/>や、明治期からのマッチの現物を継承・公開している「燐寸博物館（田中燐寸株式会社）」<http://www.tanaka-match.co.jp/>といったサイトでも、オンラインで鑑賞できる。

マッチ工業の歴史は同工業会のホームページに詳細年表があるほか、佐藤正光編『国産マッチ 130 年の歩み』（日本燐寸工業会、2005 年）が編まれている。

<姫路市>

兵庫県立歴史博物館

〒670-0012 兵庫県姫路市本町 68

電話：079-288-9011

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/index.html>

1983 年に開館し、2007 年にリニューアル・オープンした。

30 万点を越える収蔵品をもち、データベース化が進行中で、館内のパソコン端末で一部の画像を検索できるが、次のようなコレクションを持つ。

「王敬祥文書」：孫文を支持して様々な支援を行った神戸華商の王敬祥に関わりのある文書 161 件が寄贈されたもので、孫文の書簡、南京臨時政府の公文書などが含まれる。この文書群については、別項の神戸華僑歴史博物館と神戸大学で共同研究が行われ、神戸大学附属図書館デジタル・アーカイブの「学内研究成果」の「王敬祥関係文書」<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/products/okeisho/index.html>で解題、年表などとともに文書の画像と翻刻がオンライン公開されている。

「萱嶋コレクション」：萱嶋栄・節三父子の収集したもので、絵葉書・写真・観光資料などからなる。絵葉書・写真には、樺太・台湾・朝鮮・南洋・満州に関わるものが計 1,142 枚含まれ、軍隊関係のものも 163 枚含まれる。また、観光資料は実際に現地を訪問した際に収集されたと見られるものが中心で、満州・朝鮮・台湾関連のものが約 120 点含まれている。目録は兵庫県立歴史博物館編刊『収蔵資料目録 10 萱嶋コレクション』（2002 年）が

ある。

「高橋秀吉コレクション」：姫路で小学校教員などを務めた高橋秀吉のコレクションで、姫路に関わる大量の古写真が含まれている。目録に兵庫県立歴史博物館編刊『収蔵資料目録 4 高橋秀吉コレクション 古写真 I』『同 古写真 II』（1988年）があるが、『同 古写真 II』の中に姫路の戦時下から戦後復興に至る街の様相を写したものが含まれている。

「入江コレクション」：実業の傍ら入江児童文化史研究所を主宰した入江正彦が収集した玩具・書籍・生活用品など約11万点で、こどもが置かれた時代環境の変遷を辿る大コレクション。日清・日露戦争当時や第2次世界大戦下の資料も多く含まれ、一部は館内2階の「こどもはくぶつかん」に常設展示されている。このコレクションをもとにした特別展が開催され、図録として兵庫県立歴史博物館編刊『新世紀こども大博覧会』（2003年）および兵庫県立歴史博物館編『図説 いま・むかし おもちゃ大博覧会』（河出書房新社、2004年）、目録として兵庫県立歴史博物館編刊『収蔵資料目録 11 入江コレクション 絵双六』（2006年）が編まれている。

姫路市平和資料館

〒670-0971 姫路市西延末 475（手柄山山上）

電話：079-291-2525

<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiryo/>

戦争の惨禍と平和の尊さを後世に伝え、平和な社会の発展に寄与するため、空襲に視点を置いた資料館として設立され、太平洋戦争での姫路空襲の様子が展示されている。市民から寄贈された戦争関連資料を収蔵するとともに、戦争体験者の姫路空襲体験談などの講話が行われている。

岡山県

岡山県立記録資料館

〒700-0807 岡山県岡山市南方二丁目 13-1

電話：086-222-7838

<http://archives.pref.okayama.jp/index.html>

2005年に開館した。1980年代から収集・保存されてきた公文書・古文書と、県史編纂事業で収集された資料を公開している。

所蔵資料総数は219,000点で、その内訳は、公文書63,500冊、古文書124,230点、複製資料31,270点である。公文書は、戦前の資料のほとんどを1945年の空襲で焼失しているため、戦後のもので占められている。ホームページ上の「所蔵資料の検索」<http://archives.pref.okayama.jp/infolib/search/index.html>で検索可能である。

地元紙の山陽新聞の前身である「山陽新報」「中国民報」「合同新聞」の戦前のものを複製資料として所蔵する。

アジア歴史資料を含む個人文書として、以下のものが挙げられる。

- ・「記録資料館所蔵勝山藩家老九津見家資料」：勝山藩家老であった九津見家により寄贈された、寛永13年～昭和30年代までの資料1464件。中に「海軍省提供 大東亜戦争 ハワイ大空襲実況」などが見られる。
- ・「記録資料館所蔵御津郡石井村高塚家資料」：明治時代に岡山県第二部兵事掛に勤めていた高塚松太郎の資料55件。第17師団関係資料がある。
- ・「記録資料館所蔵笠岡市鎌田家資料」：本溪湖市からの引揚関係資料など30件。
- ・「記録資料館所蔵国府氏寄贈資料」：大連市からの引揚関係資料10件。

岡山県立図書館

〒700-0823 岡山県岡山市丸の内 2-6-30

電話：086-224-1288

<http://www.libnet.pref.okayama.jp/>

日露戦争終結の翌年にあたる1906年、県立戦捷記念図書館として開館し、1923年県立図書館と改称した。1945年6月岡山空襲のため建物・蔵書ともに焼失した。1947年、仮館舎にて再開する。1950年3月には県視聴覚ライブラリーが落成した。同年12月にはCIE（民間情報教育局）図書館が開館し、1953年に日米文化センターと改称する。1957年、これら県立図書館、視聴覚ライブラリー、日米文化センターをあわせて岡山県総合文化セン

ターと改称した。2004年、公文書を管理し、閲覧に供する記録資料館と機能を分かち、再び県立図書館として新館が開館した。

蔵書数は約84万冊で、刊行物が中心である。「蔵書検索システム」http://opac.libnet.pref.okayama.jp/OKALIB/servlet/search.inp_condで検索可能である。

1945年6月の岡山空襲により、それ以前の資料は焼失した。ただし、疎開していた貴重資料等2,700冊は戦火を免れており、これらは上記検索システムで検索できる。また、貴重資料のデジタル化も進められており、古絵図、古地図や和装本などの画像を「デジタル岡山大百科」<http://www.libnet.pref.okayama.jp/mmhp/index.html>で閲覧できる。

2006年にはプランゲ文庫の岡山県関係分も収集されており、マイクロリーダーで閲覧できる。

岡山県立博物館

〒703-8257 岡山県岡山市後楽園1-5

電話：086-272-1149

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

1971年開館。館蔵資料は約12,000件（考古資料約600点、美術・工芸品約1,100件、文書約4,200件、民俗資料約6,200点）。実物資料が中心。文書史料には「閑谷学校関係資料」などが含まれる。これらの館蔵は「岡山県立博物館デジタルミュージアム」<http://kenhaku.pref.okayama.jp/>で検索することが可能である。一部は画像もある。

岡山大学 附属図書館 中央館

〒700-8530 岡山県岡山市津島中3-1-1

電話：086-251-7318

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp>

岡山大学は、岡山医科大学・第六高等学校・岡山師範学校・岡山青年師範学校・岡山農業専門学校を母体として1949年に新制大学として創設された。附属図書館は第六高等学校図書室を母体として発足し、1950年に開館した。

中央館の蔵書数は約160万冊（和漢書1,111,582冊 洋書489,009冊）で、「OPAC」で検索可能である。なお、図書館電算化以前の蔵書でまだOPACで検索できない図書については、館内にカード目録「中央館旧目録」「法文学部旧目録」「教育学部旧目録」ほかがある。

特殊文庫には、藩政資料である「池田家文庫」「三浦家文庫」や、18家から寄贈を受けた地方資料、および六高関係者などの寄贈による個人文庫など貴重な資料があるが、いずれも近世史料が中心である。

アジア関係資料としては、主に1930～40年代に発行された関連出版物を確認することができる。

岡山大学 附属図書館 資源生物科学研究所分館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-20-1

電話 : 086-434-1204

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/library/index-j.htm>

1914年、倉敷紡績株式会社（現クラボウ）の第二代社長であった大原孫三郎により、財団法人大原奨農会農業研究所が創設され、1921年、農業図書館が設置される。1952年、研究所は岡山大学へ移管され、岡山大学農学部附属大原農業研究所となった。さらに1953年には大学附置研究所となり、岡山大学農業生物研究所の名称で農学の基礎研究を行うこととなる。1988年に岡山大学資源生物科学研究所に改組された。

岡山大学附属図書館資源生物科学研究所分館は、農業研究所農業図書館の蔵書を引き継いでいる。蔵書数は、約18万冊（和書 約9万冊、洋書 約9万冊）で、所蔵雑誌は約1万タイトルである。

1989年以降受け入れ分および遡及作業分については「OPAC」
<http://webcat.lib.okayama-u.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do?mode=simp&nqid=1>で検索可能である。

・「大原漢籍文庫」：1923年に中国において収集された、明清時代を中心とした農業に関する書籍、4834冊。冊子目録のほか、ホームページ上の「大原漢籍文庫目録」
<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/library/kanseki.htm> でタイトルと請求番号を確認できる。

・「大原農書文庫」：1921～23年頃を中心に購入された農業に関する和装本で、出版年は明治後期から大正期までをカバーしている。782点、2576冊。冊子目録があるほか、ホームページ上の「大原農書文庫目録」
<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/library/noshomokuroku.htm> でタイトルと請求番号を確認できる。

以上の特殊文庫のほか歴代教員および研究員の寄贈集書や購入コレクション（「板野新夫寄贈集書」「近藤万太郎寄贈集書」「西門義一寄贈集書」「土屋孝寄贈集書」「石原一直集書」「間野集書」「桑山覚文庫」）があり、そのなかに朝鮮総督府や台湾総督府などによる農業・水産・気象関連の雑誌および満州開拓関係資料が多数含まれている。これらは、OPACのキーワードで、「朝鮮」「台湾」「満州」「南洋」「東亜」「開拓」などで検索可能であるが、

未入力である蔵書群にこうした資料が多い。したがって、冊子目録『岡山大学農業生物研究所図書館 和文雑誌目録』（1977年）ほか、カード目録での確認が必要である。

犬養木堂記念館

〒701-0161 岡山県岡山市川入 102-1

電話：086-292-1820

<http://www.maroon.dti.ne.jp/inukai.bokudo/>

明治～昭和前期の政党政治家、首相の犬養毅（号：木堂、1855-1932）を顕彰するための施設である。1976年、犬養家により木堂生家および敷地が岡山県に寄付された。その後1977年に岡山県史跡に指定され、翌1978年母屋および土蔵が国重要文化財に指定された。1993年、木堂生家に隣接して記念館が開設された。現在は財団法人岡山県郷土文化財団が管理している。

所蔵資料は、犬養家より寄贈および寄託を受けた資料、また『犬養木堂伝』の著者である鷲尾義直によって収集、その後遺族より寄贈された関係資料等の計7,500点である。貴重な書簡資料が多く、アジア歴史資料としては、中国の革命家・孫文や、朝鮮の政治家・朴泳孝からの書簡がある。そのほか犬養の中国旅行関係資料、また刊行物としては『木堂雑誌』を所蔵している。冊子目録はなく、タイトル確認は館内のみで可能であるため、事前の問い合わせが必要である。

金光図書館

〒719-0111 岡山県浅口市金光町大谷 320

電話 0865-42-2054

<http://www.konkokyo.or.jp/konko-library/>

金光図書館は、金光教の公益事業として、1943年に創立され、1947年5月に開館した。蔵書は約23万冊。点字図書館としての役割も持ち、点字図書約1万6000冊を所蔵している。これら蔵書は冊子目録『金光図書館所蔵 金光教図書目録 昭和58年12月末現在』（1985年）で検索できるほか、全資料の4割は「蔵書検索」<http://www.konko-library.jp/>でオンライン検索が可能である。私立図書館であるが、利用は一般に公開されている。

金光教教団は書物の収集を重視し、明治末期から各地の教会で文庫が設立された。1943年創立時には、これらの各教会蔵書および信者の蔵書提供により初期のコレクションを形成していた。また空襲の影響も少なかったために、幅広い分野の戦前の貴重資料、特に近

世の暦・戦前の雑誌・教科書・特殊新聞資料などを豊富に所蔵している。

所蔵和書・漢籍の一部は、「和装本所蔵一覧」
<http://www.konkokyo.or.jp/konko-library/cont/database/wasyo/wakosyomain.htm> で検索
 できる。

所蔵雑誌の目録はほとんど入力を終えており、「所蔵雑誌一覧」
<http://www.konkokyo.or.jp/konko-library/cont/database/zassi/zassi.htm> で検索できる。

『大八洲学会雑誌』、『東亜之光』、『東洋史講座』（国史講習会）、『亜東』、『写真週報』（創刊～1943年）、『蒙古』などが含まれている。

教科書は明治期から収集しており、一部は「所蔵教科書一覧」
<http://www.konkokyo.or.jp/konko-library/cont/database/textbook/textbookmain.htm> で検索
 できる。朝鮮総督府発行の教科書なども所蔵している。

「神徳書院文庫」は、初代教会長佐藤範雄、および二代教会長佐藤一夫の蔵書で、江戸
 末期から昭和初期にかけての和古書を含めた特殊な資料群である。ホームページ上の「神
 徳書院文庫目録」
<http://www.konkokyo.or.jp/konko-library/cont/database/sintoku/sintoku-main.htm> のほ
 か、冊子目録『神徳書院文庫目録』（1988年）で検索が可能である。「日本史」「アジア史」
 「地理・地誌・紀行」などに、アジア歴史資料が多数含まれている。

「青木茂旧蔵資料」は、教団と関係の深かった、青木茂（元神戸学院大教授、江戸～昭
 和初期の経済史）旧蔵資料。館内のみの冊子目録があり、一部はオンライン検索できる。

そのほか、教団が戦前に行なった旧植民地への布教活動に関する資料を所蔵している。

電子目録は更新中であり、資料も未整理のものが少なくない。このため、閲覧したい資
 料について事前に図書館に相談しておくことが望ましい。

広島県

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町 1-6

電話：082-543-6271

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原子爆弾死没者の尊い犠牲を銘記し追悼の意を表すとともに、永遠の平和を祈念し、併せて、原子爆弾の惨禍を全世界の人々に知らせ、その体験を後代に継承するための施設として 2002 年に広島平和記念公園内に設置された。原爆死没者を追悼し、平和について考える場として「平和祈念・死没者追悼空間」を設けるとともに、原爆死没者の氏名と遺影の登録や被爆体験記、追悼記などの収集を行っている。

「体験記閲覧室」では、多くの被爆体験記、被爆証言、記録映像や写真などを自由に閲覧、視聴することができる。被爆体験記には被爆のことを直接知る者のみが書ける真実や心情が綴られており、大変貴重である。また「遺影コーナー」では、大型スクリーンと遺影検索装置により原爆死没者の氏名・遺影を公開している。原爆に関連する図書も多く所蔵しており、「収蔵資料検索装置」で図書資料や映像資料の検索や閲覧ができる。

体験記などを活用した企画展の開催や被爆体験記の朗読会など、被爆体験の継承活動も行われている。

広島平和記念資料館

〒730-0811 広島市中区中島町 1-2

電話：082-241-4004

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

広島平和記念資料館は、原子爆弾による被害の実相を世界の人々に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に気よすることを目的に、1955 年に開館した。

東館と本館の二つの建物で構成されており、東館では、被爆前の広島の歴史、原爆が投下されるまでの経緯、戦後の復興の歩みと現在の核兵器を巡る世界の状況などを紹介している。本館では、原爆の熱戦や爆風で傷ついた衣類などの遺品や被爆当時に撮影された写真や映像を展示し、1945 年 8 月 6 日に広島で何が起こったのかを生々しく伝えている。

東館地下 1 階の情報資料室では、原爆・平和に関する図書・雑誌・視聴覚資料などを閲覧できる。また、資料館ホームページ内の「平和データベース」

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/database/>からは、原爆、平和関連の映像や刊行物、写真、絵などの資料を検索・検索できる。このうち、被爆者の体験談をビデオに収録した「被爆者証言ビデオ」については、アジア出身の被爆者を含む約 200 人の証言を視聴することができる。

広島県立文書館

〒730-0052 広島市中区千田町 3-7-47 広島県情報プラザ内

電話：082-245-8444

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soumu/bunsyo/monjokan/index.htm>

1988 年に設立され、広島県に関する行政文書(公文書)、古文書その他の記録を収集保存し、資料の公開を行うほか、調査研究を行いその成果を『広島県立文書館紀要』などに公開している。収蔵資料は大きく分けて、行政文書、行政資料、古文書、複製資料、図書資料、新聞資料の 6 種に分類できる。

行政文書は、簿冊約 4 万 8400 点を公開している。戦後のものが中心であるが、明治、大正、昭和戦前期のものも一部含まれる。これらは、館内備え付けの『広島県行政文書簿冊目録』、『広島県行政文書概要目録』、『行政文書件名目録』により検索できる。

また、『広島県議会史』編纂のために収集された「県議会文書」約 850 点を収蔵している。広島県会が開設された 1879 年から 1947 年までの資料を収蔵しているが、これは後年になって戦災を免れたものを収集した資料群であるため、明治前半期のものがほとんど存在しない。これらは『広島県立文書館収蔵文書目録』2(1994 年)で検索できる。

●行政資料は、県作成の行政刊行物であり、約 68,800 点を収蔵している。昭和 30 年代以降のものが中心であるが、明治、大正、昭和戦前期の『広島県統計書』、『広島県勸業年報』なども含まれる。当館備え付けの『広島県刊行行政資料目録』での検索が可能である。

行政文書・行政資料・県議会資料の概要は、ホームページの「行政文書・行政資料」<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soumu/bunsyo/monjokan/sub4.htm>で紹介されている。

●古文書は、県内の旧家や団体、企業、収集家などから寄贈・寄託によって受け入れた文書約 217,000 点からなる。文書群の概要はホームページの「古文書」<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soumu/bunsyo/monjokan/sub6.htm>に紹介され、一部の目録は pdf の形で閲覧できる。また、『広島県立文書館収蔵文書目録』1～8(1994～2002 年)、同館備え付けの『県立文書館収蔵文書仮目録』により検索可能である。佐伯郡玖島村の名望家で、貴族院議員や衆議院議員を輩出した八田家の「安芸国佐伯郡玖島村 八田家文書」などの近代史料も多数含まれる。

「八田家文書」には、日清戦時に広島に大本営が置かれたことに関わる資料、同じく日清戦時の戦地からの書簡（第 5 師団長の野津道貫〈第 5 師団の司令部所在地は広島〉から

のものもある)、日清戦争・北清事変・日露戦争に際しての寄付に関わる資料、朝鮮での鉱山（金鉱山や黒鉛鉱）開発に関わる資料が含まれている。

●複製資料は、『広島県史』の編纂時に広島県内外から撮影によって収集した資料を中心とし、写真版約4万冊、マイクロフィルム約236万コマを所蔵している。各地の役場文書や学校所蔵の文書などの近代史料が多数含まれる。『広島県立文書館複製資料目録』1～4(1988～1996年)が刊行されており、また、館内には『県立文書館複製資料 仮目録』が備え付けられている。文書群の概要はホームページの「複製資料」<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soumu/bunsyo/monjokan/sub10.htm>で紹介されている。

●図書資料は、県内の市町村史誌や郷土史関係文献を所蔵している。

●新聞資料としては、『中国新聞』(M27.9～S43.12、一部欠有り)、『芸備日日新聞』(M27.9～T7.5、一部欠有り)のマイクロフィルム・紙焼きや、『日伯新聞』(サンパウロ、1924年1月～1939年6月)、『伯刺西爾時報』(サンパウロ、1917年9月～1941年8月、1947年1月～1952年12月)、『桜府日報』(サクラメント、1909年5月～1939年7月(1924年1月～1939年5月は欠))、『馬哇新聞』(ハワイ、1915年1月～1941年11月)、『日米』(サンフランシスコ、1919年1月～1932年5月)、『大陸日報』(バンクーバー、1908年1月～1941年12月)、『コロラド新聞』(デンバー、1911年2月～1917年11月、欠号有り)、『山東新聞』(デンバー、1917年3月～1918年1月、欠号有り)などといった海外邦字新聞の原本や複製を収蔵している。

他に、県内の移民関係者、海外の広島県出身者、国内外の資料所蔵機関から収集した「移住史関係写真」、県内の町村役場文書に含まれる広島県通達類を撮影して紙焼き製本した「町村役場通達類」といった資料を収蔵している。これらはそれぞれ備え付けの『広島県移住史写真目録』、『町村役場文書通達類件名目録』1～2より検索可能である。新聞資料および「移住史関係写真」「町村役場通達類」の概要はホームページの「各種資料」<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soumu/bunsyo/monjokan/sub11.htm>で紹介されている。

広島県立図書館

〒730-0052 広島市中区千田町 3-7-47 広島県情報プラザ内

電話：082-241-2299

<http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/>

1951年に広島市下中町に広島県児童図書館として設立され、1954年に広島県立図書館と改称された。現在は、別項の広島県立文書館とともに広島県情報プラザ内に設置されている。

図書約65万冊、雑誌・新聞約2,100タイトル、マイクロ資料、視聴覚資料などを所蔵し(2007年3月末現在)、本館ホームページの「広島県立図書館 蔵書検索」

<http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/hplib/hpzouken-fr.htm> から検索できる。刊行目録としては、『広島県立図書館蔵書目録』第1集～第5集（1967～1993年）、『広島県立図書館増加図書目録 1992年度版』（1994年）、『広島県立図書館増加図書目録 1995年度版』（1997年）などがある。

蔵書の中には、『広島県報』類（明治4～昭和25年）、『中国新聞』（明治25～昭和64年）、『朝日新聞』（大阪、明治12～昭和25年）などのマイクロフィルム資料が含まれる。

また、『清国・台湾・満州水産調査報告』（農商務省農務局ほか編、清国盛京省占領地塩業調査復命書ほか計6冊を広島県水産試験場で合冊製本したもの）もある。

他に、広島県山県郡南方村出身の学校教員、郷土史家の名田富太郎（1877-1965年）寄贈の資料779点からなる「名田文庫」を収蔵している。この中には「日本赤十字社関係書類」（「日本赤十字社広島支部病院建築書類」〈昭和10年1月、1冊〉、「広島県海外移住組合書類」〈昭和2年12月、2冊〉）、『布哇紹介寫真帖』（日布時事社、1929）などのほか、教科書類や山県郡の郷土史に関する文献が多数含まれる。これらの資料は、同館備え付けの「名田文庫目録 平成16年6月10日」から検索できる。

広島市公文書館

〒730-0051 広島市中区大手町 4-1-1

電話：082-243-2583

<http://www.city.hiroshima.jp/www/contents/00000000000000/1111463657188/index.html>

広島市は、1945年8月6日の原子爆弾被爆によって、公文書をはじめとする多くの歴史資料を焼失した。しかし、1971年からの広域合併により合併した多くの町村には、近世以降の公文書が保存されていたため、合併町村の公文書の散逸を防ぎ、また、町史・市史の編さんの過程で収集した資料類の体系的な保存・活用を図るため、その専門施設として1977年に広島市公文書館が設置された。同館では、歴史的な文書・資料などの収集、保存、閲覧や、市刊行物その他の行政資料の収集、閲覧、市刊行物の販売、市史の編纂などを行っている。

所蔵資料には役場文書、行政資料、市民からの寄贈資料、その他新聞や写真などがある。

役場文書は広島市と合併した町村の役場の文書で、2007年度末現在で39,659件になる。これらの史料の目録は、例えば『戸坂村役場文書目録』、『大林村役場文書目録』といった形で地域ごとに整理されている。

行政資料は、市が作成した基本構想や事業計画書、市勢要覧、年報、紀要類であり、戦後のものが中心である。『広島市行政資料目録 市政資料編』（広島市行政資料室（総務局行政管理課）、1986年3月）、『広島市行政資料目録 市政資料編追録』1～17（広島市公文

書館、1987年3月～2006年3月)などの目録が刊行されている。

市民からの寄贈資料には、近世期から戦後に至るまでの様々な史資料が含まれる。原爆投下直後の被爆者治療及び原子爆弾症に関する調査研究資料として「都築正男氏資料」が、また、「広島平和記念都市建設法」の制定過程に関する資料は、「藤本千万太氏資料」や「寺光忠氏資料」がある。『受贈資料目録』Ⅰ(広島市公文書館、1994年)、『受贈資料目録Ⅱ』(広島市公文書館、2007年)には、これらの資料の年代、作成者、形態などが一件ごとに記載されている。

この他に、戦前の行政ポスターやチラシ、戦前、戦後の市街地撮影写真や絵はがきなどを所蔵している。これらについては、『写真目録』(広島市公文書館、2006年)、『絵はがき目録』(広島市公文書館、2005年)といった目録が存在する。また、『芸備日日新聞』(明治27年9月～大正7年5月、一部欠号あり)、『中国新聞』(明治25年5月～平成15年7月、一部欠号あり)、『朝日新聞』広島版(大正4年10月～平成13年12月、一部欠号あり)、『県報』等広島県の広報(明治7～明治44年)のマイクロフィルムも所蔵し、利用に供している。

資料の一部はホームページの「歴史資料の収集・閲覧」
<http://www.city.hiroshima.jp/www/contents/0000000000000/1111067290570/index.html>
 に紹介されている。

広島大学 文書館

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

電話：082-424-6050

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/>

広島大学にとって重要な文書の保存・整理並びに大学の歴史に関する記録の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うことを目的として、2004年に設置された。

同館では、大学創設以来の法人文書約 8,000 点、法人文書以外の大学に関わる文書や大学史に関わる公刊物等(大学創設以前の旧制諸学校資料を含む)約 5,000 点および歴代学長や役職員の立場にあった主要な教職員に関する資料をはじめ、広島大学に関係する個人文書約 120,000 点を所蔵し、学内外の利用に供されている。

法人文書は昭和 24 年の開学から現在までの非現用および半現用文書を所蔵し、平成 16 年の国立大学法人化以前の整理済みの文書を中心に約 4,000 点を公開している。これについては同館備え付けの「移管法人文書目録」により検索できる。

大型個人資料群として、「森戸辰男記念文庫」や、広島大学関係者の携わった原爆被害の実態解明や平和への取り組みに関わる資料を集積した「平和学術文庫」、旧制広島高等師範学校の卒業生でベストセラー作家であった梶山季之の生涯にわたる資料を集積した「梶山

季之文庫」といった特殊文庫が設けられている。

「森戸辰男記念文庫」は片山内閣、芦田内閣の文部大臣を務め、その後広島大学初代学長に就任した社会政策学者の森戸辰男の公文書、私文書を中心に収蔵している。文部大臣時代の中央教育審議会関係・教育関係の資料 42 箱と閣議関係の資料 16 箱からなる片山・芦田内閣閣議資料 58 箱と、夫人の森戸富仁子寄贈の私文書 10,500 点からなり、目録は森戸文書研究会編「広島大学所蔵森戸辰男関係文書目録」上・下巻(広島、2002 年)が編まれ、PDF データがホームページの「森戸辰男記念文庫」<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/catalog/morito.html> で公開されている。

広島大学が所蔵する森戸にかかわる資料は、この「森戸辰男関係文書」と、別項の中央図書館に収蔵されている書籍中心の「森戸文庫」からなる。その一部の文書 254 点(教育刷新委員会関係および中央教育審議会関係)については文書館のホームページ「森戸辰男記念文庫」(前掲 URL)にて画像で閲覧することができる(画像と「解題」とは中央図書館のホームページでも公開されている)。森戸関連の資料は、広島大学のほか、広島修道大学や日本女子大学、獨協大学、国立国会図書館、労働科学研究所、富士政治大学校附属図書館、横浜市史編纂室、法政大学大原社会問題研究所、福山市教育委員会などにも収蔵されており、これらの資料の来歴や森戸辰男の履歴などについては「森戸辰男関係文書解題」<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/catalog/morito/volume01/morito0100-2kaidai.pdf> が参考となる。

なお、「森戸辰男関係文書」の一部は小池聖一(森戸文書研究会代表)監修「森戸辰男関係文書片山・芦田政権下「閣議」関係文書マイクロ版集成」(丸善、2000 年)としてマイクロ化されている。

「平和学術文庫」と「梶山季之文庫」については資料の受け入れを継続中であり、「平和学術文庫」の大牟田稔関係文書、金井利博関係文書、平岡敬関係文書が部分公開されている状況である。目録の PDF データをホームページの「平和学術文庫」<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/catalog/peace.html> で入手することができるほか、当該目録を附録した「被爆地広島の復興過程における新聞人と報道に関する調査研究」(財団法人三菱財団人文科学研究助成(平成 19 年度)研究報告書, 研究代表小池聖一, 広島, 2009 年 3 月)が編まれている。また韓国人・朝鮮人被爆者問題関係史料については広島大学文書館編「平岡敬関係文書目録」(IPSHU 研究報告シリーズ 34, 広島, 2005 年)が編まれている。金井文書については同館備え付けの「金井利博関係文書目録」により検索できる。

旧制諸学校資料の大型資料群として「旧制広島高等学校資料」も持つ。旧制広島高校の教員及び卒業者によって寄贈された著書類 447 点、教科書類 145 点、文芸誌・会誌類 99 点、「広島高等学校一覧」、「広島高等学校学則」などの広島高校の刊行物を含む書類 609 点、写真類 257 点、絵葉書・ポスターなど 28 点などを含む 2,119 点からなる。ホームページの「広島高等学校資料」<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/catalog/hiroko.html> から PDF データを入手することができるほか、広島大学文書館編「広島高等学校資料目録」(広島,

2008年)が編まれている。

個人文書としては約70の個人・団体から寄贈・寄託を受けた文書が所蔵されており、整理済みの資料群から順次公開されている。

広島大学 中央図書館

〒739-8512 東広島市鏡山 1-2-2

電話：082-424-6214

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

広島大学は、1949年に、広島文理科大学、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校及び広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して設置された。1980年代に東広島の新キャンパスへの移転を開始し、現在では中央図書館をはじめとする主要施設は東広島キャンパス内に設置されている。

広島大学図書館は、東広島キャンパス内にある中央図書館、東図書館、西図書館と、広島市内の霞キャンパスにある霞図書館、東千田キャンパスにある東千田図書館から構成されるが、アジア歴史資料に該当する資料の多くは中央図書館に収蔵されている。なお、広島高等師範学校図書館、その後身である広島文理科大学附属図書館時代の蔵書は、1945年の原子爆弾投下によりその大半が失われている。

中央図書館では、コレクションを「A. 特別集書」「B. 寄託図書」「C. 大型コレクション」の三つに区分している。

「A. 特別集書」は、広島大学ゆかりの人々からの寄贈図書や、東広島キャンパス移転の際に各研究室から移管された資料群で、次のようなものを含む。

「森戸文庫」：元文部大臣、元広島大学長、森戸辰男博士の旧蔵資料。

「石井文庫」：元広島大学法学部教授、石井金一郎博士の旧蔵資料。

「浦文庫」：元広島大学文学部教授、浦廉一博士の旧蔵資料。近世東アジア諸国国際関係史、朝鮮史関係、台湾関係、さらに国姓爺合戦で有名な鄭氏関係、長崎・津島関係等、東洋史を主とする史学関係資料が豊富に取り揃えてある。

「気象文庫」：広島气象台旧蔵の気象関係資料。主として大正・昭和期の資料であるが、古くは明治20年代のものや日本国内及び第二次世界大戦以前の樺太・朝鮮・中国・台湾等の周辺地域も含んでいる。

「教科書コレクション」：近世末から現代にかけての初等教育から高等教育の教科書コレクション。

「中国五県土地租税資料文庫」：慶長から明治中期までの中国五県の土地及び租税制度に関する資料群。

「転用図書」：江田島の海軍兵学校教育参考館から疎開した資料の一部。

「三井文庫」：三井本社からの寄贈資料。戦前の経済、貿易関係の資料が中心。

「B. 寄託図書」は一般の人々から寄託された資料群で、近世文書のみである。「C. 大型コレクション」は全国共同利用図書のことで、ソビエト革命期から 1980 年代にわたるソ連の国民生活、社会、経済、政治の膨大な記録からなる「旧ソビエト共産党・ソ連機密文書集成 文書・資料目録」が含まれている。

これらの資料の詳細は、ホームページ内の「学内コレクション一覧」<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/zosho/zosho.html> が参考となる。各資料群には、カード目録や冊子目録、web 目録のいずれか、または複数の目録が作成されているが、どのような目録が作成されており、どのような検索方法が可能であるのか、また、収蔵場所はどこかもあわせて知ることができる。なお、一部の資料については、「OPAC」<http://opac.lib.hiroshima-u.ac.jp/>での検索も可能である。

同館ホームページの「デジタル郷土図書館」<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/dc/kyodo/>では、「中国五県土地租税資料文庫」「教科書コレクション」「森戸辰男関係史料」などの一部を画像化したものや解題を閲覧することができ、郷土広島に関連する図書の検索も可能である。

この他にも、マイクロフィルム版の新聞や雑誌、広島大学平和科学研究センターが収集した平和学関連資料からなる「平和学コレクション」など数多くの資料を所蔵している。詳細は前述の「学内コレクション一覧」に記載されている。

広島経済大学 図書館

〒731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1

電話：082-871-1662

<http://www.hue.ac.jp/lib/>

1967年に中国・四国地方唯一の経済専門大学として設立された。図書館は1967年の開学と同時に開設され、2000年に新図書館が完成した。蔵書数(2008年3月31日現在)は、図書400,192冊(和漢書289,511冊、洋書100,681冊)、学術雑誌4,402種(和雑誌3,248種、洋雑誌1,154種)である。

同館では、以下のような文庫・コレクションを持つ。概要については「文庫・コレクション」<http://www.hue.ac.jp/lib/doc/collection.html>を参照。

- ・「福島文庫」：同学名誉教授の福島文人教授の旧蔵書。経済学を主体にした図書1,403冊(和書1,216冊、洋書187冊)、雑誌約20タイトル。
- ・「梅田文庫」：経済学者福田徳三博士の門下生で、大分大学及び福岡大学の経済学部長を務めた故梅田政勝教授の旧蔵書。経済理論を中心とした経済学関係図書2,642冊(和書

1,812 冊、洋書 830 冊)、雑誌 125 タイトル。『蘭領爪哇視察報告書—爪哇糖業の現在及将来—』(永岡芳輔著、実業時代社、1935)などのアジア関連資料を含む。

- ・「奥田文庫」: 同学元経済学部長で名誉教授の奥田秋夫教授の旧蔵書。経済学史・経済思想史を中心とした図書 4,490 冊 (和書 3,851 冊、洋書約 639 冊) と雑誌 138 タイトル。『朝鮮事情—原名高麗史略—』(榎本武揚訳、集成館、1882)や『満州国』(満州国国務院弘報処監修、朝日新聞社、1940)といったアジア関連資料を含む。
- ・「市村文庫」: 同学元副学長、元専務理事の故市村秀志教授の旧蔵書。教育学関係図書約 1,500 冊 (和書 1,350 冊、洋書 150 冊)。
- ・「森文庫」: 同学元教授の森文三郎教授の旧蔵書。図書 792 冊 (和書 571 冊、洋書 221 冊)。
- ・「稲葉文庫」: 同学及び神戸大学名誉教授の稲葉襄教授の旧蔵書。経済・経営学関係の図書 2,789 冊 (和書 2,345 冊、洋書 444 冊)。『東亜交通論集』(東亜交通学会編集・発行、1942)などの戦時下アジアの交通、運輸に関する資料を含む。

これらのうち、「福島文庫」「梅田文庫」「奥田文庫」「稲葉文庫」については、それぞれ『福島文庫目録』(広島経済大学図書館、1992)、『梅田文庫目録』(広島経済大学図書館、1989)、『奥田文庫目録』(広島経済大学図書館、1990)、『稲葉文庫目録』(広島経済大学図書館、2002)が刊行されている。

その他の文庫、コレクションの目録は作成されていないが、図書は全て「KEINS」<http://opac1.hue.ac.jp/scripts/mgwms32.dll?MGWLPN=F06UNI&RTN=ENT^F06510> から検索可能である。

山口県

下関市立長府図書館・下関文書館

〒752-0967 山口県下関市長府宮の内町 1-30

電話：0832-245-0328

<http://www.library.shimonoseki.yamaguchi.jp/>

1909年に私立豊浦郡教育会付設豊浦図書館として忌宮神社の境内に開館し、その後に長府町に移管されて長府図書館と改称し、1937年の下関市との合併により下関市立長府図書館となる。約13万冊を収蔵。

同館は創設以来の歴史が古く戦災にもあわなかったことから、下関市立図書館6館の中では最も多くの明治・大正・昭和戦前期の資料を収蔵する。その中には、網羅的ではないが朝鮮総督府刊行物や朝鮮水産組合の月報、台湾総督府刊行物などのほか、数は多くないが南洋庁や樺太庁の刊行物など、全体で約250冊のアジア歴史資料が含まれている。下関市立図書館のOPAC「本をさがす」
http://www.library.shimonoseki.yamaguchi.jp/cgi-bin/Sopesmin.sh?p_mode=1&list_cnt=10から検索が可能である。

また、同館の附属施設に下関文書館があり、長府毛利藩関係の古文書をはじめとする私文書が収蔵されている。近世文書が中心であるが、このうち、「毛利家文書」には幕末に下関で英・米・仏・蘭4カ国連合艦隊と交戦した「攘夷戦」の関連文書が含まれている。また、乃木希典の遺言に基づいて寄贈された乃木旧蔵書（学習院に寄贈されたものの残り）を核とする「乃木文庫」には、系統的ではないが日清戦争、台湾関連、陸軍関係の刊行資料が含まれている。この両者の目録は、下関文書館編・刊『郷土資料目録1』（1967年）がある。

下関市立長府博物館

〒752-0979 山口県下関市長府川端 1-2-5

電話：0832-245-0555

<http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/kyoiku/chohuhak/index.html>

1933年に設立された長門尊攘堂を前身として、戦後は財団法人長府博物館となり、1980年に「下関の歴史と文化」を基本テーマとする市立博物館となる。

収蔵品は長府毛利家遺品・幕末維新資料を中心とするが、乃木希典の遺書などの展示がある（乃木希典の遺品は、近郊の「乃木神社宝物館」にも展示がある）。

下関は古くからアジアとの接点であったことから、同館では、朝鮮通信使・阿蘭陀商館長の江戸参府・琉球使節の江戸上り・下関戦争などを通観した特別展を開催しており、図録として『東アジアのなかの下関―近世下関の対外交渉』（1996年）が刊行されている。

日清講和記念館(春帆楼)

〒750-8521 山口県下関市阿弥陀寺町 4-3

電話：083-254-4697（下関市教育委員会文化財保護課）

<http://www.shunpanro.com/history.html>

日清戦争の講和をめざして 1895 年 3 月 20 日から同年 4 月 17 日まで日清講和会議が開催され、下関条約の調印に至る会場となった料亭「春帆楼」の敷地内に、下関市が 1937 年に建設した記念館。講和会議の部屋を再現し、使用された調度品のほか、日本全権の伊藤博文、陸奥宗光、清国全権の李鴻章の遺墨、額物、屏風、写真などを展示している。

福岡県

国際友好記念図書館

〒801-0853 北九州市門司区東港町 1-12

電話 : 093-331-5446

http://www.city.kitakyushu.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&N_EXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=12454

北九州市と中国・大連市の友好都市締結 15 周年を記念して、1995 年に開設。建物は、1902 年に帝政ロシアが大連に建設したドイツ風の東清鉄道汽船会社事務所（後に大連倶楽部、日本橋図書館）を複製したもの。

2 階はアジア地域の文献（近年の新しい刊行本のみ）を収蔵した図書館、3 階は友好都市の資料展示室になっており、3 階の一角に満州や大連に関連する復刻図書・写真集などが集められている。